
銀☆魂Destiny

次陣村

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀☆魂Destiny

【Nコード】

N1528M

【作者名】

次村陣八

【あらすじ】

何時も道理定春の散歩を（神楽から強要され）している銀時、その途中、定春は行き成り走り出す。
それを追いかけて、その末銀時が見たものとは……？

※盛り上げてみました。（あらすじを）

※誤字脱字、文章的キャラ的ミスの指摘を求む。自分じゃ分からないので。

第0. 25訓「日常風景は大事に」(前書き)

ども、陣八です、この度はこの小説を読んでいただき、誠に有難うございます、ええ、先ず言っておくことがあります、それは、ぶっちゃけこれノリで書きました、理由も一応あります、それはらき☆すたと銀魂のクロスを見たことないので、自分で書きました。もしどこが間違っただら教えてもらえると嬉しいです。後感想もお願いします。それじゃ

桂「銀☆魂d e s t i n y、活目せよ」

※2011／10／22

書き直しました

第0. 25訓「日常風景は大事に」

「侍の国―僕らの国がそう呼ばれていたのは今は昔の話。二十年前、突如宇宙より舞い降りた天人の台頭と廃刀令により、侍は衰退の一途を辿っていた。そんなおり、侍の魂を持った男が一人。その名は坂田銀時。ひょんなこと「うるせえな、何言ってるんだよ、新八。ついに狂っちまったのか？」」

「しょうがないヨ。もうそろそろあの日がくる時期アル。自分をコントロール出来なくなるのは普通ネ。」

と、此処は歌舞伎町にある、万事屋銀ちゃんなる、何でもやる仕事をして居る店。そのリビンググである。

其処で、手に何やら本―タイトルは台本という―を突然読み上げる眼鏡を掛けた、地味と言う言葉をその身で示した様な少年―志村新八。

それに、机に足を掛け、椅子の背もたれに上体を放り出したように座っている、遂に来ちゃったか見たいな顔をして、何処か諦めているような気怠げな声でツツコミを入れる銀髪天然パーマ―坂田銀時。

そして、来て当然の様な顔をして、意味不明な言葉を、チャイナ風な感じにしゃべる、これまたいかにもチャイナ風な服を着た少女―神楽。

「なんだよ、ついにつて！そんないつか狂うような風に言うな！つか神楽ちゃん！なんだよ、あの日って！男の子にはな、その日は無いんだよ！！」

「その日ってなんだヨ？」

「惚けるなァ！」

リビングに二つ、テーブルを挟むようにして置いてあるソファアーの上に寝転がってる神楽をビシッと指差し、ツツコミを入れる新八。

そんな日常風景。

だがしかし、この日常がこの後直ぐに崩壊すると知る物は、まだ居なかった。

第0・25訓「日常風景は大事に」（後書き）

スナックすまいる

作「あゝ終ったなゝゝ」

銀「そうだな、プロローグやっとおわっ…」

作「あ、まだですよ！」

神「そうアル、まだ二つも作品残ってるネ」

新「そうですね、たしからき☆すたとTOD2ごとテイルズオブデステニー12だったけ」

作「うん、そうだよ、ま!のんびりやろうや!」

神「そうネ、んじゃ最後にみんなで…」

三人「次回をお楽しみに（アル）」

※

順番に直して行きたいと思います

第0. 5訓「偶然に見えて実は必然」(前書き)

物凄く短いです、ごめんなさい

これはテイルズサイドのプロローグ

タイトルの原因は後書きにあります

第0・5訓「偶然に見えて実は必然」

第0・5訓「偶然に見えて実は必然」

s i e d カイル

オレはジュダースの言う事を聞いて、城から逃げる様に出た、そして後から来たリアラと一緒に町を観て、公園でお喋りしてたら急に飛行竜が飛んで来て、合流したロニとジュダースと一緒に謁見の間に来た。回想終。

「ぐおっ！」

謁見の間に来たオレ達が一番見たものは、バルバトスに切られ、腹を押さえるウッドロウさんの姿だった。

「ウッドロウさん！」

オレは思わず叫んだ、そしてバルバトスは

「俺の役目は終わった、後はあの女の勝手だ。（小声で）早く帰ってワ○ピ○ス観てー。」

オレが反応する前にバルバトスは消えた、まあ、最後の方は聞こえなかった事で・・・

そんな事考えていると、リアラがなにかを考えた後、聞いた事の有る声が聞こえた。

???? 「どんな英雄も手を掛けるとは、実に彼らしい。」

そして、俺たちは声のした方へ向くと、其処に立っていたのは《聖女》と呼ばれたエルレインだった。

その瞬間、オレの思考が停止した（ぶっちゃけ台詞忘れたから）、そしてリアラの悲鳴が聞こえ、観てみると、リアラは白い光に包まれていた、オレはリアラの名前を叫びながらリアラに向かって走った。因みに、オレが最後に聞いた言葉はエルレインの「早く帰ってなのは観ない」と言う呟きだった。

第0. 5訓「偶然に見えて実は必然」(後書き)

作「お疲れさん〜」

エ「いえ、別に」

作「いや、もしなかったらこの小説続かなかった、協力ありがとうな」

エ「それより例のもの」

作「はい、なのはDVD全巻だったな、確かに渡したぞ」

第0・75訓「好奇心が猫を殺すって言葉があったけどあれって本当だわ」（前

らき☆すたの方のプロローグです。

実はらき☆すたのキャラがいまいち分からないので出し辛いです
というよりやっぱり短いです

ではご覧下さい

第0. 75訓「好奇心が猫を殺すって言葉があったけどあれって本当だわ」

第三訓「好奇心が猫を殺すって言葉があったけどあれって本当だわ」

とある学校のチャイムが従業の終了を告げる。

side こなた

今日の従業員も終え、皆で帰る事にした。

side end

こなた「え〜〜〜！もうおわり？」

と命知らずに聞いて来たのがこの物語のもう一人の主人公の《泉こなた》である。彼女高校生でありながら、背は六年生の時からずーと伸びてないという、あと重度なゲームオタクでも有る。

かがみ「いきなり何言ってるのよ？」

といつもこなたにナイスツッコミを入れるこの物語のもう一人のツッコミ役《柊かがみ》。因みに、自分は否定しているが、実は（大声で）ツンデレである。

ぶっちゃん！

ん？何のお・・・

柊さん、何でとある白い悪魔ごとの笑顔を浮べるんですか？

つかさ「お、お姉ちゃん、ど、どうしたの？」

と、と、とか、か、かがみを呼ぶのは《柊つかさ》。な、な、名前

から分かるたしゅうつ！・・・分るだろう、彼女はかがみの妹だ、そして双子なのにも関わらず、色々違うのだ。それじゃ、さようなら～～！

と逃げた作者を尻目に、彼らは家へ帰ろうとしたが

こなた「おっ！あれ何だ？」

と見た事も無いゲームセンターを指さしながら言う。

つかさ「あれ？こんな所にゲームセンターあったっけ？」

こなた「ほう～～？なん～か怪しいですな。」

かがみ「どこが！？どうみたって普通のゲーセンでしょ」

こなた「よし！」

二人「？」

こなた「皆であそ・・・調べてみよう！」

かがみ「おーい、今本音出たぞ！」

つかさ「でも確かにあそ・・・調べてみたいね！」

かがみ「つかさもこなたに合せなくても良いから！」

こなた「んじゃわたしとつかさだけで行くから。」

かがみ「まあ、ゲーセンなんてもう結構行ってないし、一緒に行ってやるか！」

こなた（ニヤッ）「本当は寂しがりやのかがみんであった！」

かがみ「うるさい！」

あれ？否定しないんだ！

とま～こんなコントやりながらゲーセンにはいったこなたら、そしてはいった途端、店が急に光だし、消えたという。

第0. 75訓「好奇心が猫を殺すって言葉があったけどあれって本当だわ」（後

作「いや〜ありがとうねウンケイ、カイケイ」

ウ「いや、俺たちの仕事がこれだ」

カ「で、金はどうするんだ」

作「：銀さんから取ってください」（超逃げ）

第1訓「人に名前を尋ねる時は先に自分から名乗れ」(前書き)

今回で合流です。

キャラが変わるかもしれませんが、そこは目お瞑ってください
次回は結構まが空くかもしれません

第1訓「人に名前を尋ねる時は先に自分から名乗れ」

第1訓 「人に名前を尋ねる時は先に自分から名乗れ」

ここはとある町の路口裏。前々回、エルレインに飛ばされたカイル一行はここで気絶してる。

銀時「おゝゝい！定春！お前どこに行くんだ、ちゃんと散歩しないともうおこつかいあげませんっ！と言うか、神楽の野郎、ちゃんと面倒見るアルつつだろ！こういうのは最後みんなお母さんがやる羽目になんだよ！つーか俺お母さん！？」

朝からお母さん状態の銀さんです、因みに、定春とは普通の犬より少しでかいのが定春だ。

銀時「定春待ってゝゝ！ちょっと待てつつたろこの馬鹿犬！！」

今、銀さんはまさに鬼じゃなく犬ごっここの最中だった。何故こうなったのかそれは・・・

散歩中・・・

←

定春が急に走り出した

←

現在

と言う物凄く分りやすい展開だった。

銀時「お前やっど追い・・・何じゃこりゃ！」

たった今、犬ごっこが終了し、銀さんは定春の居る路口裏に行き、叱ろうとしたが、固まってしまった。何故なら、路地裏で倒れている人達が居た。

銀時「オイ、何じゃこりゃ、大丈夫か!？」

返事がない、ただの屍のようだ。

銀時「息があるな、気絶しているだけか・・・ん?これは？」

とホッつとため息をした後、隣にある包みを見た。物凄く懐かしい感じがした、手に取ってみると・・・

銀時「って、オレが捨てたジャンブじゃねえかええええか!!」

しかも燃えるゴミの日になって・・・

銀時「良いんだよそんなこと、読むと燃えるから、それよりコイツら・・・ちっ!しょうがねえな、ウチに運ぶか!」

と言い、彼らを定春に乗せて、すぐ隣の自宅に運ぼうとした時・・・
ビカッー!

周りが急に光り出した!そしてすぐに光は消えるが、定春の背中にまた三人増えた。

銀時「なんなんだよ!何でこんなに人がこっちくんだよ!それにさっきの三人、ビカッーって古いよ!・・・まさか、ゆう・・・ないない!絶対じゃない!と言うより銀さん認めない!絶対に認めない!」

ブツブツ言いながら帰宅する銀時であった。

【改ページ】

場所を替え、今万事屋内部

神楽「大人しく言うアル、こいつら誰ネ？今なら十分の九殺しで許すアル」

新八「そうです銀さん、いくら黒神先生の小説の中でハーレムだとしても、此じゃ駄目なんです、いますぐ言ってください、それなら神楽ちゃんのあとさらに十分の九殺しで許します。」

銀時「ちよっ！駄目ええ！銀さん死ぬ！後新八！さりげにそれ出すな、もし駄目だったらどうすんの？」

いま、白い悪魔の如く威圧を放つ神楽と新八の前には、正座させられた銀時がいやゝな汗を滝のごとく流している。ま、そりゃあ散歩が終わって犬の背中にいるんな人が乗ってたらこう成るからして、而も気絶していると、さらに怪しくなる。

銀時「だから、散歩してたら、急に定春が走り出して、追いついたらが気絶してたから連れて来ただけだ！」

神楽「そんなわけないアル！何で定春が急に走らなければいけないネ？」

銀時「しるかー！寧ろオレが聞きたいわ！」

新八「銀さんいい加減白状して下さい！」

銀時「だから何を白状しなきゃいけないんだ！つうかさっきのが白状だ！」

???? 「んんゝ・・・」

あの、起きましたよこいつら！

銀時 「ん？」

?? 「んんゝ。此は？・・・はっ！そうだ、エルレインはどうした、リアラは？」

と起きたのは黄色髪ツンツン頭の少年、そして直に隣で気絶してる三人を起した。

銀時 「よ！起きたか。」

とりあえず挨拶する銀時

?? 「あ、ハイ。あのー、誰ですか？」

と聞くツンツン頭。

銀時 「オレか？オレは坂田銀時だ！銀さんって呼んでいいぜ！ここ
の万事屋のオーナーをやってる。よろしくな！」

カイル 「あっ！うん。オレはカイル、カイル・デュナミス！」

神楽 「あ、ずるいヨ銀ちゃんだけ。わたしは神楽アル、よろしくアル」

新八 「僕は志村新八です、よろしく。」

ロニ 「オレはロニだ！ロニ・デュナミス。」と挨拶したのは銀さん

と同じ髪の方。結構カッコイイ（自分の感想）のだが、ナンバ好き。

ジューダス「ジューダスと名乗っている。」

んん・・・。

銀時「どした？」

説明って仮面しかないけど、しかもツツコミ所満載の。

銀時「んじゃそう説明すれば良いじゃん。」

いや、なんか沢山人が怒るから良いか、はい次！

リアラ「リ、リアラともうします。」

どうやら先ほどの銀さんと作者の会話で引いてたらしく、おのこのしながら自己紹介をしたのは・・・

銀時「またどうした？」

いや、急にリアラって結構普通だなくって。

銀時「そっちの方が良いだろ、普通の方が。」

ま！そうだな。とりあえず晶術使いのリアラでした。

銀時「よし、これでぜん・・・」

??「うゝん・・・」

万事屋トリオ「あ！」

完全に忘れたな、クスクス・・・（笑い）

新八「いや、忘れたのあんただろ！」

すいません・・・

??「此は・・・、あれ？確かかがみんとつかさと一緒にゲーセン入ったら・・・あれ？あの後どうなったげ？」

銀時「よ！起きたか。」

とりあえず挨拶する銀時×2

?? 「あ！すいませんこれ両替してくれませんか？」

銀時「おっおう！」

思わずそうかえしてしまふ。

新八「ってちがうだろ！何で両替なんだよ！？気絶して起きた時にやる事ですか！？」

いつもながら凄いツツコミありがとう。でも、彼ら引いてますよ？そう、さっきの新八の変わりようは初見の人は大体引く。

?? 2 「んんゝ・・・」

?? 3 「ううゝ・・・」

?? 「あ！二人共起きた！」

?? 2 「此は？」

銀時「あつ、もう良いから、そう言うリアクションもう十分見たから。」

?? 2 「何よ？」

?? 3 「お姉ちゃん、何だか怖い。」

銀時「んじゃ面倒なので、さっさと自己紹介するぞ！」

以下略（さっきと同じ）

こなた「あたし泉こなた、んで、その狂暴そうなのがかがみん、もう一人はつかさ。」

なぜだろう、かがみの説明が妙に納得できる。

かがみ「ちよつと狂暴ってなんだよ！作者も納得するな！」

そう言うのと、こなたを追いかけ、5才児に出すようなゲンコツをした。

分りやすい・・・

銀時「んじゃ紹介もすんだし、どうしてそこで倒れたかを言え。」
そう言うと、仮面男ごとジュダースは

ジュダース「その前に一つ質問がある。」

銀八「はい、どーぞ。」

そういう銀時の姿が勺変した、ぶっちゃけ銀八先生になったのである。

ジューダス「真面目にやらんか！」

新八「ジューダスさん、いちいち気にしたら進みませんから」

お前が一番してる癖に・・・

新八「うるせー！」

ジューダス「ま、とにかくだ、ここはハイデルベルグか？」

万事屋トリオ「ハイ？」

ジューダス「違うのか？なら此は何処だ？」

銀時「もしもし？頭大丈夫？」

新八「此はかぶき町です。」

神楽「そうアル」

銀時「まさか、あれか？異世界からこんにちわできなあれ」

だれも喋らなかった。例えるならシーンだ！

銀時「え？もしかしてあだっちゃた？銀さんあだっちゃた？」

ジューダス「とりあえず地図をくれ。見慣れた場所があるかどうか
を見てみたい。」

銀時「あいよ！」

と引き出しから地図《宇宙をご案内》を出した。

銀時「どう？分る所あるか？」

新八「分る訳あるかあああああ！！」

新八は銀時にツッコミドロップキックを使った。音の割に痛くなかった。

新八「何で惑星案内渡してんだ！普通ので良いだろ！ハイ、これを見て下さい。」

ジューダス「・・・ない。」

カイル「なにになになに？」

ロニ「なんじゃこりゃ・・・」

リアラ「う、うそ、そんな・・・」

因みに、今は万事屋リビングのテーブルに囲む様に座ってる。左からロニ、ジューダス、リアラ、神楽、こなた、つかさ、かがみ、新八、銀時の順だ。

だからカイルは地図が見えない

ジューダス「ない。ハイデルベルグもアイグレッデも。」

カイル「そんな・・・」

ロニ「クリスタもない」

銀時「盛り下がってるどこすいませんが、銀さんの話聞いてた？」

デス組「あ！」

らき組「あ！」

そう、此は彼らにとっては異世界、聞き慣れた地名がある方がおかしい。

銀時「んじゃ、どうしてそこで消えたか、教えて貰えるか？」

こなた「わたしから！」

手を上げるこなた、つうか学校じゃないからね！

—————

説明中・・・

—————

説明し終わると、らき組とジューダス以外は笑いを堪えている。

こなた「なんだよ、ほんと酷い目に会ったんだから！」

銀時「だってゲーセンに釣られたって・・・ぶぶー！」

神楽「もう駄目ネ。ははははははは！」

笑い出す神楽、それに釣られ、我慢してた人も笑い出す。

うん、我ながら良い罠を作ったものだ。

こなた「まだ笑うか、ならば！」

こなたは何処からかガン〇ムWのバスター・ライフルを取り出し、笑っている全員に向けた。

それを見た銀時達は、

全員（笑った人）「スイマセンデシター」

と土下座しながら片言で謝ったか。

新八「あれ？こなたさん、それは何処で・・・」

こなた「あ、これね。作者から貰いました（笑）」

万事屋トリオ「あんのクソさ・・・」

言い終える前に、百〇のメガ・パズ〇カ・ランチャーに似た光線が万事屋トリオを呑みこんだ。ぶっちゃけ作者からです（笑）。

銀時（憶えてろ、くそ作者め）

カイル「銀さん、自分の為にもやらないで下さい。」

カイル以外「エスバー!?!」

こなた「後、作者さっきなんて言った？」

ライフルをこっちに向く。こなたさん、やめた方が良いですよ？

こなたはアフロ焦げしてる万事屋トリオを見て、ゾツとしてライフルをしまった。

銀時「よし、んじゃ今から一番大事な事はなんだと思うかね？諸君ら。」

「ウツドロウさんがどうなったのか？」とカイル

「ナンバじゃね？」とロニ

「どう（やってもどるかだ）（やたら戻れるか、ですね）」とまともな二人、リアラと仮面ストーカー。「今なんて言った」と聞こえるが、気のせいだろ。

「ゲーム」と青毛ロリっこオタク。

「あれれ？今さりげに酷い事言っていない？」

大丈夫っすよ、気のせいじゃないから。

まだ何かが聞こえるが、スルーしよう。

「あしたの勉強しないと」真面目なかがみんであった。あ、今のこなただから、証拠にかがみがこなたを追いかけてる。

「わたしはなにしようかな？」呑気なつかさ

銀時「いゝや！今一番重要なのは・・・」

全員「なのは・・・」

外の白い人形の飛行物体は気にしない気にしない。

【改ページ】

銀時「とと、ととりあえずたたた、たタイム○シンを・・・」頭をテーブルの下につっこんてガタガタ震えながらいった。

新八「あんたが落ち着けえええ！何をいうかと思ったら、全然話について来てないんですか！？つうかまたそれですか！？」

的確にツッコミを入れるツッコ・・・新八。

新八「役割で呼ぶな！」

神楽「うるさいヨジミー。黙って人の話を聞くヨロシ。」

銀時「まー要するに還るには時間が必要だろ？それまで何処に泊まるんだ？」

全員「あ！」

どうやら全然考えてないようだ。

銀時「で、考えが有るけどさ。お前らうちで住み込みで働くってのはどうよ？」

カイル「いいね、それ！」

ロニ「ああ、そうだな！それに万事屋って面白そうだし」

ジューダス「僕は構わん、好きにしろ。」

リアラ「わたしもいいです。」

テイルズ組はokしたようだ。

こなた「あたしも！なんか面白そうだし。」

かがみ「あたしはちよつと・・・」

つかさ「お姉ちゃんどうしたの？」

かがみ「ただここでじゃちょっと狭いんじゃないかなって。」

銀時「あ！」

新八「あつ、それでしたら、うちで泊まります？うち広いし、姉上も喜ぶだろうし」

こなた「あれ？メガネさんのいえってひろいの？」

新八「メガネって何だ！？・・・ま、うち道場やってますから。」

かがみ「まああそれだったら良いけど。」

つかさ「あたしも賛成。」

らき組も大丈夫様だな。

そんじや今から重大発表です。

銀時「んだよ。んなのきいてねえよ！」

言ってませんからね。内容は、らき組とテイルズ組のキャラ変化についてだ。

こなた「なにっ！」

カイル「なんだって！？」

それでは、以下の道理です。

らき組

こなた―――ボケ主力1

かがみ―――ツツコミ

つかさ―――ボケキャラへ

以上、らき組です

こなた「あたしとかがみんないつもどうりね」

かがみ「確かにそうだがなんか納得いかない。」

つかさ「あたしがボケキャラニ・・・」

はい次！

テイルズ組

カイル―――馬鹿ボケ

ロニー―――ナンバボケとツツコミ

ジューダスとリアラー―――アンケートで

全員「何でだろ、カイルのは凄く納得が行く」

全員の声が見事にハモった

カイル「なんだよ、皆馬鹿馬鹿言うなよな!？」少し怒っている。
しんばいすんな、まだ言うから。

新八「何をしんばいするんですか!？まだいう言うんですか!？」

黙れ、オタクメガネ。メガネ割ってただのオタクにしてやろうか？
新八「なんだと!?!？」

カイル「ロニのも分るとして、リアラとジューダスのは何なの？」
あそれね。リアラとジューダスはどうか、読者様に決めて貰う
と言う事で、

こなた「好きな選択を以下の電話・・・ちよつと、電話出ないじゃ
ん!」

かがみ「いや、これ生放送じゃないから。」

さすかがみ、ツツコミがさえてるね。

銀時「とまゝ冗談はこの辺にして、自分の考えを感想に書いてくれ
よ!」

因みに、もしなかったらこう成ります

ジーーーーしつかりツツコミ

リーーーー普通

になります(笑)

銀時「じゃ、ばつつあん。今日はもう遅いから、うちでとまっとけ。
」

全員が外を覗てみると、ついさっきまでただ沈み掛けている空が真
っ暗になった。

新八「何でたああ!!なんでさっきまで有った太陽が十分もしない
うちにしずんでんだああ!!」

オレがサテラ○トキ○ノ○で沈めました。

かがみ「違うでしょう!違う意味で沈んだんでしょ!!」

こなた「さっきやらなくてよかった・・・」

オレの発言にツツコムかがみとやらなくてよかったと胸をなで下ろ

すこなた

だろ？

銀時「んじゃ男子はリビング、女子は中、神楽はいつもの所な！」

神楽「了解ネ」

新八「僕は？」

銀時「お前は適当にトイレ辺りで寝てろ！」

新八「なんでだあああ！何でまた僕だけこんな扱いいいい！？」

銀時「じゃおやすみ！」

全員「おやすみ！」

こうして大変な一日が終わった。

第1訓「人に名前を尋ねる時は先に自分から名乗れ」(後書き)

一話からアンケートです(笑)

以降ガンダムネタがよく出ると思います(爆笑)

第2訓「消灯時間を守る子供って今時ある？」（前書き）

オッス、オラ陣八。この小説を読むときは必ず水を飲まないで下さい。

今回はかなりカオスです、後、修学旅行の気分で読んで貰えると嬉しいです（笑）

第2訓「消灯時間を守る子供って今時ある？」

第2訓「消灯時間を守る子供って今時ある？」

場所は万事屋リビング、時は深夜、さらに言えば修学旅行消灯時間後。

今、銀時、メガネザルとドリッパの諸君が何やら話をしている。

銀時「オッス、オラ銀時、オラ何かあまあますっそ。」

新八「あまあまってなんだああああ！！後作者、さっきさりげに僕のこと馬鹿にしてない！！？」

新八が小声でツツコンだ。

カイル「おお！凄い、銀さんの言う通り凄い！」

ロニ「流石江戸一番のツツコミ使って所だな！」

ジューダス「あれを僕もやらなければいけないのか？」

はい、読者様の選択によっては

銀時「はい、これを見て貰いたい。」

と言ってボードを一つだし、上に貼ってあるシルエットを剥がす。

すると載ってたのは、スー○○○○人の

銀時「銀田さんです」

こう成るか、

新八「どんだけええええええ！！って言わせんなああ！！まだこれですかあ！？こんな（いろんな意味で）危ないもん載せるな！！」
こう成る訳だよ。

ジューダス「どっちにもならん!!っは!」

おお、ツツコミになりそうなジューダス。

ジューダス「なるか!」

んじゃちよつとボケてみ

俺はバナナの皮を出し、ジューダスの足元に捨て、ジューダスは勢い良くそれを踏んでこけた。

けんこう良いじゃん、あんた。ノリ最高だよ?

ジューダス「うるさい!!」

銀時「はいそこ独り言を言わない!」

俺居るんだけど。

銀時「おい新八、なんか聞こえるのは気のせいだよな。」

新八「そうですね」

銀さんとメジミー、殺りますよ?

銀時「出来るもんならやってみろ!」

新八「そうだそうだ!」

ロニ「あんたら全然懲りないんだな・・・」

カイル「ロニも人の事言えないよ。」

今、このリビングで何が起きているかというところ、何か眠れないな↓んじゃお互い色々喋ろうか? できなあれである。、さっきのは銀さんが新八《江戸一番のツツコミ使い》の話聞いて、見てみたい!と強く願ったので、銀さんとツツコミによるコントで見せた。

新八「役割で呼ぶな!!」

銀時「んじゃメガネでよんで良い? それとも○○○とか○○○○が良い?」

新八「それやばいから! ていうか普通に新八で呼べ!」

何を言ったのかは読者の想像に任せます(笑)

銀時「それにさ、コイツお通つていうアイドルのファンだぜ? オタクと呼ばれても文句なしなぐらい。」

そう、前もいったが、実はお通が絡むと、新八の戦闘力とはあるわくわくサイヤ人も青ざめる位である。更に、その親衛隊隊規を破ら

れると、とある白い魔王も涙顔になる位の気迫である

新八「ちよっと！嘘もいい加減にしろや！！確かに強くなるかも知れないけど、そんなにまではならないから！」

はい！嘘です！本当は十年もの剣術修業を重ねたのに普通の人より戦闘力が8kしか高くないもんね！

新八「ちょ！何言い出すんですか？ちょ！皆辞めてくれない？その目、そんな目で僕を見ないでください！」

皆から何か冷たい視線を貰い、慌てて言い出す新八。

銀時「んじゃ次！カイルな！」

ロニ「こいつの事なら俺が聞かせてやろう！」

カイル「いいよロニ。俺自分で言うからさ！」

ロニ「いいや！俺が言う！お前じゃ色々と忘れただろ！？」

カイル「そんなこと無いよ！自分の事位憶えているよ！・・・たぶん。」

ロニ「んじゃ聴くが、お前五才に何が起きたのかな？」

カイル「・・・何だっけな？」

ロニ「ほら！憶えてないだろ？」

カイル「うう・・・」

銀時「何が起きたんだ？早く教えろよ！」

？？「そうネ！私も興味あるアル！」

全員「あるある？」

全員が後ろを向くと、そこには興味津々な女性陣がいた。

新八「何時からそこに？」

神楽「最初からアル！」

かがみ「なんかうるさいから来てみれば、あたしら抜きにこんな事をして・・・（ゴゴゴゴゴゴゴ・・・）」

つかさ「お姉ちゃん・・・（泣）」

こなた「本当は寂しがりやのかがみんであった！」

かがみが言い出すと、満面の笑みでこちらを見る、目は笑ってないが。しかも何かどす黒い何かが出ている。

いま、普通に居られるのはこなたのみ、つかさ、リアラは涙目になり、カイル、ロニ、銀時、新八は土下座しながら「ゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイゴメンナサイ」と呪文の様に言っている。ジューダスは至って普通だが、よく見ると嫌な汗でだらだらである。

銀時「すいませんでしたあああああ！なんか、もう寝てるんじゃないかな〜って思ったから！本っ当にすいませんでしたああああああああああああああ！！！」

改めて土下座して誤る銀時をみてなんとかな○は並の威圧が消えた。かがみ「まっ！私達の為に呼ばなかったし、今回は許してやるか！」
銀時「“今回は”ってことは、次は・・・」

かがみ「楽に逝かすよ！」

新八「ちよっとおおおおおおお！字が違ううううううううううううううう！」

この世にこれ以上ない笑顔で言い出すかがみに震えながら条件反射にツッコミ新八。悲しい習慣だね！

こなた「ツンデレかがみん萌え〜！」

銀時「これ違うからね！」

新八「そうですよ！どこの世界にツンデレでな○はになる人が居ますか！」

かがみ「もう私の事はいいわよね？（ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ）全員「ハイ、ソウデスネ！」

かがみの黒いオーラに全員（ジューダス入り）が片言で返す。

ロニ「ンジャ、ハナシヲモドスガ、コイツガゴサイノドキ・・・」

ロニクン、モウカタコトヲツカワナイデクダサイ、カキヅライ。

新八「いや、あんたも使ってるじゃん！お前も怖いのか？」

なに？怖いってなにwhat？誰か怖いって感情を教えてください・・・かがみ「・・・・・・（ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ）」

スイマセンデシタ、チヨウシニノリマシタ、モウシマセン・・・（永遠に繰り返す）

ロニ「ゴホン！ んじゃ続けるぞ！」

そう言うとかがみが黒いオーラを消し、ロニの話を聴く、作者も復活した。

ロニ「こいつが五歳の時にな、自分のおねしょうを宝の地図と言い張って俺たちを連れ回して、最後には“絶対に宝を見付けでやる！”

”とか言い出してよ！」

カイル「わわわ！ ロニまたそんな事憶えてるの！？」

銀時「妄想癖と冒険マニアが組み合うとこんなにも厄介とは・・・！」

ロニ「当たり前だ！ どれだけ穴掘らされたと思ってんだ！！」
新八「しかも自分で掘らないとは・・・」

神楽「酷いネ！ 人類の敵ネ！ しばらく私に話し掛けないで！」
かがみ「こなたにファミマーに連れられるより酷いな・・・」
つかさ「こんな人だとは思わなかったよ・・・」

こなた「この海は、地獄だ！」

ジューダス・リアラ「・・・」

全員がカイルから少なくとも一メートル離れた。

カイル「なんだよその反応、オレだってちゃんと掘ったよ」

全員「・・・（じーーーー）」

カイルはかなりの精神ダメージを受けた。

銀時「なんか話をする気も失せたわ、皆ねるぞ！」

全員（カイル以外）「おおー」（低テンション）

銀時「おい、カイ・・・馬鹿、お前ばつつあんと代われ」

カイル「ちよっ！ 銀さんそれ酷くない！？」

新八「はい。それでは皆さん、お休みなさい。」

全員「お休み。」

ロウテンションのまま寝る事になったとき。

ラッキーチャンネル

晶「みんなー！おはらっき！今回始めてのラッキーチャンネル、ナビゲータの小神晶です」

稔「アシスタント白石稔です」

銀八「銀八先生です」

晶&稔「……だれ？」

銀八「なんだ知らねーの？あんた原作読んだ？」

稔「いえ、どっちのですか？」

銀八「銀魂の方の、ほら、有ったじゃん、銀八先生。」

晶「あゝそいういやそう言うのあったっげ」

稔「しらなっかです…」

銀八「怒るよ？」

晶「そう言えば作者から新しいアシスタントってもしかして…」

銀八「あそう、それオレ！」

晶「それでは気おとり直して、質問お読みまーす！」

銀八「えゝベンネーム『ガイドード』さんからの質問『1つ気になった事がありますが、らきすた勢は他にキャラは出る予定なのではないかな？』」

晶「今回見てもみゆきさんだけいなかった感じがありましたからちよつと気になりました。』とのことです。」

晶「そうですね、こうしてこの小神晶と」

稔「白石稔が登場したことですし」

銀八「はーい答えは作者の気分しだいですが、後みゆきさんは次回登場の予定です」

晶「それでは、これから質問・感想お願いします。」

稔「それでは…」

銀八&晶&稔「ガイドさん、廊下に立ってなさい！」

第2訓「消灯時間を守る子供って今時ある？」（後書き）

次回、やっとりき組とテイルズ組が銀魂キャラと接触します
後本当に感想お願いします

第3訓「遠足はただいまと言うまでが遠足」(前書き)

今回は紹介が多いです W W W
みゆきさん初登場！

第3訓「遠足はただいまと言うまでが遠足」

第3訓「遠足はただいまと言うまでが遠足」

朝、爽やかな朝。

此万事屋にはいつもの三人と一匹以外にも、今日はたくさん居たのた。

そして彼ら新人達に早速問題が起きた！

かがみ「ねえ。何これ。」

爽やかな朝なのにも関わらず、引き攣った笑顔で聞いた。

銀時「なになって、これ朝飯だろ？」

そう、今は朝御飯、だが

かがみ「なんでご飯とバンを一緒に食べるわけ？どれだけ炭水化物好きなのよ！！」

神楽「しょうが無いヨ。こないかがわしい所に依頼なんてそうそう来ないアル。」

銀時「言う事、だから金も無いからこんなのしか食べられない！」

新八「更に酷いのもありますよ。」

カイル「まだ有るのおおおおおお！？」

銀時「ああ。時にはご飯になにかを乗せて食べる事も有る。」

リアラ「何をですか？」

万事屋トリオ「塩のり。」

全員「……………」

銀時「だが喜べ諸君。今日は源外のジシィから依頼が有る！」
新八「源外さんから？」

はい、今からは俺による詳しい紹介タイム！

お登せ（仮名）は万事屋一階のスナックお登せの店主兼万事屋の大屋。本体は歌舞伎町四天王の一人。

キャサリン「オ登テセサン、コイツラナンテキニシナクテモイイデス！」

紹介タイムリターンズ！

そう言い出したのはキャサリン、ネコミミと言う超萌えアイテムが有るのにも関わらず、ただ気味悪いだけだ！皆は萌えないネコミミ団地妻って憶えてればいいよ。

キャサリン「ナンダヨ、サベツハンタイ！」

全員（作者を含む）「差別じゃない、分別だ！」

キャサリン「ゴミカ？ワタシハゴミカ？ナンデミンナソウイウンダ！」

銀時「じゃな、ババア！俺ら源外の爺に呼ばれてんだ！じゃな！」

何か後ろで「ムシスンナヨ」と聞こえるが、きのせいだろ

新八「それで銀さん、これから真っ直ぐ源外さんの所にいくんですか？」

銀時「いや。先にお前の姉に会いに行く。こいつらの事を説明しないとな！」

こなた「メガネさんお姉ちゃん居るの？」

新八「止めてくんない、その呼び方。凄く傷つくんだけど。」

こなた「やだ。」

新八「……………居ますよ。でもちょっと狂暴だけど。」

つかさ「狂暴？」

こなた「かがみん見たいな？」

かがみ「ちよっと！どう言う意味よ？それ！」

こなた「そのままの意味。」

新八「いえ。姉上とかがみさんじゃ天と地程の違いが有るんです！」

ロニ「本当か？」

神楽「本当ネ！特にゴリラストーカに対して酷いアル！」

リアラ「ゴリラストーカ？」

新八「恐らく姉上に合えば分かります！」

リアラ「そうなの？」

その後少し歩いたら、前から人と変な生き物が現れた。

桂「うむ、銀時ではないか。」

銀時「お前はヅラ！」

桂「ヅラじゃない、桂だ。そのあだ名で呼ぶなと何度言えば気がすむのだ！」

カイル「銀さん、誰ですか？この人。」

銀時「あ、こいつはヅラだ。」

桂「ヅラじゃない、桂だ。紹介するときぐらい間違えるな！」

こなた「じゃこの不思議生き物は？」

桂「ああ。こいつはベットのエリザベスだ。こらエリザベス、お前も自己紹介しろ」

桂が急かすと、エリザベスはボードを取り出し

エリザベス『この度の選挙は是非このエリザベスに貴重な一票を！』

新八「桂さん、なんか選挙に参加してますけど。」

桂「はっははは！またまた面白い冗談を。」

はい、多少遅れたけど紹介タイムリターンズ！

桂、全名桂小太郎^{かつらこたろう}、攘夷志士の一人。クールボケが得意。一応指名手配犯。……もう紹介できる所がありません。

エリザベス、桂のベット、旧友の坂本辰馬から貰った。貰うとき一目で気に入った。今はもうベットと言うよりりっぱな仲間のひとり。中身は不明。

桂「時に銀時、なにしに行くんだ、こんな大勢で。」

銀時「ああ。あの雌ゴリラにこいつら紹介したら源外のじーさんの所に行くんだ。」

エリザベス『我々も一緒にいいいいか？』

桂「それは名案だなエリザベス！」

銀時「たくっ。わがったよ！」

銀時「おい、あれ真選組じゃねえか、大丈夫かヅラ？」

キャブテンカッーラ「ヅラじゃない、キャブテンカッーラだ！」

こなた「うわっ！急に換わった！」

銀時「あっそうだった！お前ら、早く剣をしまえ！」

頭の上に？マークが浮びつつ剣をしまったカイルだち。

土方「なんだおめえらか。」

銀時「どうした？税金泥棒？」

土方「んだとこら！やんのか？」

沖田「止めてくたせえ、土方さん。オレだちは此ら辺で桂を見掛けたとの情報があって、それで来たんでさあ。」

土方「お前誰だ？」

カッーラ「俺はキャブテン・カッーラだ！」

沖田「何じゃそりゃ。」

カッーラ「要するに宇宙のキャブテンです！」

エーリザベス『私はサブキャブテンエーリザベスです。』

土方「まあいいや。お前らは誰だ？」

そういつてカイル達を指差す。

銀時「ああー、こいつらね。うちの新しい社員だ。」

新八「社長、うちは会社じゃありません。」

ノリいいね新八。

土方「そうか。オレは土方十四朗だ」

沖田「オレは沖田総悟でさあ。邪魔した詫びに土方が切腹ってこと

で。はい、土方さん。」

土方に刀を差し出す

土方「はいじゃねえよ！ いっぺん死ぬかこらああ！」

紹介t (ry

ひしがたとうしろう

土方十四郎、真選組副長、何か目つきだけで魚どかが殺せそうな目をしている。皆からは《鬼の副長》と呼ばれている。大のマヨラーで何にでもマヨネーズをかける。

おきだそうい

沖田総悟、真選組一番隊隊長、栗頭の結構純真な印象を受けやすいが、実はドが付くほどのS。いつか副長になろうと頑張って（土方を殺そうとして）いる。

土方「お前らなにしに・・・」「ビリリリリ！」何だ？「ガちゃ」ん？何だと、桂か？分かった！すぐ行く！すまねえ、さっき別の所に桂の目撃情報が有った。行くぞ、総呉！」

沖田「ちっ！はいでさあ！」

沖田は愛用のアイマスクをして、土方の隣に座り、寝た。

新八「それにしても、さっきの桂さんの目撃情報って・・・」

因みに、その目撃情報はスク○ドのカ○マの目撃情報だった（笑）

銀時「ちょっと待て！」

つかさ「？」

つかさは意味不明の為とまり、新八と神楽たやれやれと言った様子で止まり、他の人は釣られて止まった。

銀時「おりゃ！」

銀時は急に振り返り、腰に挿した木刀を後ろの電柱に投げた。

木刀は三日月を描き、電柱の裏に当たるその時、何処からか（棒読み）、ガン○ムに出で来るスー○ーナ○ームが飛んで来た！（棒読み）。そして木刀は見事に当たり（棒読み）、ドガン（棒読み）。そして爆風から何かが飛んでいったのは気のせいです（笑）（棒読み）。

場所を替え、今スナックすまいる内

新八「と言うわけで、これから万事屋で働く事に鳴ったのですが、寝床ろが無いのでうちの道場で泊まってもいいですか？」

妙「あらあら新ちゃん、それぐらい、道場主のあなたが自分で決めても良いのでしょ？」

優しく新は・・・メガネに語り出すのは新八の姉、志村妙^{しむらたえ}。スナックすまいるではたらいっている。料理で一番得意なのは卵料理と自分で言っているのにも関わらず、いつも可哀相な卵^{ダークマター}を作る。しかも満面の笑みで見られるので食べなければ活けない。

新八「なんで新八って言い掛けてツツコミに訂正したんですか!？」

こなた「なんだ結構優しいじゃん、何処が狂暴なのかな?」

ジューダス「知るか!」

新八「では、姉上は構わないんですね!」

妙「ええ、そうよ。」

近藤「しかし、よくこんなに集まったな、万事屋。」

急にテーブルの下から出てきたのは近藤勲^{こんどういさお}、真選組の局長であり、

お妙に落ち込んだ時に励まされ、惚れてしまい、今では警察所長なのにも関わらず、お妙にストーカーしているゴリラである!

妙「あらやだわ! こんな所にゴリラが居るとは! 早く除去しないと。」

テーブルに置いてある灰皿に手を伸ばす。

近藤「いや、お妙さん、俺ゴリラじゃ・・・」

近・・・ゴリラは言い終えなかった。いや、言い終えられなかった。何故ならお妙が今、あのお花見の惨劇をもう一度起そうとしている。あるときゴリラはいろんな意味で花見ができたよな(笑)

妙「なむじゃらおんみようじゃら・・・」
「ゴリラ破っ!!!」

さて、ここてちょっと考えて貰いたい。あの時、お妙が使ったのはビコビコハンマーと言う攻撃力が極めて低い武器、而もその時ゴリ

ラにはヘルメットと言う防具を付けていた。のにも関わらず、桜ではなく全く違う花見を与えたのだ！そして今回、お妙が使ったのは灰皿と言うコ〇ンに凶器として登場した事が有る代物。更に言うのであれば、今回ゴリラには防具所か、手も使えない、間に合わない。全員（作者イン）「なむ〜」。合掌した。

あれ〜？なんかゴリラの断末魔が聞こえるのは気のせいだね？

全員「うんうん！」

と言うわけで、ゴリラの断末魔が聞きたくないから、早足で源外の爺の所に向かう万事屋一行（ブラス桂とエリザベス）。

銀時「お〜い！来てやったぞ！早く開けろい！」

返事がない、ただの空き巣のようだ。

銀時「しょうがない。ばつつあん、頼むぞ！」

新八「はい！」

新八は何処かが分からない所からマイクとコンボを出し、すう〜つと息を吸い、

銀時「てめーらアアア！耳を塞げエエエエエエー！」

全員「はい？」

と聞き返したのが間違いだった！

新八「お前の母ちゃんなんにん〜だアアア！♪」

新八は死者の目覚め（パワーアップバージョン）を発動した！

カイル・ロニ「うわあアアアアアアアアアア！」

リアラ「ーーーーーっ！（聞き取れない悲鳴）」

ジュダース「ぐウウウウ！」

こなた「ぐぎよオオオオオオオオオオ！」

かがみ・つかさ「・・・・・・（ビクビク）」

ガラっ！からくり堂のシャッターが開き、中から

源外「うるせエエエエ！ちゃんと聞こえとるわアー！」

はい、お約束の紹介です！

この白い髭の生えたじーさんが源外げんがいです（全名忘れましたが）、皆からは江戸一番のからくり技師と呼ばれており、よくいろんな変な機械を弄る変てこ発明家である！

源外「おお、銀の字！や々と来たか、待ち詫びたぞ！」

銀時「おう！来てやったぞ！で、用件は何だ？」

源外「実は黒神の《リリカル銀魂》〈攘夷戦争鎮魂歌〉の中のワシの作った瞬間移動装置に興味があつてな、試しに作って見たら、ホレ、この通り。」

源外の指を視線で追うと、なんとリリカル銀魂の瞬間移動装置があつた。

新八「すご神楽「すごいアル！」・・・すご銀時「マジデカ！」・・・すご・・・すごいこなた「なんかわからないけど割り込み割り込み！」あんたらわざとか？わざと僕に喋らせないのかアアアアアアア！」

神楽・銀時・こなた「うん！（コクリ）」

新八「んだとこ源外「所が問題が起きた！」・・・（ショボン）」
なんか新八が部屋の隅で、の、を書きまくってるが気にしない気にしない！」

かがみ「問題って何が起きたの？」

つかさ「まさか使えないとか・・・」

カイル「えー！こんなおもしろそうなのに。」

源外「それが作動したらなんか女の人が出できたんだ！」

ロニ「マジデカ！」

興奮しすぎで片言になったロニ

源外「そうなんだ。それでその女をお前のいえに置いて貰えないか
つてのが依頼内容だ！おい、ちよつと来てくれ！」

源外が中に声を掛けると、中から「はーい」って返事がきた
こがさ（こなた十かがみ十つかさ）「はて、なんか聞いた事が有つ
たような。」

すると中からメガネを掛けた桃色の髪の女性が出できた。

?? 「あのー、なんでこなた「みゆきさん！」こなたさん？」

そう、お差しの道理、出できたのは高良みゆき《たからみゆき》、こなたらと同様桜隣高校三年B組の生徒である。この人は成績優秀であり、毎回学年トップである、スタイルもいい（こなた談）が、結構どじである

こなた「なんでみゆきさんまで江戸^{こし}に来たの？」

みゆき「それが、歯医者に向かう途中（第0・75訓に登場できなかった訳）、電車で居眠りして、起きたらこの装置にいました。」
源外「どうやら、瞬間移動装置で間違いないが、行くものではなく、来るものらしい。」

ジューダス「なるほど、技術が違うか、部品が違うからか。」

桂「して、こなた殿とその他の皆さん、俺に提案が有るのだが。」
リアラ「なんですか。」

桂「皆さんがこの世界に馴染むように、」

らっきー☆ちゃんねる

晶「みんなー、おっはラッキー！さて、今回でいよいよ二回目のらっきちゃんねる、ナビゲーターの小神晶です！」

稔「アシスタントの白石みのるです！」

銀「銀八先生です。」

晶「それでは早速お便りお読みしましょう！」

稔「晶様、お便りではなく、感想かと…」

晶「あれー、原作の習慣でつい、それでは気を取り直して、早速問題行きましょう！」

銀「はーい、ペンネーム「黒神」さんからの質問「1つ、こっちの

小説での銀時はかなりハーレムな生活を送っていますが、テイルズ側とらき☆すた、そして地味でオタクな新八はどう思いますか？

2つ、こっちの小説でのメガネはメツチャで番少ない上、アイドルオタクからアニメアイドルオタクに悪化しちゃいました。大好きなのはが銀さんにほれてしまったので、もしコレが新八に知ったら、どのような絶望、嫉妬、憤怒を表すのかテイルズ組とらき☆すた組も創造してみてください。」。だだよ、おめーらどう思う？」

こ「なんかギャルゲーみたいで面白いですね。特に…」
オタク魂に火がついたこなた。

か「なんか可愛そうと思います…」

つ「お姉ちゃんと同じ…」

カ「とりあえずロニみたいにナンバじゃないからいいけど…」

ロ「カイル、お前は分かかってない、もう少し大きくなったら分かるようになるって。後銀さん、グツジョブ！」

ジ「くだらない…」

リ「大変そうなのでレモングミたくさん送っておきました…」

全員（こなたとロニを除く）引き気味でこたえた

晶「それでは、二つ目行きましょう！」

全「……。（ブルブル）」

こ「怖いので辞めます、かがみんなに殴られる方がいい！（泣）」

か・つ「ううウウウウウ（泣）」

カ「銀さん、楽に逝けますように（合掌）」

ロ「やっぱり同じ事考えるんだな、俺だち（合掌）」

ジ「……（合掌）」

リ「……（合掌＋ライフボトル大量）」

銀「ざまーみろってんだ！」

稔「銀八先生、酷いです（合掌）」

晶「それでは、この重い空気に耐えられないので、みんな、バイ……
作「ちよっと待った！」

晶「なんなの、こちとら早く帰って風呂入りたいんだよ！」
作「光軍さん、誤字を教えてくださいがとうございます！。それ
では、黒神先生、廊下に立たなくていいから銀さんを生かしてくだ
さい！それでは
全「バイニ~~~~！」

第3訓「遠足はただいまと言うまでが遠足」(後書き)

銀「なんであんな風に終わらすんだよ！」

桂「そうだ！オレの台詞が途中までだったぞ！」

神「と言うよりヅラ全然出番無かったアル」

源「そうだぞ、ワシも最後でちょこっと出ただけだったぞ！」

銀「何とか言いやが…」

ドガン！！！！

作「たぐうるせーな、その方が面白いからに決まってるだろ！」

銀「……」

桂「……」

神「……」

源「……」

全部黒こげでしたWWW

第4訓「人生は試験」(前書き)

どうも、陣八です。

前回とかなり間があったのすいません。

それでは、気を取り直して

桂「前回途中で終わってしまった銀☆魂 destiny、活目せよ！

第4訓「人生は試験」

第4訓「人生は試験」

前回のあらすじ.. 桂の言った考えは一体!?

銀魂常識テスト

み& a m p.; こ& a m p.; か& a m p.; つ& a m p.; カ& a m p.;
ロ& a m p.; ジ& a m p.; リ (なんでいきなり試験 (ンンンンン
!) (なんですかアアアア!?))

桂「はい、それではこれより銀魂常識試験を始める。」

銀時「はい、そこ! 教科書をしまえ! 今更注ぎ込んだ所で何もかわ
んねえよ!」

こなた「あのすいません、これ教科書あるんですかアアアア!?!」

かがみ「そもそも何でいきなり試験ンンン!?!」

つかさ「全然勉強してないよウウウウ!?!」

みゆき「何でいきなり場所が変わったんですか？」

神楽「全然駄目アルな。」

銀時「そうだな、ツツコミはやっぱりこうじゃなきゃ。」

新八「いや、お前の方が駄目だろうウウウウウ！？なんでドラ○ン○ールの孫○空のコスプレしてんだアアアアアアア！？問題が起るだろオオオオ！？」

銀時「ちがう、これは孫○空のママの父さんの孫だ！」

ジューダス「変わらんだろ！」

桂「はい、そこ静かに！これじゃ始まらないから、銀時やっぱり○護にした方が良くはないか？」

新八「それも駄目エエエエエエ！やっぱり問題起きるウウウウウ！」

桂「とにかくだ。これからお前たちは銀魂^{この}世界で生きて行かないといけない、そうだろ？」

かがみ「ま、そうだけど。」

桂「そして生きて行くにも、何をするにも常識^ばは必要だ。それは天人、真選組^{くず}でも攘夷志士にも必要だ。」

かがみ「おゝい、読み方が違うぞ？（ぜえぜえ）」

銀時「駄目だよ、かがみん、これくらいで疲れてちゃ。」

かがみ「お前までかがみん言うな！」

こなた「んじゃ私は良いんだねかがみん。」

かがみ「駄目だ（ぜえ・・・ぜえ）」

いろんな意味で疲れたかがみであった。

（完）

新八「終わらすなアアアアアア!!」

桂「そうだぞ! まだ試験が終わってない! 家に帰ってただいまと言
うまでが試験だ!」

カイル「ちがうよ! ただいまと言うまでが冒険だろ!」

桂「黙れ冒険マニアが!」

ロニ「違う、だんじで違う。それはただいまと言うまでがナンバだ
ろうが!」

桂「お前は何にただいまを言うんだ!」

エリザベス「桂さん抑えて、これじゃ始まらない!」

桂「ああそうだな、それではこれより銀魂常識テストを開始する!」
エリザベス「これからこのスクリーンに問題が一問ずつ出て来ます。
」

銀時「それを手元のパネルで答えろよ!」

桂「なお答えは問題終了次第で教えます。」

エリザベス「それでは」

3人(?)「開始!」「開始!」

問一 次の漢字の読み仮名を書きなさい。

真選組』

み& a m p; ; こ& a m p; ; か& a m p; ; つ& a m p; ; カ& a m p; ;
ロ& a m p; ; ジ& a m p; ; リ「何これ? 超簡単じゅんかん(じゃない)?」

みゆき(なるほど、確かにこれは常識ですね。答えは『しんせんぐ
み』っと)

こなた(うう、作者の紹介ちゅんとよめばよかった・・・、今か
ら読めば!)

桂「はいそこ、カンニングはし無いように。」

こなた（たったら適当に書こう、『クズ』っと）

つかさ（んんゝ。これは『まえらぐみ』）

桂「はい、時間切れ。答えは」

真選組『クズ』

桂「です。」

み& a m p; ; か& a m p; ; つ& a m p; ; ジ& a m p; ; リ「何処の世界の常識（イイイイイイ！）（ですか！？）」

桂「ま、我々攘夷志士の間では常識だな。」

こ& a m p; ; カ& a m p; ; ロ「よっしゃアアアアアア！！」

か& a m p; ; ジ「何で正解したんだ、お前らアアアア！！」

こなた「適当にかいたら正解だった。」

カ& a m p; ; ロ「上と同じ。」

かがみ「そしてつかさは何普通に間違えてるんだ！」

つかさ「いやゝゝ。」

桂「はいそこ静かに！それでは」

問二 次の漢字の読み仮名を書け

近藤勲『』

全員が答えを書き

桂「答えは」

近藤勲『ゴリラ』

全員（みゆき以外）「やっぱり！」

みゆき「何ですか？」

こなた「みゆきさんはみた事無いから分らないかもしれないけど、本当にゴリラだよ！」

銀時「そんじゃ、ハイ写真！」

エリザベスはボードを二つ上げ、上には近藤とゴリラの写真が載っていた。

みゆき「あのどちらが近藤さんなんですか？ 私にはゴリラが二匹いる様にしか見えないのですが？」

新八「痛い事言うのね・・・」

桂「ては気を取り直して」

問3 次の漢字の読み仮名を書け

將軍『』

みゆき（普通に考えればしょうぐんですが、攘夷志士にとっては敵のポス、なら悪くかけば問題無い！）

こなた（どうしよう、やっぱりわかんない！はっ！もしかしたら！）

桂「はい、答えは」

將軍『松平健』

桂「です」

みゆき「何で漢字を漢字で読むんですかアアアア!？」

か&p;つ「よっし!!」

みゆき「ええ?!」

桂「因みに料理好きも特別正解とする。」

こなた「よっしや!!」

ジューダス「どう言う脳ミソしてんだ、お前ら!!」

桂「次の問題」

問4 次の文字の漢字を書きなさい

ケロロ『』

らき組（これ漢字（あんのオオオオ!？）（あるのオオオオオオ!？）
（あるのですかアアアアア!？））
テイルズ組（なんだこれエエエエエエエエ!？）

桂「答えは」

ケロロ『耳』

らき組（それあんたがケロロの耳気になってるだけだろう！）

ティルズ組（何なんだアアアア！ケロロって何何だアアアアアア
！）

桂「ちなみに『ケロロのドラゴンカッコよかったな』も特別正解と
します。」

らき組（それ作者の感想ウウウウウ！！つうか古いし！！）

ティルズ組（ケロロって本当に何なんだアアアアアアアアアア
！！）

桂「はい、次は数学・・・と行きたいが、生憎もうお昼だからな、
先に昼飯を食ってからにするか。」

こなた「ふう〜やった！」

桂「それではこれより弁当を配る、中身はお妙殿が作ってくれた卵
焼きです。」

万事屋トリオ「なっ！！！」

カイル「おおー！あの人のか！どんなのかな、ロニ」↑興味津々

ロニ「さーな。でもうまいんじゃない？（性格を除けば）結構美人
だし。」↑興味津々

ジューダス「ふーん。」↑興味なし

リアラ「ジュダース、どうしたの？」↑興味薄い

こなた「やつとまともなご飯が食べれる！」↑食べる事に対しての
み興味津々

つかさ「楽しみだね、お姉ちゃん。」 ↑楽しみにしている

かがみ「そうか？（嫌な汗）」 ↑心配してる

桂「それじゃ開けて良いぞ！」

パカッ！

全員「……」(なんだこれエエエエエエエエエエエエ！)

全員の心が弁当箱を開けた瞬間に一つになった。何故ならと言うと、弁当箱の中身が真っ黒の卵焼き《可哀相な卵》だった。まっ読者の皆さんは分っていると思うけど（笑）

こなた（これが卵焼きイイイイイ！？認めない！絶対に認めない！！）

かがみ（なにこれエエエ！卵焼きなの？卵焼きだと言わないでくれエエエエエ！）

つかさ（ううううううう（泣））

みゆき（これが卵焼きですかアアアアア！！）

カイル（ごめん、父さん母さん、オレ先に逝くよ・・・）

ロニ（カイル、怖がるな、おれも一緒に逝くから。）

ジューダス（シャル、すまん、先に逝くぞ）

リアラ（はははははははは・・・（ガタガタ））

一ソレ《可哀相な卵》をみて恐怖しているつかさ、認めまいと言わんばかりに首を扇風機のように振るこなた、かがみ、みゆき、死を覚悟したカイル、ロニ、ジューダス、そして壊れたリアラ。そしてこれかその卵焼き（本人曰くロイヤルスペシャルスーパー目玉焼）がどれくらい卵焼き（ロイヤルスペシャルスーパー目玉焼）に似てない卵焼き（ロイヤルスペシャルスーパー目玉焼）である事を証明している。

その後、カリカリとか目玉焼を食べるときに発する様な音じゃない音を発しながら、食べ終わると、こなたが急にご機嫌ようとか言いだし、かがみは記憶を無くし、つかさは高らかに笑い、みゆきはメガネが割れ、カイルは急に勉強し出し、ロニは性格が乙女化。ジューダスはある早さがいつも足りない兄貴も真っ青な位プツプツと何かを呟き、リアラはずっとはははと泣きながら小さい声で笑っていた。

勿論試験は中止になり、全員早目に病院に送ったので命に別状はないが数月入院したのは言うまでも無い。

らっきーちゃんねる

晶「……」

稔「あの〜晶様、もうコーナー始まってますけど」

晶「ああっ!? もうなんかだるいんだよ、とりあえず私帰るから、
そこのエセ教師と一緒にコーナーやりな!」

ボタン!

稔「……」

銀「まあとりあえずクーラーないこの部屋で盛り上げますか!」

稔「そうですね、晶様もただ暑いからイライラしてるだけだと思いますし。」

銀「それじゃ、ペンネーム「黒神」さんからの質問『その1 こっ
ちの小説でのヒロインの1人であり、原作とは大違いな強さを誇る
スバル・ナカジマ。』

彼女は銀時に助けられて侍の強さに憧れ、そして大切なものを護る
強さを知り、銀時に追いつくために魔法より居合を中心とした神速
剣術を鍛えました。

その強さは銀魂組を除けば機動六課最強と評価されていますが、皆
さんから見てどうでしょうか?

ティルズ組とらき☆すた組の皆さん、答えてください。

その2 こっちの小説では『銀魂』と『リリカルなのは』のクロス
オーバーだけじゃなく、『ブレイブルー』のネタも披露しています。
その中でも銀時のラグナコスプレと、スバルのノエルコスプレがど
う思いますか? ティルズ組とらき☆すた組の皆さん、答えてくださ
い。』だそうだ。どう思うお前ら!」

こ「わたしが代表で答えるね! え〜と一つ目は…、強すぎねえ? 幾
らなんでもこれはやりすぎだと思う。それにさ最強設定だとか何だ
か知らないけど、そういうのやると絶対続かないフラグなんだよね、
あと……」

銀「はい〜なんかこなたさんのスイッチが入っちゃた見たいんで二
つ目!」

か「別にどうでもいいんじゃない、うちも今回銀さんコスプレしたし。」

こ「そうそう！でもスバルのはすごく萌えたよう、ウツソさんの所のわたしが羨ましい（グッ！）」

銀「はい〜というわけで、黒神さん、廊下に立ちながら小説頑張ってください！」

第4訓「人生は試験」（後書き）

病院室内

銀「いやゝひどがったな（笑）。」

新「そうですね（笑）」

神「ひひやはは、お前ら酷かったアルな（爆笑）」

カ「笑わないで下さいよ、本当にきれいな花畑げが見えて、背中に羽生えた婆さんが迎えに来たと思ったよ！」

銀「まあとにかく、光軍さんからツッコミキサなる物を貰ったが、
ダメガネ新八、かがみ、お前ら使ってみるか？」

か「なんだよそれ!？」

銀「なんか光軍さんから『

「感想ありがとうございます光軍です、現実ではメガネ野郎嫌いなんですけど新八は好きですよと言うか銀魂のキャラ嫌いな奴いないんじゃないかなあ・・・」

洋基

「まあ、【コッシー】や【カグギン】は新八の扱い酷いからなあ」

光軍

「コラァ! 【黒神】先生と【神威 銀時】先生をそんな呼び方すんな! つとそれからかわいそうな新八にはコレをあげましょう、その名も『ツッコミキサー（ダミ声）!』」

洋基

「何やそら?」

光軍

「これは新八等の『ツッコミスト』を合体させてさらに強力な『ツッコミ』を作る夢のようなものだ」

洋基

「いけるんかそれ？」

光軍

「類似品として『ボケユニゾン』とゆうのもありますのでよかったですら本編で使ってください。では、」

光軍・洋基

「「これからも頑張ってください（くれや）！！」」『こんな手紙と一緒に送ってきたんだ、使うか？』

か「使うわけないでしょう！何でこんなメガネと…」

こ「かがみん、メガネって言っちゃダメだよ？」（みゆきを見ながら）

か「なんでこんなダメガネと合体するんだ！！」

新「……がはっ！」

新八の緊急治療のため終了

第一番外訓「重要な企画があったらすぐにやれ」

第1回 皆で祝いましょう、pv4000ユニーク1000!

祝! PV4000&ユニーク1000!

パフパフドンドンドン!

銀時「んだようるせえな、いきなり何だ?」

新八「そうですよ、それに神楽ちゃんもこなたさんも太鼓と喇叭吹くな、叩くな!」

神楽「んだよちくしょう! 別に良いアルヨ! こなただちの退院祝いアル!」

ん? んじや「PV4000&ユニーク1000!」これを祝ってたんじゃ・・・

神楽「そんなの如何でも良いアル! こなた達が退院した方がよっぽと重要アル。」

そんな、ぐらっち、ひどい・・・

こなた「わたしも自分の退院と銀魂劇場版を祝ってただけど。」

自分にとって、それに劇場版の祝い遅いから! もう二ヶ月も出てだから!

かがみ「なんか題からかなり離れているけど。」

つかさ「一体何をやりたがったのだろう。」

あ! そうだった! え! この度は重大な発表が二つあります。

カイル「さっきのトークで一つ散ったけど。」

グハッ! 作者に20ポイントの精神ダメージ

ロニ「それに目いっぱい無視されたし。」

ガハッ！作者に80ポイントの精神ダメージ（2ヒット2チェイン）
ジュダース「こんな物作る暇があったら早く本篇を続けたらどうだ。」
フンガッ！作者に300ポイントの精神ダメージ！（3ヒット3チェイン）
リアラ「……………（可哀相な人を見る目）」
ギヤノスッ！作者に9999ポイントの精神ダメージ（999ヒット4チェイン）
作者は（精神できに）死んでしまった
銀時「はゝい作者の精神終了により終わり！」

奈月「ちよつとまったゝ！」
銀時「おわっ！誰だお前！？勝手にひとんち上がるな！」
五月「ちよつと姉さん抑えて！」
作者が（精神的に）死んでいる間に終わらそうとした銀時、それにツツコミながら飛び蹴りを食らわそうとする女の子、が避けられ、まだ蹴りを入れようとした時、もう一人の女の子に止められる。

新八「おたくら、誰？」

それはオレが説明しょ！

こなた「あ！復活した！」

作者はげんきのかたまりを使った、MPが全回復した。

えゝさつきもいったどうり、今回は二つ重大な発表がある！

一つは無視されたPV4000とユニーク1000。

そしてもう一つが、この二人！

奈月「はゝい、心夜奈月です」

五月「心夜五月です。」

設定は後書きにありますのでそちらも見てください。

銀時「おいカイル、お前の所にこんな奴らいたか？」

カイル「いやゝ、なかったよな」

ロニ「オレも知らん。」

リアラ「わたしも全然・・・」

ジュダース「そもそも名前の書き方が違うだろ！」

新八「それじゃあ、こなたさん達の方の？」

こなた「なかったような。」

かがみ「いや、ないな。」

つかさ「そうだね。」

みゆき「私も知りません。銀時さんの方は？」

神楽「わたし知らないアル。そもそもキャストにも無かったネ。」

銀時「それじゃあ、一体？」

ふふふふ・・・

全員「？」

はっははははは（ラハ〇ル風）

銀時「駄目だこりゃ、頭が完全に逝っている。」

よくぞ聞いてくれた、そう、彼女等はオレの考えたオリキャラだ！

奈月「考えだつつつても、ただ名前と性格をちょこっと考えただけじゃん。」

五月「そうよねゝ。」

うう・・・ガハッ！裏切られた気分になった作者であつた。
く完く

終わらすなアアアアアアアア！

銀時「なんだもう良いだろ？」

神楽「そうアル、もうお前が死んだ事で終われば良いヨ」

はい、銀さんコレ。

銀時「これは・・・よっしてめえら！気合い入れて行くぞ！」

新八「銀さん見損ないましたよ。スイーツパイキングで釣られるなんて・・・」

新八にはこれ、ツツコミキサ

新八「いらんわアアアアアア！と言うよりこれ、かがみさんがすでにいやと言っているだろう！」

だったら五月か奈月にすれば良いだろ？

新八「いいのオオオオオオ！？」

奈月「ま！オレは別に良いけど。」

それでは！

くしばらくお待ちくださいく

融合完了！

奈月「これ・・・」

ん？どうした？

奈月& a m p; 新八の声「ただメガネ増えたただけだろうがアアアア

アアアアアアアアアアアアアア!!」

銀時「何でオレエエエエエエ!？」

いや、だって新八本体メガネだろ? だからめがね増やせば良いじゃん?

新八以外「あ、成程!」

新八「ふざげんなアアアアアアアアアア!」

速攻魔法発動、「融合解除」、皐八を融合解除!

五月「遊戯○か!」

まあまあ、そいてふりだしを発動! 新八をデッキに戻し、愚かな埋葬を発動! 新八を墓地に捨てる!

新八(死)「あゝれゝゝ!？」

ふうゝゝゝ。

それじゃかなり遅くなりましたけど、皆さんの支持、有り難うございました(土下座)

銀時「これからもこの銀☆魂、夜路死苦!」

奈月「そしてオレたちの活躍・・・」

五月「姉さん、私達の活躍かなり遅いそうですよ?」

奈月「マジ?」

はい、本気と書いてマジと読めます。

奈月「ガクッ!」

えゝ何か終わるふいんきてますが、まだ終われません!

ズドン!!!

えゝ、これから戦闘力測定を開始します。

一般人 360

奈月「ん? 一般人?」

はい、こうして比べると面白いからな。次!

新八 362

全員「ブッ！（爆笑）」

銀時 0

銀時「なんでエエエエエエエエエエ！」
はい、次

神楽 55555

神楽「キャッホイ！わたしの方が上アルそろそろわたしに主役の座を渡すネ！」

こなた 1367

こなた「おお！結構有るじゃん！」

かがみ（ノーマル） 431

かがみ「納得行かない！」

かがみ（魔王2） 9999999

こなた「よかったね、かがみん。」
かがみ「嬉しくないわ！」

つかさ 360

一般人レベルですね

つかさ「ううう・・・」

みゆき 390

こなた「頭の方が良いもんね。」

カイル 8282

カイル「なんかいい気がしないのは何でだろ。」

ロニ 8262

ロニ「オレもだ。」

ジュダース 10404

ジュダース「ふん。」（気にしてない）

リアラ 7628

カイル「すごいよ、リアラ！オレのなんてばかばかだし。」
気付いたのか！

因みに

お登せ 99999999

全員「こわい」（泣）

第一番外訓「重要な企画があったらすぐにやれ」（後書き）

はい、今回出てきたどうり、次回からオリキャラ二人が出てきます。
出した理由は、ノリ万歳！です（笑）
ステータスです

心夜奈月

17歳

身長…こなたとかがみの間
体重…聞くな！

設定…こなたらと同じ埼玉からきたことになる。五月とは双子の姉
銀さんもびっくりな男性格。家の剣道道場で訓練したことがあるため、少し剣道ができる。

作者能力…ガン〇ムの中のすべての近接武器が出せる。

心夜五月

17歳

身長…上と同じ

設定…奈月とは双子の妹。性格と髪の毛以外見分けがつかない

性格は普通です。上と同じく剣道もできる

作者能力…上と同じ

追加に容姿

二人とも

髪…水色

目…普通の黒

それからこれから前書きに小話を入れようと思います。のでこれか

ら題と関係のある面白いはなしがあったら感想に書いてください！
次回の題は、ドラクエ！

第5訓「先輩だからって何も偉くない」(前書き)

オリキャラ登場！

でもなんか難しくなった気が

でも後悔してませんよ？

後小話コーナーの内容が来ない(シクシク)

第5訓「先輩だからって何も偉くない」

第5訓「先輩だからって何も偉くない」

此はからくり堂、源外が経営している現代という機械ショップ。
しかしぶっちゃけあんまり客が来ないからほとんど工場見たいな物
に成りつつある、ていうかなってる。

そしてこのからくり堂の中に今はいつもの源外がい更に更に11人
と一つの巨大な機械があった。

その機械は源外が他のクロス作品を見せたら真似て作ってみたが、
逆の物を造りみゆきを此に送った。

そしてその11人が

銀時「おい爺！今度は何何だ？」

神楽「まさかまた何か受け取れやないアルよな！」

新八「神楽ちゃん、関西弁混じって訳分らないよ。」

あれ？ツッコミが冴えてない？

こなた「あんたも毎日あの一可哀相な卵ダークマダーを食わせる恐怖をすれば分
るよ。」

かがみ&mp;つかさ「うん・・・」
リアラ「はあ。」

いま、こなたの髪の毛が何故か短く成っており、かがみは髪がパー
マ状になり、つかさは長くなっている。みゆきはぱっと見て何も変
化はないが、よく見たらなんか髪が渦巻いている。

リアラは何故か元々長がった髪が更に長くなり、足下まであった。
カイル「大丈夫？リアラ。」

リアラ「うん・・・」

カ& a m p; ; ロ& a m p; ; ジ（一体何が起きたアアアアアアアアアア！）

源外「とりあえず何が起きたのは危ない気がするから聞かない事にしておこう。」

みゆき「それは助かります・・・」

現在の空気 地球の重力を100倍にしたくらい。

銀時（空気が超おめエエエエエエエ！）「とりあえず今回の依頼はなんだ？」

神楽「そうアル。今度は何に付き合わす気アルか？」

新八「もしもからくりの実験にだったらもう帰りますんで。」

こなた「うん、まだ髪の毛の葬式も終わってないし。」

かがみ「そうだね。」

そこ相づち打つ所オオオオオ！？突っ込もうよ！

つかさ「ちょっと黙ってください。」

あれ、つかささん、なんで手に風魔手〇剣持っているのですか？

つかさ「・・・・・・（ギロツ！）」

すいませんでしたアアアアアアアア！

カイル「つかさのキャラが。」

源外「とにかく今から依頼の内容を言うぞ！」

ロニ「待ってました！」

源外「これがわしが作った瞬間移動装置（受取）だ！」

ジューダス「それは分っている。」

源外「そしてコッチがわしが改良した瞬間移動装置（送り）だ」

全員「おお〜マジでか！（棒読み）」

源外「どうやら信じて無いようだな。まとにかく、お前らにはわしの実験を見てほしい、それでいいか？」

銀時「しょうがないな、わかった。分ったから早くやれ爺！」

源外「よし、まず受取と送りに同じぎ・・・」

しばらくお待ちください

源外「よし銀の字、今からこの猫を此に入れて送る、そして直にこれで受け取る。もし出来たら次は銀の字を万事屋に送る。」

銀時「送るなアアアアアアアア！オレは自分の足で帰る！」

源外「よし、猫を送るぞ！」

銀時「銀さんさっきの台詞無視？」

源外「スイッチオン！」

すると瞬間移動装置（送り）から光が光だし、一瞬だけ凄く光、やがて光が収まり、猫が消えた。

全員「おおオオオオオオオオオオオオオオオオ！」

源外「どうじゃ！」

神楽「おおおおお！凄いアル！本当に消えたアル！」

こなた「何というファンタジー！」

みゆき「これは何の原理ですか？」

源外「これは転送倉の中の物に超電磁波を送り、なんやかんやで相手を転送し、目的地に送る。」

かがみ「なんやかんやの所が気になるが、聞かないで置こう」

源外「よし。次は戻す方だ！」

源外がまた何をいじくり、今度は瞬間移動装置（受取）が光だし、

ピカーツ！として、光が収まると、

中からねこみみと尻尾を付けたそっくりな女の子二人が出て来た（笑）

全員「ええ工工工工工工工工工工工工柄工工工工江工工
工工工工工工工工工工工工工工工工」

全員が初めて白血球王に会ったできな表情をして、字が違ってくるくらい叫ぶ。

「ううう」

その内髪の毛が短い方が先にうなり声を上げながら起きた。

「えーと、確か、学校が終わって、五月と一緒に家に帰って、途中で変な猫見つかって、捕まえようと近付いたら急に当たりが光って、それから……」

銀時「こりや何が起きたか聞かなくても良いな」

全員「うんうん！」

「あ！そうだ！五月！起きろ！」

五月？「うう、姉さん？」

「ああ！オレだ！」

銀時「急急急急急！？」

? 1 & a m p ; 五月? 「ひゃっ! ?」

新八「銀さん煩いです。」

かがみ「そうよ、別に今更驚かないし、番外・・・」

新八「かがみさん! そう言う発言はよく無いですよ! この小説終わります!」

かがみ「別に良いよ、終わっても。」

ピピピピピピッ、ピリッ!

ピカー! ドガン!

ヒラヒラ。

ピクピク。

多分音を聞けば分ると思いますが、説明…急に空からハ○パー・バ○ーカが飛んで来て、かかみに直撃、そして空から紙切れがヒラヒラ、上には『もう一回言ってみろ(笑)』がかいている。

今は場所を変わって万事屋内部、その後自己紹介等を済ませ、万事屋で新たに働く事になった二人に仕事場を紹介している。

奈月「へ〜〜! 此が!」

五月「なんか普通ですね。」

→ファストリアクション

え〜銀さんたちは分ったけど、読者の皆さんは分ってないので、久しぶりの紹介タイム!

上の方は心夜奈月、下の方が心夜五月、双子で奈月が姉。二人とも水色の髪と黒の瞳をしている。因みに二人ともスタイルはいい方だ、もしスタイルが悪かったら奈月は女子に告白され続く位男前だ。銀さんもびっくりの!

銀時「普通って・・・」

新八「銀さん、ションボリしないで下さい。」

神楽「よし！それなら普通じゃないもの見せてやるアル！」

神楽はそれだけを言うのと直にデスクに乗り、糖分と書かれた額の後ろに手を入れる。この時銀時は「げ！」と漏らした。

神楽「見つかったアル！」

こなた「なにそれ？」

新八「へではじまってりで終わる奴。銀さん、ちょっとお話ししようか。（ゴゴゴゴゴゴゴゴ）」

こなた「へんちくり？」

かがみ「なんだそれ？」

つかさ「ヘリモス・ラリ？」

みゆき「誰の名前ですか？」

奈月「ヘリ？」

五月「入り切れないよ、姉さん。」

カイル「と言うよりいつまでわざと間違うの？」

こなた「もう良いでしょ。へそくりでしょ？」

神楽「そうアル、どうアルか？」

奈月「これは普通じゃないと言うより、怖い方だろ。」

後ろで誰かの「ギャアアアアアアアアアア！」の叫びを聞きながら。

新八「それじゃ皆さん、もう遅いのでこれでおひらきって事で。」

こ&mp;か&mp;つ&mp;み&mp;り「はあ・・・」

またネガティブになったとき。

らっき☆ちゃんねる

晶「というわけ、今回もらっきーちゃんねるにはいりました！ナビゲーター小神晶です！」

稔「白石です…」

銀「ん？どうした？」

稔「それが、質問が一件しか来てないというか、いつもの事というか。」

銀「いつものことだ！まだ始まって一ヶ月しか経ってないし、最初はみんなこうなんだよ！」

稔「そうですか、そうですよね」

晶「それでは、稔さんも元気になりましたし、早速質問いっきましよう！」

銀「えー、ペンネーム「黒神」さんからの質問『今回も質問を答えられてありがとうございます。』

ではまた質問させてもらいます。

こっちのエリオは神楽と月詠に恋路を抱き、そのせいでキャラがヤンデレ化してメッチャ怖くなっちゃいました。しかも下手すればジョyson化してしまい、機動六課最凶として恐れられています（白い悪魔を除いて）。らき☆すた組とテイルズ組はキャラを見てどう思いますか？

2つ目

らき☆すた組とテイルズ組は『リリカル銀魂Strikers 攘夷戦争鎮魂歌』を見て、誰が最もヒロインらしいか、好きなだけ答えてみてください。

以上。

『だそうです、おい！お前ら！答えてみろ』

こなた「先生！私は認めません！それがヤンデレとは認めません！

(泣)

かがみ「つかさ、そうならだめだぞ！(泣)」

つかさ「分ったよ、お姉ちゃん(泣)」

みゆき「どこからチェンソー出したんでしょう(疑問)」

カイル「バルバトスの方がまだマシです！」

ロニ「あつてに居なくてよかった！」

ジューダス「どうか、それより怖い白い悪魔というのは誰だ？」

リアラ「……(ガタガタ)」

銀「だそうだ！二つ目の質問はアンケートにしてみました！」

な…0

フ…2

ス…5

神…3

月…1

銀「上が結果だ、因みになのはさん、スターライトブレイカー撃つてもヤマダノカガミで跳ね返しますのであしからずに。それでは、黒神さん、スタジオ内の廊下に立ってなさい！」

第5訓「先輩だからって何も偉くない」(後書き)

スナックすまいる

銀「いやゝ久しぶりだな、後書きコーナー」

奈「どもゝ、初めて後書きコーナーにきた奈月でゝす！」

妙「あら銀さん、何飲みましょうか？それとあなたは誰？」

銀「パフェ頼むわ、それとこいつは奈月だ、初登場だってよ」

妙「あらそうなんですか。すいません！ドンペリ一本」

銀&奈「いや！お前何頼んでるのオオオオオ！？」

妙「ちっ！すいません、ドンペリではなくパフェお願いします！」

奈「いま舌打ちしなかったか？まあいいや。なんか次何湖仙人が出るんだって！」

銀「ふんゝそうなんだ！」

奈「いや、そうなんだって、気にならないのか？」

銀「いや全然。お！パフェ来たから終わりな！」

第6訓「必殺技の名前を叫ぶのが恥ずかしい？皆我慢してんだよ！」（前書き）

洞爺湖仙人の初登場にして最後の登場、しかも最後に死亡フラグ
W
W

第6訓「必殺技の名前を叫ぶのが恥ずかしい？皆我慢してんだよ！」

第6訓「必殺技の名前を叫ぶのが恥ずかしい？皆我慢してんだよ！」

奈月視点

あれ、此どこ？周りが真っ暗だな。

奈月は今真っ暗な空間に居た。

あれ？真っ暗なのはオレか？

周りを軽く見渡すと自分しか居ない事に気付く。

あれ？なにこのデジャブ？あれ？あれ？

そして奈月の意識はまだ闇に落ちた。

視点終了

？「目覚めよ！」

真っ暗な空間に万事屋トリオとその他が居た。

？「目覚めよ！秘めし内なる力。」

そしてその空間に一つだけ明かりが有る

？「解放するときが遂に着たのだ。」

その光はこの空間内のすべての人々を照らすように光

？「そっと開くのだ、その目を」

そしてその光は更に強くなり

？「その閉じられた限界への扉を！」

その空間内の全員が目を開け起き上がり。

？「目覚めよ！」

光が消滅するとともに、全員がはっとする。

銀時「ん？此は？」

カイル「んん・・母さん、もう少し。」

ロニ「カイルが起きてる？」

ジューダス「なんだ此は？」

リアラ&新八「おはよ（ございます）（ーっす）」

こなた「ここ何処？」

かがみ「知らないわよ。朝起きたら此だし。」

つかさ「停電かな？」

奈月「だしたら皆の姿がはっきりしているけど。」

五月「ごほごほ！ほこりっばいところね。」

神楽「身体中埃まみれネ！げほげほ！」

銀時「んだよ？オレア二日酔いで頭痛んだよ。悪いが二度寝させて貰うわ。」

奈月「あ！オレも！」

こなた「一新八風呂沸かしといてね」

新八「いや、此風呂無いけど！それに僕の名前でたのになんでメガネ？」

神楽「新八飯作っつけヨ！」

新八「今日当番神楽ちゃんでしょ！？」

かがみ「一体なんなんだろう、夢かな？私も寝よ」

つかさ「私も！」

新八「本当なんなんだろうね、皆寝たし、僕も寝よ。」

そしてこの空間がまた一度静かになると、さっき消えた光がまた現れた。

？「目覚めよ！秘めし内なる力、解放するときが遂に来たのだ！」

銀時「うるせえよ！誰だ妙な目覚まし掛けたの。」

ロニ「銀さんはもっと煩いのしらないな。」

？「目覚めるときは今だ！」

奈月「母さん煩い、後一時間むにゃむにゃ・・・」

神楽「まだ八時だろうが、後二時間は寝かせろ、馬鹿やろ！」

かがみ「今標準語で酷い事言ったのは気のせいよね」

？「いや、あの「ギギギギギギギ」目覚ましじゃ「ギギギギギギギ」なくて」

新八& a m p; 五月「（神楽ちゃん）（姉さん）歯軋り煩い！」

？「すいませんちよつと聞いてくれる？」

こなた「なんだよ、うるさいなむにゃ・・・」

？「あの、ちょ、目覚めよ！すいません目覚めて下さい」

しかし誰も目覚める気配が無い

？「すいません聞いて下さい、みなさああん！」

誰も起きる気配が無い。

？「ああ~~~~~~~~！」

すると急に○リ○チに出て来る○月に似たおっさんが出て来た

？「目覚めろつってんだろ！いい加減にしろオオオオオオ！なんで

異空間で二度寝！？少しは空気読め！なんかいつもと違う感じ位分

るだろがアアア！馬鹿ものオオオオオ！」

新& a m p; 五「（銀さん！銀さん）（姉さん姉さん！）起きて下

さい！」

銀時「んだようるせえな！」

奈月「どした？五月。」

新& a m p; 五「なんか変な人が！！」

こなた「何何？」

カイル「おお！なんかかっこいい！」

？「ゴほん！ようやく目覚めたか。ようこそ我が世界へ！汝ら遂に

目覚める時が来たのだ！」

ジュダース「誰だ貴様！」

銀時「誰ですかあんた？」

？「分らぬか？銀時。我は常に汝とともに有」

みゆき「それはストーカーでは・・・」

奈月「而もおっさんの・・・どうせなら配管工のおっさんの方が良いな。」

五月「そうそう！そして毎回誘拐されたら助けてくれるし。」

？「幾多の苦難を振り払ってきた、汝の刃！」

この時、何処からともかく風が起き、目の前のおっさんの前髪が上がり、額には洞と書かれてる。

洞爺湖「我が名は《洞爺湖》」

全員「洞爺湖の仙人？」

洞爺湖「ま、そう言う呼び方でも良い。」

洞爺湖「銀時、誰よりも近く居たわたしは知っている、お前は強い！」

カイル「そうなの？」（ひそひそ）

新八「そう。あの木刀で鉄も切れるんだよ！」（ひそひそ）

洞爺湖「かつて私をこれほどまでに使いこなしたものは居ない。だが、だがしかしまだだ！まだお前は強くなれる！まだお前は私の力を限界まで引き出しては居ない！」

此で一旦止まり、フツと笑う。

洞爺湖「強くなりたいか？銀時。」

そして銀時は「いや、いいです。」

すると洞爺湖は「あれ？え？今なんて言った？」

銀時「いや、もう煩い！すんません！本っ当もう頭痛いんで勘弁して下さい。」

洞爺湖「えっ？いや。て、え？もう十回目にも入ったし、必殺技とかもそろそろ有った方が良くはないか？私が言うのも何だがかなり便利だぞ！君等にも教えてやろう！」

新八「すいません！僕等今日定休日なんです。そろそろ帰して貰えます？。」

奈月& a m p; 五月「そう（だ！）（ですよ！）今日江戸の町を觀光する予定だったのに！」

洞爺湖「いや、ちがっ。君等が思ってるよりもかなり使えるぞ！一度作ればなんども使い回せるし作者も大助かり！」

メタ発言は控えましょ！

洞爺湖「それよりも何よりも簡単に見せ場をつく・・・」神楽「うるせんだヨ！くそ爺！」

ロニ「いいから早くもどの世界に帰せ！」

洞爺湖「ああそう。いや、良いなら良いけどねエ、別に。こっちも頼まれた訳じゃないし。勝手に君等呼んだだけだし。」

ジューダス「分ったらさっさと戻せ！」

洞爺湖「すいませんでしたね！なんか余計な事して。」

かがみ「そう考えてるんなら早く戻せ！」

洞爺湖「ただ言っとくげと、後で「必殺技教えてくれ」って言うてももう遅いから、これ今回限りだから。絶対もう教えねえから。」

こなた「別にいいよ。」

洞爺湖「あゝあ。夏休み大放出だったのに、もったいないなあゝ。

○解とか、○○丸とかかなり使えるんげどなゝ。」

チラッと銀時達をみた。皆ぐっすりだった。

洞爺湖「つうか「教えてくれ」って言えよオオオオオオ！必殺技要らないって、どんだけ向上心ねえんだてめえら！なんで仙人の前で三度寝！？よっぽど緩い休日でも三度寝は中々し無いよオオオオ！おい！起きろ！コラアアア！いい加減にしろうよ！今から三秒以内に起きなかったら、ももに蹴りばーん！入れてくから！まじだから！まじで仙人行くから！歩け無くなるよまじで！はい！いゝち！ほらほら！地獄へのカウントダウンが始まったぞ！にゝ！ほらほら！後一秒しかないぞ！さゝん！」

ぶちん！

全員「うるせえつってんだろうかアアアアアア！」

銀時と神楽は仙人の太ももに蹴り、カイルは蒼破刃、ロニは雷神召、

ジューダスは月閃光、リアラは流連弾、こなたとかがみはビーム・
○イールを出し、投げる。奈月と五月は手元の竹刀で叩いた。

洞爺湖「がはっ！」そして痛くて少しの間コロコロしていると

銀時「なんなんだよてめえは、ずばり何がしたいんだよ」

奈月「ずばりマゾ？」

洞爺湖「ずばり中々やるではないか銀時。」

カイル「オレ達は無視？」

洞爺湖「仙人である私の足を封じるとは。だがまだ甘い、お前たち
まだ強くなれる」

新八「ずばり仙人を涙目にするくらい強くなれたんでもう充分です。
」

五月「帰して下さい。」

洞爺湖「必殺技を覚れば涙目所か目、鼻、口、身体中のいたる穴か
ずばりら体液を吹き出させる事も可能だぞ」

こなた「ずばり気持ち悪いから帰して下さい。」

洞爺湖「なぜそう固くに必殺技を拒む。」

奈月「ずばり必要ないからです。」

洞爺湖「なんだ照れてるのか。必殺技の名前を叫ぶのが恥ずかしい
か。皆そんなの我慢してるんだよ。皆同じなんだ！大切なのは慣れ
だ！」

かがみ「なんでそんなにも必殺技を教えたがるのかな。」

洞爺湖「これからは色々な強敵が出て来るかも知れん、必殺技なし
で生き残れるとはとても思えん。我が主人に消えて貰っては困るん
でな。それに格闘ゲームを発売されると想定した場合、必殺技が無
ければ大変一地味《新八》なゲームになる。○ン○イがどれだけ苦
劳してるとおもってんだ。」

新八「何処まで心配してんですか！それに今地味の読み僕の名前に
なってるだろ？」

洞爺湖「それでも必殺技を覚える気が無いと言うのであればこっち
にも考えがある。」

全員「考え？」

洞爺湖「お前らが必殺技を覚えぬ限り此から永遠に出られない。」

五月「いいですよ、別に。」と言いながら、突然現れた冷蔵庫を漁ってる。

奈月「暫く厄介になるな！」

こなた「そうだね。」

奈月とこなたはチャぶたいで寛いでいる。

洞爺湖「いや、暫くではなく永久に、ちょ！ひとんちの冷蔵庫勝手に開くな！」

五月「永遠に出られないでしょ？冷蔵庫位良いでしょうが？うわ！味噌カビ生えてる！」

つかさ「ムシヤムシヤ。」

つかさは冷蔵庫の中から漁ったと思われるアイスを食べてる。

洞爺湖「ちょっ！それ、風呂上がり食べようと買ったのに。」

新八「とにかくこんな汚い部屋住めないや、掃除・・・うわ！ベツトの下から変な本が・・・」

新八は掃除している途中、○○○な本を見付けた。

洞爺湖「ちょっ！かってに弄らないで！」

カイル&ロニ「ははははは！」カイルとロニは何かアルバムを見てた。

ロニ「洞爺湖お前そのグラサン何処で買った？」

アルバムには高校の時と思われる洞爺湖の写真がある、因みにグラサンは丸目がねだ。

洞爺湖「帰れエエエエエエ！帰れお前ら！こっちは親切に必殺技を教えようとしただけに、そんなメチャメチャするなら帰って下さい！その物拾って帰って下さい！何処であんたらがのたれじろうがもう知りません、もう帰って」

喋りながらドアに手を掛け、開けた途端

洞爺湖ママ「あんた何かってな事いつてんの！」

中からママな人が出て来て、洞爺湖にとび蹴りを食らわす。

そんなやり取りをしている間、奈月だちは洞爺湖が拾ってけと言ったものを確認している。

奈月「置いてあるものは竹刀（さつき使ったやつ）二本、木の枝二本と手紙。」

五月「竹刀は私達が使うとして、この木の枝は・・・」

こなた「手紙に何を書いてあるの？」

みゆき「え」と

『拝啓 みなさんへ

夏まっさかもりで夏ばてしてませんか？いくら夏休みでも、遊び過ぎはよくありません。

P.S. ここに置いてある竹刀は月姉妹に、木の枝はみゆきとつかさが使って下さい。竹刀は知っているものであればそれに変形でき、木の枝はそれを握ればテールズシリーズに出て来たすべての術が使える様になる。

P.S.2. このP.S.って面白いよね。』

こなた「大事なところをP.S.に書いたよこいつ！」

洞爺湖ママ「あの、ちょっと悪いけどあの子から必殺技、習ってくれる？」

そういわれると、皆アイコンタクトした後

奈月「洞爺湖く、早くこっちに来い！」

銀時「必殺技を俺たちに教えてくれ。」

洞爺湖ママ「ほら、とうくん、皆必殺技習ってくれって。」

洞爺湖「もう良いよ。何かうっすら習いだくないの分るし、恥ずかしいよ。」

洞爺湖ママ「とうくん、そんなこと言っていないで早く皆に教えなさい、必死になって必殺技考えてたじゃないか！」

プチン！

洞爺湖「もういいつつてんだろジャンボリックマグナム！」

洞爺湖はポーズを決め、片手に何かいかがわしい物が渦巻いており、それをママに殴りつけた。

こなた「あ！ママに必殺技を使った。」

五月「名前がださいね」

洞爺湖ママ「それで、良いのよ。」

洞爺湖「ママ！」

洞爺湖パパ「おい、帰ったぞ！なっ！」

この時洞爺湖のパパと思われる人物が登場し、ママの惨状を目撃しパパ（↑もうめんどいのでこうします）「母さんに何をしたワイルドバースト！」

するとぱの必殺技が洞爺湖にあたり。

ママ「今こそ転勤という呪縛から解放する時！倒すのよ！父さんを！」

そう言われると、洞爺湖は必殺技のポーズを取った。

銀時「やばい！このままじゃ家族崩壊！」

そして洞爺湖を止めるために。

「ふん！」「ほわっちゃ！」「とう！」「ふん！」「えい！」「空

破絶風撃！」「粉塵裂破衝！」「空破特攻弾！」「はっ！」

銀時、神楽、新八は、こなた、かがみ、カイル、ジューダス、ロニ、奈月と五月の順で銀時と新八と神楽は蹴り、こなたとかがみはだしたピ〇ム・ライ〇ルで殴り、カイル、ジュダース、ロニはそれぞれの奥義、奈月と五月は竹刀をアマノムラクモに変形して峰打ちで洞爺湖とそのパパの太ももを殴った。

洞爺湖& a m p; パパ「がはっ！」

二人一緒に地面でコロコロしている中、洞爺湖は。

洞爺湖「それが汝らの必殺技。ももばんだ！」

ふちん！

全員「要るかアアアアア！」

再び皆で一斉攻撃

奈月「ううん」

目を開けたらそこは志村家の道場の天井だった。

奈月「よかった！夢だったのか！」

嬉しいかった、一あんなのか《ももぼん》のが必殺技だったら自殺します。嬉しさにねこみもと尻尾もかなり動いている。

その後の話

その後、何故か銀時の木刀が折り掛けて、そして洞爺湖の所にあった竹刀と木の枝と手紙が郵便で届いたのでそれが夢ということになった。

らっきー☆ちゃんねる

銀「えー今回、何故か晶さんと稔さんがやばようで居ないため、作者がオレだけでやれと言ってきたので、あしからずに。」

俺、らっきーちゃんネル初登場！

銀「では、うp直前に来た問題、一いつきましょう！」

ええー、黒神先生からの質問、『らき☆すた組とテイルズ組に質問。ダークマターを食べましたけど、どんな気分でしたか？

その2

テイルズ組に質問。

テイルズ組には、ナナリーとハロルドがまだ出ていないようですが、出番がまだない2人に申し訳ないと思っていますか?』ということ
です、はい、どうぞ

こ「あははははははははh（現実逃避）」

か「なんか背中に羽生えた人か綺麗な花畑でこっちに手招きしたのが見えた気分だけど、何か後ろから卵焼きが行かせまいと言わんばかりにひっぱて、その中央で…」（ぶつぶつ）

つ「うふふふふふふ（壊れました）」

み「はははははははh（思考回路がやられました）」

カ「もうすこしであの世へ逝くところだった」

ロ「こわいこわいこわいこわいこわいコワイコワイコワイコワイコワイコワイコワイコワイ」（恐怖が身に染みている）

ジ「私は何処? 此処は誰?（記憶喪失）」

リ「あれは卵焼きじゃないあれは卵焼きじゃないあれは卵焼きじゃないあれは卵焼きじゃないあれは卵焼きじゃないあれは卵焼きじゃないあれは卵焼きじゃない

銀「と言う訳だ、彼らの思考の為にもうこんな質問はしないように。」

二つ目は、カイル達はエルレインに飛ばた直後に此処にきました、
のでナナリーもハロルドにも会ったことが無い。因みに、これから
は銀さんたちがテイルズワールドで大暴れする予定があるので、登
場はします、ちょっと遅いだけです。

銀「というわけで黒神さん、廊下に逆立ってなさい!」

ひどっ!

第6訓 「必殺技の名前を叫ぶのが恥ずかしい？皆我慢してんだよ！」（後書き）

今回出てきた黄金の太陽の武器が有りましたが、分かりました？

第7訓「ペットの面倒はちゃんとするように」(前書き)

ちよつと書き方変えました。

第7訓「ペットの面倒はちゃんとするように」

第7訓「ペットの面倒はちゃんとするように」

今、銀時ら新生万事屋達は桂に誘われ、ファミレスにいる、そして

銀時

「はあはあ……………」

神楽

「ぜえぜえ……………」

新八

「ぐっ……………」

こなた

「ふうふう……………」

かがみ

「くっ！」

カイル

「くそ！（小声）」

リアラ

「はあはあ……………」

奈月& a m p ; 五月

「も、もう……………」

今、銀時の前にはパフェ、神楽はお茶漬け、新八はステーキ、こなた、かがみ、リアラは普通の卵焼き、カイルはお子様ランチ、奈月と五月はあんまん。全員の前には彼等の好物（銀、神、新、奈、五）か欲しかったもの（こ、か、り、カ）が置いてある、更に言えば、もう何日間もまともな食事をしていない。しかし、何故か我慢して食わないようにしている。何故なら。

桂

「どうした、食べないのか？金の事は気にするな、今日は俺がもつ。」

銀時

「手ェ付けるんじゃないぞ、てめえら！この面「ヅラじゃない桂だ」はな、何か企んでる面「ヅラじゃない桂だ」だ！またなんか録でもない話持ち掛けてに來た面「ヅラじゃない桂だ」だぞこりゃ。」

桂

「邪推は止せ。」

新八

「いくら腹減ったでね、食べ物で釣られるほど僕等安くないですよ。桂さん甘かったですね。」

銀時

「ほんとあめえよ、特にこのチョコ蕩けそうだよ。」

神楽

「すんまつせん！おかわりいいっすか？」

カイル

「何か知らないけど、美味しい！」

こ&p;か&p;リ

「普通の卵焼き・・・ううう・・・（嬉し泣き）」

奈月&p;五月

「あんまんだ！ていうか何であんたしってんの！？」
爆食していた（笑）

桂

「エリザベスは何時も俺の側に居るからな、いつなるとき役者に狙われてもおかしくはなかったはずだ、しかし俺とした事が、エリザベスを一人にってしまった。」

新八

「つまり捕まってしまったと。」

桂

「そういうことだ、このままではエリザベスの首が飛ぶ。」

奈月

「首何処オオオオオオ！？って騒ぐと思うけど。」

銀時

「で、一体誰の仕業だ。」

桂

とおやまちゃんたろう

「遠山珍太郎と言う極悪奉行。」

こなた

「ち○こ太郎？」

かがみ

「止めなさい！」

桂

「頼むぞ、銀時！エリザベスを救い出すのを手伝ってくれ！」

猿飛

「え？役者の屋敷に忍び込んで欲しいですってござる？」

はい、今居るのは猿飛あやめ通称さっちゃんが働いているくの一カ
フェ内。そしてエリザベスの事をさっちゃんに伝え

銀時

「ほら、お前忍者じゃん？　そういうの得意そうじゃん？　たのむわ」

猿飛

「なにをでござる？」

銀時

「こいつを忍者にしてやってくれ。」

猿飛

「忍者なめてるでござるか？」

銀時

「とりあえず語尾にござるを付けとけてよ。」

桂

「ござるじゃない桂でござる！」

猿飛

「そんな一朝一夕で忍者になりたいって言われても。」

店長

「あたいらはね血のにじむような試練を乗り越えてくの一になったんだよ！　なめんなよでござる！」

猿飛

「店長男でしょう。」

桂

「ならばせめて一緒に来て貰えんだろうか。さっさん！」

猿飛

「ちゃんでいいです。」

桂

「一刻の猶予も無いのださっくん！」

猿飛

「さっちゃんでもいいですっで言ってるだろコノヤロ！」

そして携帯を取り出し

猿飛

「悪いけど、わたし、幕府関係者とは色々繋がりがあるから下手な事はできないわ。」

そういつてこっちに携帯を見せる

猿飛

「今日だってほら、仕事の依頼が・・・」

ビューン！

パラパラパラ。

銀時

「てめーなめてんのか。仕事中に客の前に携帯弄くってんじゃねえよ。」

こなた

「さすがにやりすぎじゃないかな。」

猿飛

「ふ、厳しいのね。」
「言い、赤くなる。」

新八

「なんで赤くなるの!? 何で赤くなるの!?」

奈月

「マゾ？」

桂

「これで幕府との繋がりが無くなった。協力・・・」

客a

「おい! 何してんた! 早くお茶持って来い!」

猿飛

「御意! いますぐ行くでござる!」
そしてこっちを向き。

猿飛

「ごめんなさい。やっぱり私、昼の仕事も忙しいから行けないわ。
さらば!」

そして向こうに行き、お茶を客に掛けたり、おまけのケーキを客の
顔面にぶつけたりして

店長

「あなた、もう来なくて良いから。」

猿飛

「え？そんな、店長くっ！」

喋りながら客bを揺さぶる。よく見ると眼鏡が外れてる。

店長

「店長こっち。」

猿飛

「は！眼鏡が！何時の間に・・・」

銀時

「ほくい、こっちこっち！眼鏡忘れてたぜ。」

銀さんがさっちゃんの眼鏡を掛けていた。

銀時

「だめだよ。さっちゃんは本当そっかしいな。」

桂

「しかしこれで足枷は無くなったな。いくぞ。」

新八

「あの、さっちゃんさん、すみません。」

すると、さっちゃんは赤くなり。

猿飛

「あゝ。もっといじめてほしい・・・」

新八

「なにイイイイ！！気持ちわるい！」

奈月

「やっぱりマゾ？」

不安が貯まって行くエリザベス救助だった。

らっきー☆ちゃんねる

晶「みんな！おはらっきー！ナビゲーターの小神晶でーす！」

稔「相変わらず質問が一すしかないらっきー☆ちゃんねるのアシスタントの白石稔です」

銀「みんなのヒーロー、銀八先生でーす！」

晶「それでは早速質問行きましょう！」

銀「えー、ペンネーム「黒神」さんからの質問：毎回そうだけど。

『では、今回もありがたく質問させてもらいます。

その1

らっきー☆組に質問です。

必殺技を得られるならどんな技を得たいですか？

その2

テイルズ組に質問。

『テイルズ・オブ・デステイニーシリーズ』意外で注目する『テイ

ルズシリーズ』のキャラは誰ですか？

いたら教えてください。

』だそうです。お前ら、答えてやれ。

こなた「やっぱりニュー○タイプできなやつがいいな、色んな処でいいし。かがみんはツツコミ能力がアップするやつだね」

かがみ「なんでだアアア！私はそんなの要らないよ！まあ、要るのならやっぱり強い奴がいいな。」

こなた「ももぽんできなやつか？」

かがみ「ちがう！」

つかさ「わたしはケ○ロに出たことがある物の方がいいかな」
みゆき「わたしは：しらないかな？」

稔「それでは、二つ目、行きます」

カイル「やっぱり、ファンタジアのクレスさんかな。ものすごく強そうだし、英雄って感じがあるし。」

ロニ「上と同様。やはりそうだしな」

ジューダス「僕はない。」

リアラ「ミントさんかと思います。」

銀「はーい、答えは上のとおりです。それでは、黒神さん、機動六科のの廊下に立ってなさい！」

第8訓「立ち読みは良くない！」（前書き）

小話コーナー

ドラクエ9の中で初めてmpがマジックポイントではなくマジックパワーだったのはかなりびびった。BY俺

小話の内容が来ない（シクシク）

そして遅くなってすいませんでした！

なんか夏休みだから遊び放題しちゃって

はい、わかります、いけないのはわかりますがどうしても遊んじやうのです。

これからもこんなペースなのかもしれません、はい。
ではどうぞ！

第8訓「立ち読みは良くない！」

第8訓「立ち読みは良くない！」

此はとある神社。

銀時らエリザベス救出隊はさっちゃんから忍者になるための試練を受けていた。

猿飛

「いい？ 今からあなたたちを一人前の忍者にしてやるわ。」

全員

「おおー！」

猿飛

「まず、忍者は誰にも知られず仕事をこなし、何の痕跡すら残さない完全なる影。だから目立つような事は厳禁。」

ホルスター

新八

「何処が隠密。カラフルすぎだろこれ。」

こなた（ブルー）

「忍者戦隊！ ニンジャーレ！」

かがみ（紫）

「なにそれ。」

今、銀時達は、一目で忍者って感じがする服を着ている。
ただし、カラフル。

猿飛

「それは区別するため。だって顔の見分け付かないから。私銀さん

以外の人類は皆同じ顔に見えるの。」

スカイフルー
奈月

「オレたちは石ころか？」

猿飛

「あ！銀さん、マフラがずれているわよ。もうおちょちょいなんだから。私が居ないと駄目ね。」

そういつて神社にある像の首についてる物のズレを直してる。

ホワイト
銀時

「おちょちょいのはお前だ！！」

カイル（イエロー）

「結局全員の顔の見分けが付かないのな。」

こなた

「眼鏡を掛けなさい！お母さんそんな子に育てた覚えはないよ！」

かがみ

「あんたお母さんか？」

スカイフルー
五月

「それにただ眼鏡掛けてないだけで大げさな。」

桂
イエロー

「どうでも良いが、何で俺がイエロー何だ。普通リーダーは赤だろ。赤がいいです。」

レッド
神楽

「出しゃばんなヅラ、赤は私のシンボルカラーネ、リーダーは私ネ
！」

桂

「納得いかんが、そういう割り振りなら仕方があるまい。」

神楽

「リーダーとして命令するネ！イエロー、お前はカレーが好きネ！常にカレーを所持するように！」

カイル

「それはオレも含むの？」

神楽

「そうアル！」

カイル

「ええええー！」

リアラ（ピンク）

「カイル、気をつけて（カレーできな意味で）」

神楽

「リアラ、お前もな。」

リアラ

「ええー！」

銀時

「なあ、新八、お前と代わって良い？こんな真っ白じゃカレーうど
んも満足に食えん。」

こなた

「そうだよ、こんな真っ青じゃね。」

新八& a m p; かがみ

「違うから！カレーもうどんも関係ないから！」

猿飛

「これからあなた達の忍者適性を見せて貰うから。」

それから少し経つと、とある商店街へ足を運んだ。

猿飛

「此は通称忍者どうりと呼ばれ、私達忍者が修業する時によく使う
場所よ。江戸で活躍する忍者は皆此で影になるすべを手に入れたの
よ。」

新八

「そうですか？ただの商店街ですよ？」

猿飛

「スポーツジムで忍者になれるとおもってんのか、てめー。死ねよ、
この眼鏡ヤロー。」

新八

「何で僕だけに対してSなのオオオオオ!?」

桂

「成程。つまりひとから隠れる術は人の中から探るものか。」

猿飛

「そう言う事よ。で、何でカレー持ってるの?」

カイル

「はは・・・仕方ないよ・・・」

そう言ったカイルは何故かボロボロだった。因みに、カレーを持ってる。

猿飛

「とりあえず何でボロボロになったのは聞かないでおこう。」

リアラ

「カイル、大丈夫?」

リアラは空いてる手でカイルの背中を叩きながら聞いた。え? もう片方は? カレーを所持してます。

銀時

「で、一体おれ達に何をやらすんだ?」

猿飛

「あれを見て貰いたい。」

カイル

「本屋?」

さっちゃんが指差したのは一軒の本屋だった。

こなた

「ああ! 成程! 本屋の人にバレないように本を万・・・」

かがみ

「あんた何考えているの!!!」

かがみのツツコミチョップ。

猿飛

「これからあなた達には店員や他の人達にばれないように自分の好みのエ」

ちょっと猿飛さん、そう言う事良くないよ。

猿飛

「ウォホン！……好みの本を買って来なさい。」

奈月

「はっ？」

五月

「それって普通では……」

猿飛

「そう？あなたに出来るの？」

そう言い残像を残しながら歩き出す猿飛。

「己の気配を完全に消し」

本を置いてある本棚の前に立ち

「すばやい判断で好きな本を選び」

残像を残しながら本を一冊抜き取る

「店長にばれないように金を払い」

店長の前を通過する時、ちゃりちゃりと金の落ちる音がする。

「何事も無かったように去る。どう？あなた達に出来る？」

手にはさっちゃんが好きの本（DMクラブ）を持っている。

全員

（あ！やっぱそう言う趣味なんだ。）

桂

「此は俺から行かせて貰おう。こんな事で忍者になれるのなら簡単すぎる。こんなの朝飯前、いや、カレー時前だ！」

桂はかっこよく片手を顎元で叩きつぽいやつをした。そしてもう片方はウェイト見たいに手を平らにし、頭に乗ってたカレーを置いた。

銀時

「おーーいイイイイイ！待てエエエエエエ！カレーは置いておけエエエエエ！」

奈月

「絶対邪魔になるって！」

カレーを置いておく様に勧めるが

神楽

「ヅラァァァ！絶対にカレーをこぼすなァァァ！カレーはお前の命だ！」

桂

「ルージャ！」

神楽

「ルージャ！」

銀時

「ルージャじゃねえよ！！普通にラジャーで良いだろう！」

銀時のツツコミを他所に桂はミッションを開始した。

桂はすばやく本棚に近づき、本を一冊取り出し、レジの前を通過しながら金を置き、出て行った。

カイル

「おお！すげえ！全然気付かれてない！」

こなた

「後は戻るだけ！」

バシヤ！

全員

「あ。」

カレーが零れた。

桂

「ふっ。後は………任せ………た………グハァ！」

それだけを言うと、口から血を吐き、倒れる。

神楽

「カレー忍者ァァァァァァァ！」

神楽は叫びながら桂へ駆ける。

神楽

「あれほど零すなと言ったのに………」

猿飛

「ランクBね。スピードは良かったけど、跡が残ってる。」

神楽

「くっ！次は私アル！カレー忍者のかたきを取ってやるアル！」
そう言いながら匍匐前進で本棚に近づく。

新八

「おおー！神楽ちゃんやるじゃん。」

少し神楽のスピードが上がった。

銀時

「まあな。こういうの結構好きそうだし。」

今度は本棚の前で素早く左右に動きながら目当ての本を探している。
かがみ

「あれ？なんか戻って来た。」

桂

「本当だ、なんか落ち込んでるようだ。」

新八

「桂さん復活早っ！」

そして神楽がこっちに来ると。

神楽

「銀ちゃん・・・ヒック・・・道に犬のうんこ落ちてたアル・・・
・・・どうしよう・・・（泣）」

銀時

「うわああああ！」

リアラ

「ちょっと！大丈夫？」

桂

「待て！リーダー。それはさっき俺が落としたカレーである可能性・・・
・・・くさっ！」

神楽

「もういい！慰めなくても良いアル、カレー忍者。いや、本当のカ

レー忍者は私アル！」

猿飛

「待て！ランクAあげるから泣かないで」

カイル

「くっ！次は俺が行く！リーダーのかたきをとってやる！」

続いてはカイルのターン。カイルは普通に本を取り出し、普通にお金を払い、普通に出て行った。

銀時

「お前何やってんだアアアアア！！これ忍者修業だぞ！本買いに行ってんじゃねえぞ！」

猿飛

「ランク無しね、と言うか本当に馬鹿なんだね」

カイル

「なんだよ！皆してバカバカ言うな！」

全員（リアラを除いて）

「本当のことを言ってるだけだ」

カイル

「うっ！」

カイルはいじけて道路の隅に行った。

リアラ

「あ！カイル！どこに行くの？」

カイル

「世界の果てへ……」

かがみ

「あんたは○タ○ンか？」

的確にツツコムかがみ。と言うか元ネタ分ってる奴いるかな。

猿飛

「はい、次、あんた」

リアラを指さす猿飛

リアラ

「え？わたし？」

猿飛

「そうよ、ちゃんとやってね」

リアラ

「はい…」

新八

「あれ、銀さん、何かリアラさん、絡まれてない？チンビラに」

銀時

「ああ、そうだな。」

リアラは本屋の前で本を探している時、チンビラ（ドラマなどのを想像してもらえば助かる）に絡まれた。

こなた

「助けに行かないの？あ！なんか足もとが光ってる」

新八

「本当だ、何だろう」

かがみ

「あれ、なんか空が赤く光ってない？」

銀時

「うん、光ってるな。花火か？」

新八

「いや、こんな真っ昼間に花火をするわけないじゃないですか」

猿飛

「あの子の足元の光が収まったよ」

こなた

「あ、本当だ」

かがみ

「あれ？空から何か降ってきてないか？」

銀時

「ああ、降ってるよ。火の玉が」

新八

「あっ！あのチンビラに直撃した、しかも三発」
全員

「……………（リアラを怒らせないようにしよ）」
全員の心が一つになった

こなた

「次はわたしがいくね！」

銀時

「がんばれよ（棒読み）」

こなた

「ふふうう」

こなたは出来るだけ低姿勢で本屋の中に入ったが

店長（らき☆すたのあの店長）

「おお！あれは！」

店員（あの店員）

「まさか！」

二人

「謎の少女A！」

こなた

「シクシク」

その後、こなたはず～っと店員の監視下に入って居た。

猿飛

「ランクCね、心構えは良かったけど、見つかってしまったからね」
かがみ

「あんたはこっちに来てからも何にも変わってないのね」
こなた

「見ないで！その目で見ないでエエエエエエエー！」

かがみ

「次は私ね」

かがみのターン！

かがみも出来るだけ低姿勢にし、本を取り出す。そしてそのまま外に出た

かがみ

「どう？」

こなた

「かがみん…お金払ってないよ…」

かがみ

「……………」

無言で気づかれないようにお金を置いた

猿飛

「全然ダメね。あなたみたいのタイプは侵入に成功したけど、それだけをしてターゲットを忘れ、そのまま離れることもあるから。」

奈月

「次はオレな！」

五月

「姉さん頑張れ！」

奈月のターン

奈月は神楽の様に匍匐前進し、本棚の前で立ち上がり、本を取り出

ジャンプ

し、お金を置く。

そして帰る途中で

ペチャッ！

何かを踏んだ。

奈月

「……………」

そのまま明後日の方向に向き、歩き出した
桂

「待て！奈月殿！！それはさっき俺の零したゲキカラゝカレーだと思っ！」

新八

「なんですかゲキカラゝカレーって、どこの貴族ですか！」

奈月

「……………」

そのまま走れ出した

五月

「姉さんああんるとしばらく元に戻らないの。」

銀時

「次はオ…」

猿飛

「待って、あなたは何でやらないの？」

五月を指さしながら

五月

「それは聞かない約束で」

別に理由が浮かばないじゃないからな。

そして30分後

新八

「銀さん遅いなく、何してるんだろ。」

こなた

「ねえ、先に帰っていい？なんかもうだるいよ」

カイル

「もうちょっと待って……」

カサカサ。

かがみ

「今、何か聞こえなかった？」

神楽

「聞こえたヨ。カサカサって」

新八

「何それ、ゴキブリ？」

リアラ

「ひっ！」（↑ゴキブリ恐怖）

カサカサ・

こなた

「やっぱり聞こえる」

五月

「聞こえるね」

トントントン…

奈月

「あ！音が変わった」

トントントン

全員

「……………」

全員の目の前であるゴミ箱は跳ねながら本屋に近付いていた。

全員（猿飛以外）

「汚なっ！」

猿飛

「いいえ、汚くなんかないわ。それはね、隠れ身というりっぱな忍術の一つ。さすが銀さん、発想が違うわ」

神楽

「何か甘くねえ？」

桂

「ひいきだよ！ひいき！」

カイル

「そうだぞ！オレなんか評価馬鹿しかないぞ！」

猿飛

「何？文句あんの？トリプルカレー！」

桂

「トリプルカレーって何だ！好きで着ているわけではないわ！」

カイル

「それにトリプルって何だ！それはオレも入ってるのか！」

ブオオオオオオオオオ！

猿飛

「いっとくげどね！それは黄色い布でできてるんじゃないから、き
ばっだカーテンで出来てるんだからきば忍者×2」

ギギイイイイ！

カイル

「何だと！そうだったのか！」

タッタッタッタ！

桂

「貴様！其処に直れ！ただっ切ってくれる！！」

ガシッ！

神楽

「止めろ！イエロー、指令に逆らうな！」

ドサドサドサドサ！

バラバラバラ！

全員

「……………あ！」

ゴミA

「しかし何でこんな所にゴミ何であつたpeg？」

ゴミB

「しらね」

ブォォォォォォ！

カイル

「なあ、あれ、ヤバくない？」

ビンボン！

リアラ

「気のせいだよカイル！本当は誰も入ってないじゃない？」
ブブー！

かがみ

「そうだよね！入ってたら死んじゃうもんね」
ビンボン！

猿飛

「じ、じゃあ！最後は新八君の番ね！」

新八

「あ、はい！いってきます！」

新八は立ち読みしてる人の中から手を本に向け、取り出し、そしてドアの前で手を出来るだけレジに向け、お金を置いた

神楽

「あれ？」

桂

「ちょっと…」

こなた

「旨く…」

かがみ

「行き過ぎて…」

奈月

「無いか？」

カイル

「全然気づかれてない…」

リアラ

「て言うか、誰も気にしてない？」

桂

「存在感薄！」

銀時

「おいおい！忍者も糞もないじゃないか！地味だったら誰でも成れるんじゃないかよ！」

血まみれの銀さん登場！

全員

「やっぱり入ってたのかよ！」

銀時

「よかったよ、こんな茶番参加して無くて。」

全員

「ジーーーーー…」

銀時

「いや、これはあれだよ！さっき便所に行ったらチンピラに絡まれて！」

全員

「ジーーーーー…」

銀時

「いや本当だって！マジで！何？その目エエエエエエ！！」

らっきー☆ちゃんねる

晶「みんなー！おはらっきー！いつもどうりの小神晶です」

稔「白石稔です」

後はオレ参上！

晶「ほえ？あんた、誰？」

ぐは！

稔「晶様、それはさすがに。ほら、あの人だよ！あの！……………」
……………誰だっけ？」

ふっ、いいさ、知らない振りしても。次回より、らっきー☆ちゃんねるは教えて！銀八先生になります！

晶「あああ！冗談、冗談！作者の陣八さんでしたね！」

稔「そうでした！でも、銀八さんはどうしたのでしょうか。」

ああ。それなら（俺が）になるようにしむけ病気で休んだよ（休ませた）

稔「なんだが色々裏が聞こえるんですけど…」

晶「取れあえず、質問いっきましよう！」

ええ、今回はなんと！二つも質問が来たんです！

稔「そうですね、作者さん、見たときもうびっくりしましたよ！」
それじゃ！質問をよむぞ！まず、ペンネーム「黒神」さんからの質問！その1『

以前に質問した『らき☆すた組とテイルズ組は『リリカル銀魂St r i k e r S 攘夷戦争鎮魂歌』を見て、誰が最もヒロインらしいか、好きなだけ答えてみてください』と言う質問で、誰が誰を投票したかを教えてください。

その2

誰も質問が今だ来ないので、次からは質問を3つか4つにして良いでしょうか？返事を待っています。』とのことです、お前ら！答えを！

こ「私はスバルです！断然スバルです！」

萌えましたからね

か「月詠さんに一票。とにかくお疲れ様（ツツコミ的な意味で）」

つ「神楽ちゃんに一票！友達だもんね」

み「スバルさんに一票。」

カ「スバルさんに、強いですから」

ロ「フェイトに一票！理由は美！わかるだろ？な！な！な！」

ジ「上の上と同じ、理由もだ」

リ「神楽に一票」

奈「言われてないけど投票した！スバルに」

五「神楽に一票」

そして俺がフェイトに一票！原作（赤夜叉さんの意味で）のどうりにさせたいからな！

そして二つ目！ええ当然！三つ四つ所か十個二十個もいいぞ！はい、嘘です、三つ四つが限界です。

晶「そして次！ペンネーム「sibugaki」さんからの質問、
と言うかなんというか『自分今スパロボとらきすたのコラボ小説を
書いてるんですが、陣八さんの的にどう思いますか？

率直な感想をお願いします』だそうです。どうですか？」

ええ、お前の小説はすでに俺に荒らしました（読みました）！速や
かに人質を解放しろ！

はい、冗談はここまでにして、読んで思うことは一つ、こなたがか
なり痛い人になってますwww

これからがんばってください！そしてこれからもこっちに質問を
ください！もう一つだけは辛いんだ！

稔「ええ、作者さんが号泣しましたから終わりにします、それでは
！」

二人「ばいに〜」

うおおおおおお！（泣）

第8訓「立ち読みは良くない！」（後書き）

遂に激突する七班と暁！

いったい誰が生き残れるのか！

次回、銀☆魂 疾風伝！「七班VS暁！決着の時！」
海賊王に、俺は成る！

新「いや！嘘だから！しかもごちゃ混ぜだから！」

銀時

「なにこれ…」

これは俺がニコニコ動画で見つけた面白動画を皆さんにお勧めするコーナーだ！

というわけで本日はこれだ！

「最強は誰だ！？ 8大ヒーロー大集合の巻」

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm2348079>

これには珍しいカイルのイジケシーンがあるぞ！

そしてソーディアンの本当の使い方が載ってるぞ！

第9訓「チーム分けはバランス良く」

第9訓「チーム分けはバランス良く」

此は遠山ち○こ太・・・遠山珍太郎の屋敷。何処から情報を手に入れたか、いつもより見回りの人数が多い。そしてそんななかの二人は何やら話をしているようだ。

見回りB

「なあ、お前知ってるか？」

見回りA

「何を？」

見回りB

「なんかさ、尻に月の光を当てれば尻に良いらしいよ。」

見回りA

「お前ふざけてるのか！？勤務中だぞ！」

見回りB

「いやゝ本当だって！ほら、尻は普段光に当たらないだろ？太陽の光でも良いらしいけど、月の光はもっと良いらしいよ。」

見回りA

「お前いい加減黙れ！今この屋敷に桂が潜伏しているかもしれないんだぞ！」

見回りB

「はいはい分った。んじゃ、俺、あっちに行って見回って来るから。」

見回りA

「全く。」

そして見回りBが行くと

見回りA

「御月様よ！！俺の痔を直してぐだされ！！」

けつ丸出しにして月に向かって言い放った。
そして月は何故か降下し、

見回りA

「んぎゃああああああ！！！」

肛門に蹴りをクリティカルヒットした。

銀時

「痔は医者に診て貰え！」

そして登場したのが忍者ホワイト！

解説マン

「特技 忍法 隠れみの術（と言う名の変装）♪」

そしてちょっと肛門を蹴った足の匂いをかくと

銀時

「くっさ！」

べっとり着いてました、う○こが。

見回りC

「貴様！此で何をしている！」

見回りD

「曲者だ！」

見回りC（提灯つき）、見回りDが現れた！

見回りC

「貴様！何者……」

『シュッ！』

『トッ！』

突如飛来したクナイにより、提灯は破り、辺りは真っ暗になりました。

見回りC

「な、何が起きた！」

見回りD

「何も見えないぞ……！」

????

「あら、それは大変！眼鏡をか掛けなくちゃ。」

『シュワ』

『パッパッ』

『タッ！』

見回りC

「うわあああ！」

見回りD

「何だこれは！？」

背後に突如現れたさっちゃん。そして納豆の糸を使い、ベトベトの眼鏡を掛けられた。

解説マン

「忍者めがね 特技 忍法眼鏡が無いと明日も見えない（敵の眼鏡に指紋をたくさんつける♪）」

見回りC

「うわああああ！何だこれ！？取れない！しかも納豆臭い！」

見回りD

「でも、何かいいかも…」（↑変態です）

????

「へへへ、こんな眼鏡もあるんですね。」

二人の後ろに突如現れた人は、えと

三人（作者、見回りCD）

「あれ？君誰？」

????

「フン！」

という音と共に振り下ろされる二つの小太刀。二人の見回りを切り倒した。……あれ？なんか飛んでギアアアアアアアアア！

――作者が重傷により入院中、しばらくお待ちください――

気を取り直して..

あらわれたのは忍者ホルスタイン！

解説マン

「特技 とりあえずホルスタインにしたけど、やっぱ地味♪」

見回りE

「おい！あっちになんか居るぞ！」

見回りF

「曲者だ！」

見回りG

「はやく仕事終わらして、家族と満月を楽しみたいぞ！」

????

「ならば」

???

「月見カレーなんて」

???

「どうアルか！」

『ペチャペチャペチャ！』

三人の目の前からいきなり三人の忍者が現れ、カレーをぶつけた。

解説マン

「忍者レッド（中辛）忍者イエローワン（甘口）イエローツー（辛口）」

特技 何かめっちゃカレー投げてくる♪」

残りの説明は無しで（笑）

残りの諸君

「みんな出てって！此処は私と銀さんだけでいいの！私と銀さんが愛を育てブファ！」

猿飛が喋ってる途中で何やら桃色の光線が降り注ぎ、猿飛だけを飲み込んだ。

誰からの光線は皆さん知ってると思います（笑）

かがみ

「ちょっとこなた！あんた私の足踏んでるよ！」

リアラ

「ごめん！それはわたしです」

かがみ

「そうなの…」

桂&カイル

「そうだ！」

カイルと桂は何やら閃いた様子ですそして二人とも飛び出し、カイルを持って木の近くで片足で立った。

銀時

「二人して何やってんだ？」

神楽

「ヅラア、お前何やってるアルカ？」

リアラ

「カイルもなにやってるの？」

カイル&桂

「ヅラ（カイル）じゃない、松だ！」
モンゴリアンカレーツリー

銀時

「おいしいいいいいいい！それ無理イイイイ！というかカイル
ウウ！モンゴリアンカレーツリーってなんだ？何で木からカレーが
生るんだ？」

カイル

「一度でいいからカレーが実る木を見たかった！」

銀時

「ねえよそんな木！何所にも居ねえよ！」

カイル

「なに！くそ！父さんに騙されたのか！」

新八

「お前の父親息子になんてことを教えてるんだ！」

桂

「俺に対する突っ込みはそれだけか！」

かがみ

「突っ込んでほしかったの！？」

桂

「大体こんな黄色い木が有る訳無いだろう！」

こなた

「じゃなんでやったの!」

桂

「それはだな……エリザベス!」

桂が喋りかけた時、桂の目に映ったのは、数人の浪人に連れ去られたエリザベスだった。

桂

「エリザベス!」

桂は周りを気にせず、真っ直ぐにエリザベスに向かって走った。それだけエリザベスが桂にとって重要な友だったというわけだ。

銀時

「ヅラ! チツ、周りが見えてねえみたいだな、どうする?」

奈月

「勿論行くしかないだろ!」

かがみ

「そうだよね」

カイル

「先輩（カレー忍者として）を助けなければ!」

銀時

「よし、じゃ行くか!」

銀時はそういうと、桂が走って行ったほうに向かったが、後ろには

だれも付いていない。

こなた

「行ってらっしゃい！」

かがみ

「きをつけてね！」

カイル

「先輩はたのんだぞ！」

新八

「あんたらなにやってんの！ さっきの言葉はなんだったの！」

見回り（大群）

「おい！ あつちになんかいるぞ！」

「この壁だけが紫色だ！ エイリアンに取りつかれてる感じだぞ！」

こなた

「やば！見つかった！」

新八

「早く逃げろ オオオオオオオオオオオオ！」

* * * * *

どころ代わって桂の近く

桂

「おお！銀時！一緒に来てくれるのか！」

銀時

「ちげーよ！ばれたから仕方なくついてきてやっただけだ」

ええ、状況説明が遅れました。

現在、桂たちがいる場所は二つの洞くつの前、エリザベスがどっちに入ったのは知らない。ので、必然的に二手に分かれないといけなくなる。

銀時

「で、どうやってチーム分けするか？」

神楽

「私はリーダーがいいネ！」

カイル

「だったら俺もリーダーになる！」

こなた

「それなら私だって！」

桂

「なら今度こそ俺が！」

新八

「いい加減にしろおおおお！このままじゃ全員リーダーだよ！隊員いねえよ！」

「じゃさ、リーダを決める方法を考えるリーダを先に決めよう！」

「でもどうやって決めるの？」

「まずはリーダを決める方法を考えるリーダを決める方法をSリーダをS」

「かわらないよ！ やっぱみんなリーダになるよ！」

[illegible]

チーム A

隊員
桂

カイル

145

チームB

リーダー 銀時

かがみ

こなた

猿飛

奈月

に決まりました。

桂

「何でおれがリーダーじゃないんだ！」

神楽

「そうネ！私がリーダーじゃないのはともかくして、なんで新八リーダーだね！」

カイル

「くそオ、主人公の俺がリーダーじゃないとは（ブツブツ）」

リアラ

「カイル、元気出して、ね？」

以上がチームAの様子の実況でした！
続いてチームB

銀時

「やっぱり俺がリーダーだな。」

かがみ

「何故か疲れる予感がする…」

こなた

「その予感は当たると思うよ？宇宙意思が言ってるもん。」

猿飛

「さあ銀さん、私と一緒に愛をs」

奈月

「おりゃあああああああ！」

猿飛

「いよおおおおおおおおお！！！」

奈月

「この小説全年齢対象だぞ！打ち切りにしたいのか！」

以上、チームBの様子でした。

大丈夫なのか？

らっきー☆ちゃんねる

晶「……………」

稔「……………」

銀「……………」

あの？どうしたんですか？みんなして黙っちゃって。

晶「なんか遅いんだよ、今回」

稔「自分もさすがにこれは無いかと」

銀「つうかお前やる気あんの？」

……………

銀「ぐの音も出ないってか？ああ？」

ホント面目ない、ホントぐの音もしない。

晶「じゃあ、やる気出無いけど、質問」

稔「ええ、ペンネーム『黒神』さんからの質問、『

その1

カイルは父のスタン以上の剣士は存在すると思っていますか？

その2

ロキに選択質問。「女だらけだけど全然モテない世界」と「女は1

人もいないけど男にモテる世界」2つの世界の内、どこに飛ばされたいですか？

その3

ジューダスに質問。うちの小説の『リリカル銀魂Strikers』のスバルの原作設定を魔剣士として変更しました。神速の剣術を中心とした強さはジューダスから見てどう思いました？

その4

リアラに質問です。『リリカル銀魂Strikers』の九兵衛のキャラ崩壊設定ですが、貧乳であることを気にしているので、強く同様しますか？

『だそうです。』

銀「それじゃ、カイル、頼むわ」

カ「そりゃいると思うよ！上には上がいるってね！」

ロ「次は俺のだな……………って、どっちにも行きたくないわあああああああ！！！」

しいって言っても前者だと思う。ナンパ好きだし。

ジ「次は僕か…。僕に言えることはただ一つ、確かにアイツ（スバルです）は強い、だがそれは真の強さとは言えない。せいぜい真の強さに近づくように頑張れよ」

おおお！珍しいジューダスの励まし…皮肉？

銀「次はリアだが…」

リ「私は気にしてません…気にして……………」

どうやら気にしてるようだ…

第9訓「チーム分けはバランス良く」(後書き)

今回は光軍先生の解説マンを使わせていただきました、ありがとうございます！(ペコリ)

第十訓「ダンジョンで気をつけるのは宝・敵・罠」(前書き)

本日のおススメ

【吹いたら負け】 ベジータ様のお料理地獄 【お笑い】

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm3959>

これを初見、顔色一つ変えずに見られたらすごい(笑)

第十訓「ダンジョンで気をつけるのは宝・敵・罠」

銀時

「どうなってんだ此処は…」

銀時だちは桂らと別の穴に入っていた。

そして銀時が開口一番で喋ったのが呆れにも似た感嘆だった。

今、銀時らの前には真っ黒の狼だとか鳥だとかが色々ウロウロしてる（イメージはTOHの敵シンボル）。

奈月

「どうなってんだ此処は？」

銀時

「それ俺さっき喋ったやつだよ、おれもう一回喋ったよ！」

こなた

「ちょっと触ってみようか？」

かがみ

「危ないからやめい！」

猿飛

「え？そうなの？」

といった猿飛はすでに一体の黒いオオカミを触っていた。

銀時・かがみ

「お前^{あんた}なにやってんだ！」

すると急に全員の目の前が真っ黒になった。

こなた

「どうなってるの！これ？」

かがみ

「知らないわよ！」

奈月

「おい！あっちになんか書いてあるぞ！」

猿飛

「本当だわ！なんかNOW LOADINGって書いてあるよ！！！」

銀時

「これはゲームか！あ痛！此处に壁があるぞ！」

とまあ、こんなゴダゴダが有りましたが、みんなの目が元に戻って

銀時

「おい！あっちになんかあるぞ！」

かがみ

「もしかして、あれって……」

全員

「スラ○ムウウウ!!」

そう、銀時たちの目の前にはドラ○エのマスコットモンスターのスラ○ムだった。

かがみ

「なんでだよ!なんでこんなところにスラ○ムが居るんだよ!何で存在しているんだよ!」

かがみ の会心の つっこみ

こなた

「うおおおおお!凄く燃えてきたんですけど!勇者の気分なんですけど!」

こなた が 燃えてきた

銀時

「なんか地の文が変なんですけどオオオオ!!」

銀時 も ツツコンだ

解説マン

「突然ですが、これより説明させていただきます♪」

解説マン が 現れた

奈月

「おわあああああ！何だコイツ！」

奈月

が 驚いた

猿飛

「ちょっと、地の文がウザいけど。」

猿飛

黙れ！

こなた

「良いじゃん！凄く燃えるし！（燃え）」

解説マン

「戦闘するには画面の右下にあるコマンドで戦うを選ぼう♪」

かがみ

「画面ってどこ！」

こなた

「なんか此処にそれっぽい物があるよ！」

こなた

は 自分の右下を

指さした

銀時

「お、ホントだ！」

そこに書いてあったのは

たたかう

↑

どうぐ

わざ

にげる

さるのまねをする

じぶんをなぐる

奈月

「何か変なのが混ざってるううううううう！」

解説マン

「そして攻撃するにはたたかうを選びましょう♪」

かがみ

「それぐらい分るって…」

こなた

「ふむふむ…」

こなた

は メモを取っていた

かがみ

「あんた何やってるの？」

こなた

「何ってメモを…」

かがみ

「何でメモを取ってるって聞いているけど…」

こなた

「こういうのはチュトリアルをちゃんと読まないとだめだよ？」

かがみ

「だからってメモとることは…」

解説マン

「そして道具を使うときはどうぐを選ぼう♪試しに選んでみましょう♪」

かがみ

「割り込むな！」

こなた

「ふむふむ…ハイポチっと」

こなた

は どうぐを選んだ

こなた

「なにがあるかな〜♪」

どうぐ

やくそう

×5

こなたのメモ

銀時

「此処はまともみたいだな…」

猿飛

「ちょっとメモの中身を確認させてもらおうわよ？」

猿飛 は こなたのメモを使った

メモの内容

攻撃するときはたたかう

道具はどうぐを選んでから使う

しかし：ゲームやりたい！ダлуй！帰りたい！

猿飛

「あんたメモに何書いてるのオオ！」

こなた

「テヘッ！」

猿飛

「誤魔化すな！」

解説マン

「技を使いたいときは…」

銀時

「だから分かってるって言ってんだろぅが！！！」

解説マン

「自分のステータスを見るときは→→←←↑↑↓↓A B B Aを順番に押してください♪」

かがみ

「何でステータス見るのにコマンドが必要なんだよ！」

解説マン

「それではチュトリアルはこれで終わりです、またね♪」

銀時

「二度と会うかアア！」

そして銀時がツツコミを終えると、スラ○ムたちが突っ込んできた

奈月

「チュトリアルもコマンドも関係ねえじゃねえかアア！」

はい（笑）

みんなが武器を構え（銀時は木刀、猿飛は何故か納豆をかきまぜる、かがみとこなたはハンドガン、奈月はロングソード）、敵（スラ○ム達）の襲撃に備えるが、何故かスラ○ム達は銀時らを囲むだけで何もしない。

銀時

「なんだ？こいつら」

スラ○ムA

「お前たちに告ぐ、お前たちはすでに私たちに囲まれた、速やかに武器を捨てて投降しろ！悪い様にはしないぞ！」

……………

しばらく痛い沈黙が続く。スラ○ムAは聞こえなかったと思ったか、もう一回復唱した

スラ○ムA

「もう一回言う！お前たちはすでに私たちに囲まれた！速やかに武器を捨てて投稿しろ！悪いようにはしない！」

スラ○ムB・C・D

「そうだそうだ！」

後ろにいる三人（？）のが続く。

.....

残ったのはやはり沈黙だった。

スラ○ムA

「お前ら何かリアクションを示せええ！こっちがバカみたいじゃないか！」

スラ○ムAが怒鳴る。が、誰も動かない、と思ったら銀時がプルプルと震えだした

銀時

「.....なんで.....が.....」

スラ○ムA

「お！やっと反応したか。すぐに武器を…」

銀時

「何でスラ○ムがしゃべっとるんじゃアアアアアアア！」

と大声で叫びながら木刀をスラ○ムAに向けて投げた。

木刀は見事な放物線を描き、グサリとスラ○ムAに突き刺した

スラ○ムA

「ぎゃアアアアアアアアア！刺さった！ものすごく刺さったアアアアア！！」

スラ○ムAは大声で叫ぶ。て言うか案外平気なようだ、叫んでるところを除けば。

スラ○ムB

「リーダー！しっかりしてください！」

スラ○ムC

「てめー、よくもリーダーを！」

スラ○ムCが銀時めがけて突っ込んでくるが

銀時

「うるせー！」

あっさり踏まれてしまった。

スラ○ムC

「オパンツ！」

という叫び声とともに倒れ

スラ○ムC

「我が生涯に悔い無！」

と覚悟決めたような事を言い出した。

かがみ

「あんたの人生それでいいの！さっきオパンツって叫んだぞ！」

すかさずツツコミを入れるかがみ

スラ○ムD

「よくもリーダーとイエローを！」

こなた

「イエローだったのそれ！」

スラ○ムDはツツコンでくるが

ザシュツ！

奈月に簡単にまっぶたつにされた。

奈月

「うわっ！何これ！何かヌルヌルしてる！」

スラ○ムB

「スラ丸ウウウ！（笑）」

猿飛

「何で笑！そこ笑うところ！？」

スラ○ムA

「クッ！これで勝ったと思うなよ！」

スラ○ムAとBは在り来たりのセリフを吐き、逃げて行った。
そして逃げていく二人(?)を見送ると、静かに銀時が口をあけた。

銀時

「なあ、今回の話、必要なのか？」

かがみ

「さ、さあ？」

猿飛

「とりあえず先に進みましょう！早く行かないとトリプルカレー先を越されるよ！」

奈月

「じゃ、いこっか？」

そして何故か低いテンションを引っ張って先に進んでいった。

その後、しばらく歩くと、広い部屋にたどり着いた。

部屋は広い資格の箱の形をしており、銀時だちが入ってきたほうの反対側に何やらベランダみたいな形をした足場がある。

こなた

「なんか広いどこに入っただけど…」

そして銀時達を追うように隣の出入り口から桂たちが出てきた。

桂

「おお銀時、無事だったのか。」

そういった桂の口は何故かたらこ唇だった。

神楽

「銀ちゃん、大丈夫だったアルカ？」

新八

「エリザベスさんは見つかりましたか？」

後ろからついてくる神楽と新八、たらこ唇だった。

カイル

「いててててて…ありがとう、リアラ。あ！銀さん、そっちはどうだった。」

そして更にその後ろからついてくるリアラに肩を借りて歩いてくる傷だらけのたらこ唇アフロ（笑）

銀時

「……お前ら何があったの？ いったい何があったの！」

新八

「ああ！これですか？これは…」

回想スタート！

回想図1

カイル、リアラ、桂、神楽、新八の五人が大きな皿に入ってる大量のカレーを早く食っていて、その隣にはデカイ時限爆弾が置いてるというカオスな状況の絵。

かがみ

「何このすごい状況…」

回想図2

五人が一緒に火を噴く様子。因みに隣の爆弾のカウントダウンは十秒しか進んでない。

こなた

「辛かったんだね…」

銀時

「辛かったんだな…」

新八

「うん…」

回想図3

リアラと新八が先、後ろで神楽と桂がカイルを踏みながら逃げる。爆弾のカウントは残り10

銀時

「おいしいいいい！何やってんだお前らアア！！カイル踏んでるぞ！！！」

神楽

「こういう時に良くある事アルヨ。人を踏むぐらい…」

奈月

「ねええよ！絶対にねえよ！」

回想図4

カイルが爆発に吹き飛ばされる絵…

銀時

「カイル…ど疲れさん…」

回想終了！

とまあこんな感じで合流して進もうとしたその時！

桂

「あ！あれは…」

次回に続く！

らっきー☆ちゃんねる

晶「みんなどうもおはようございます。」

稔「なんかいつもと違いますね…」

晶「ちよっとテンションを下げてみました。」

稔「下げちゃったの！何ですか！？」

晶「実はさ、この原作者さんが『晶って書きづらいよね、テンシヨ

ン高すぎで追いつけないよ(笑)』っていつてましたから。」

稔「あ、いやだからってこれは下げすぎだと思いますよ！誰ですか！？って思っちゃったじゃないですか！」

銀「とりあえずギ○グマ○ガ○和の物まねはいいから、質問いくぞ」
「ええ…ペンネーム『黒神』さんからの質問」

質問です。

こなたに質問

『貧乳はステータス』だと言いますが、『巨乳』もステータスですか？それでもステータス外ですか？

かがみに質問

僕の小説、『リリカル銀魂Striker』攘夷戦争鎮魂歌』
では新八はいまだに出ておらず、なのは好きのオタク設定となっていますが、どう思いますか？

つかさの質問

姉、かがみがコスプレするのであればどの衣装が一番似合うと思いますか？想像で考えても構いません。

みゆきに質問

4人の中で貴女が一番出番が少ないように見えますが、貴女自身は自分の存在にどう思いますか？

以上、今回は『らき☆すた』組に対する質問です。
『だそうだ。どうよ、お前ら。』

こ「認めません！それがステータスとは認めません！（泣）」

大泣きしだしたこなた。

か「……」

無言で新八を見る。このとき新八はわかった。眼は時にはどんな辛辣な言葉よりひどいと…

つ「ほえええ（ボーー）」

か「つかさ〜！ちょっとつかさ？聞いてる？」

完全に自分の世界に入り…

30分後

つ「『空の軌跡』のエステルがいいと思います！」

こ「えええええ！なんで！」

っ「髪型が同じだから、かな？」

こ「なんで疑問形！！」

はい！次！

み「私は私なりに頑張ってると思いますが…自分でもわかりません…」

因みに出さない理由はと言うと、すごくボケさせ辛い…本当に辛い…

銀「結局お前のせいか！！」

オアマアアア！

第十訓「ダンジョンで気をつけるのは宝・敵・罠」(後書き)

もうとにかくすみません…本当にすみません…

第十一訓「普段真面目なやつほど怒ると怖い（作者を含む）」（前書き）

すいません、こんなに間が空いてしまって…

実はですね、ちよつと八月にアクシデントがあつて、それで携帯をなくしてしまつたんです。

今まではずーと携帯でこそこそ書いていたわけですが、それが急にうちの公衆パソコンを使わないといけないことになり、それはもう、田舎のバーさんに、都会という名のコンクリートジャングルで生きろというぐらいの無茶振りで、第一あれだ、恥ずかしい…

で、この前やっと自分のノートパソコンをゲットしたわけで、やつとそこそこかける。やつとおばさんも田舎に帰って静かに暮らせるようになったわけですよ。

え？空知みたい？バカ、オメエ、わざと似せているに決まってるだろう！！

第十一訓「普段真面目なやつほど怒ると怖い（作者を含む）」

前回のあらすじ…遠山金太郎にさらわれたと思われる桂の愛犬（？）・エリザベスを救助するために忍者修行を始める銀時たち一行。さっちゃんの『別にそんなに厳しくなかった』修行を乗り越え、遂に遠山金太郎宅に潜入し、エリザベスを追って入ってきた大部屋で桂が見たものとは！

桂

「あ！あれは…」

桂は桂たちと向かい側に設置されているベランダを、すごく驚いたように指さしながら大声で叫ぶ。

桂

「エリザベスウウウ！！」

桂の指差した向こうにいるのはまさにエリザベス。ただし手足は何やらフックのようなもので壁に固められてある。

桂

「エリザベスウウウー！！！！」

桂は大声で自分の仲間の名前を叫びながらその仲間の元に走って向かう。

銀時

「おい！ヅラ！」

銀時は桂を呼び止めようとするが、桂は今エリザベスが見つかったということだけで頭がいっぱいで聞こえていない。

銀時

「くそ！あの馬鹿！これは罫かもしれないってのに！！無駄に原稿13行を使いやがって！」

銀時はこんなメタな発言をするので当然…

新八

「いや！怒るどこソコ！！？」

新八のツツコミが火を噴く。

猿飛

「！！ダメエ！近寄っちゃ！！」

猿飛も大声で桂を止める

その瞬間のことだった！突然エリザベスが内側から膨らみ、破裂した。その中から大量のクナイが吹き出し、桂に向かって飛んだ。

桂

「！」

桂は、当たる直前で何とか止まり、バックステップでよけた

桂

「エ…エリザベスウ…」

桂は突然、破裂したエリザベスに驚き、その場に立ち尽くした。

???

「残念だったな、エリザベスちゃんは、ここには居ねえよ。」
突然どこからともかく男の声が聞こえる。

猿飛

「その声は…まさか!!」

猿飛は辺りに響く声が、聞いたことのある声だということに気づき、すぐに誰の声かに気づいた。

????

「久しぶりだな!猿飛あやめ!!」

もはやボロ雑巾になったエリザベス(の被り物?)の中から出てきたのは…

猿飛

「あなたは…服部全蔵!!」

そう、ここで立っているのは、かの御庭番最強とうたわれた服部全蔵である。はっとりぜ

因みに、コンプレックスとして痔に病まんでる。

全蔵

「フウツ、久しぶりだな!ジャンプ侍!!」

銀時

「あ!お前は!あの時の!」

回想..

銀時がファミレスの前で入るかどうかを悩んでるとき、その後ろを通りかかる人々の中に、服部全蔵がいる。

回想終わり。

全蔵

「そんな遠い関係なわけないだろう!ほら!ジャンプ取り合った仲間だろ!」

全蔵は銀時の的外れな改回想を突っ込む

銀時

「ああ！　そういやそんなことあったっけな！　えーと、大刺クン？」

全蔵

「服部全蔵だっつってんだろぅが！！　…ふう、どうせお前らエセ忍者じゃ俺たち本物の忍者にはかなわねえ。」

全蔵がしゃべると同時、に辺りに黒い影が九つ出現し

全蔵

「そう、俺達本当の忍者戦隊にはかなわねえ…」

全蔵の言葉が合図かのように周りの九つの影が一気に身に纏った黒いマントを脱ぎ棄てる。

ていうか黒いのはマントなんだ（笑）（B Y作者）

郷

「居地五有の郷！！」

修羅

「似御鵜の修羅！！」

薫

「酸語迂の薫よ！」

松尾

「市碁卯の松尾！」

カレー男

「互午右のカレー男！」

浅里

「澁悟芋の浅里！」

遊

「納那醐得の遊！！」

灰区鋤男

「葉地檜菟の灰区鋤男！」

戯

「糾宕烏の戯！」

服部

「そして魔利支天、服部全蔵！！」

全員のお披露目が終わるとポーズをとる。

全蔵

「われら十人合わせて、忍者戦隊、ジュウニンジャ！」

決め台詞を言うと、後ろでなんか噴出した。

カッコ良くポーズをとりながら言う全蔵だが、見る側。つまり銀時達の目は線になっていた。

そして全蔵らはしばらくポーズをとり続けたが、銀時たちのリアクションが目細めた以外にない。

あまりのリアクションの無さにイライラする全蔵、そろそろ何かしゃべらないと自分が馬鹿にみえるので、何かをしゃべろうとした途端、新八からツツコミが飛んだ

新八

「なんだよ、それ!! ジュウニンジャって!! しかも何人かの名前が凄く適当だけど!! 作者が三十秒で考えたような名前だけ!!」
はい（笑）（BY作者）

カレー男

「うるせ!! こっちも気にしてんだよ!! でもな、いろいろあんだよ! 大人には!!」

かがみ

「ごまがした! よくわからない言い訳でごまかされた!」
カレー男の言葉に江戸二番のツツコミ使い、かがみがツツコム。

その瞬間、ギギギギという器械音があたりに響き、それと同時に銀時らと全蔵らを両断する形で、檻が部屋中央から降りる
そしてさらに「ハハハハハハ」という笑い声を少し悪役っぽくした笑い声が、エリザベス（偽）がいた壁の上にあるベランダから来る。
そしてその直後に来たのは、初回登場は必ず目を見せない様な悪役……のレベルを三十等分にし、そのうちの一つをもう一回三十等分するぐらいの悪役、つまり珍太郎が登場した。

ちん○太郎

「フハハハハハ! 桂とその他よ! 年貢の納め時だ!」

新八

「何ですか!!? その他って!!」

かがみ

「名称表示が違うけど!! あんたそれでいいの!?」

ちん○太郎

「うるさい！これなんとも成らないんだよ！こっちも何とかしてもらいたいぐらいじゃ！！」

桂

名称表示

「じゃあ、これを何とかしたらエリザベスを帰してくれぬか。」

ちん○太郎

「いい訳ねえだろう！…それよりジュウニンジャは一人一人が元御庭番衆の猛者ばかり…貴様らに生き残る筋合いはない！」
コントを無理やり終了し、そのまま話を進めるちん○太郎。

ちん○太郎

「かわいいエリザベスちゃんの目の前で朽ち果てるがよい！」
ちん○太郎がしゃべり終わると同時に、後ろから浪人二人に連れてこられるエリザベス。

桂

「エリザベスウウー……！！！！」

桂はエリザベスを見た瞬間、まるで発狂したかのごとくエリザベスへ向けて突っ込む、が

郷

「お前の相手は俺だ。どこを見ている！」
相手の忍者、郷に阻止される。

桂は「クッ！」と小さく声を出し、仲間、というかBチームのころへ戻る。

新八

「銀さん！大丈夫ですか！？」

新八はすぐに隣を、檻の向こうのAチームのところを見ると…

全蔵

「ジャンプ侍イイイイー！！！！」

銀時

「イボ痔忍者ー！！！！」

そこには木刀と小太刀で戦っている全蔵と銀時。

薫

「あんたさあ、学校で一部の男子に人気があったんだけど、なんかみんなキモかったんだよね。メガネ萌えとか。」

猿飛

「脇さん、あなたに親友の関さん、いるじゃない？あれ、影であなたの悪口を言ってたんだよ。」

新八

「あんたらは何女特有の陰険な戦い繰り広げてんの！！」
思わず突っ込んでしまうのは突っ込みとしての悲しい修正か…（誤字ではありません）

そしてこちらでは

皐月・こなた・遊・戯

「デュエル！！」

そして全員デッキからカードを五枚ドロ―した

遊

「フフフフフ：私たちに戦いを挑んだ事を後悔するがいい！」
遊はデッキからカードを一枚ドロ―し、

遊

「モンスターをセットし、カードを一枚セットする！」
遊の場にうつ伏せのカードが三枚、逆V状に出現する。

遊

「ターンエンド！」

こなた

「フフフフフフフ…」

いきなり不気味に笑うこなた、

遊

「どうした！？何が可笑しい！」

こなた

「ハ―ハハハハ！このわたブウ！！！」

こなたはセリフを途中で止めた、止められた。原因は彼女の口を見ればわかる。

カレーだ、英語にするとc u r r y, 日本の主食の一つであり、昔聖徳太子も愛食していたという。

こなた

「モゴモゴ…ゴクン！」

こなたは口にぶつけられているカレーを食べ（なぜ食べたのは聞かないでくれると助かる）

こなた

「ブバババババババババババババババババ！」

ありえない声を出して倒れた。

かがみ

「こ、こなたー！ー！！」

かがみがこなた（だった物）の元にかけてづける。

新八

「ちょ、ちよっとおおおお！！何やってるのかをツツコム間もなく大変な事に！と言うか、何なんだ！あのカレー！何が入っていたんだ！！何所から飛んできた！」

素早く処理してつつこんでないいないボケも処理し、つつこみカレーの出所を探す。

すると直ぐ目に入ったのは、すごい数の郷と、郷が投げる大量のカレー、そしてそれに囲まれながらも、なんとか飛んでくるカレーをすべて冷静によけながら、手に持つてるカレーを一人ずつに投げる。

他から見ればすごい戦いだ、実態はただ、食べ物を粗末にしてるだけだ。

新八

「って、あんたらは何勝手に戦ってんの！なんつう戦い繰り広げてるの！！」

直ぐにツツコム新八。突っ込んだ後、直ぐに右からカレーが飛んでくる音が聞こえる（何故分かるのは（ry）

直ぐにしゃがみ、それをかわす。かわされたカレーはそのまま壁に当たり、ジュウ・・・というあり得ない音を発しながら煙が立ち上がる。

新八

「あんたらカレーに何入れたんだ!! 何を入れたらこうなるんだ!!」
硫酸^{カレー}をぶっかけられた壁を指差しながら大声で聞く。

このとき新八は知った、これはカレーは、自分の姉が作った卵焼き^{ダークマター製造機}と同等、いや、それ以上の威力を有していることを。

そして同じ方向からまた大量のカレーが飛んで来る。新八はそれをすべてギリギリにかわし、飛んできたほうを見る。^{猛毒物質}

そこには両手にカレーを持ち、仁王立ちしている、カレー男がいた。

カレー男は新八が自分を見ていることに気づき、一喝するつもりで叫ぶ

カレー男

「オラアアア!! 早く食べ!! オレのカレーには何も入っていない!! カレー好きに悪いやつはいないってな!!」

新八

「うそつけエエ!! 普通のカレーがあんな破壊力を持っているかああ!!」

既に、床にまで侵食しているカレーを指差す。

カレー男

「良いから食ってくたばれって言ってんだよ!! 早く帰ってお通ちやんの新曲「お前なんか幼馴染じゃないンディアンロックンロール」を歌えるように練習しないと、隊長が怒るんだよ!! こっちの都合も考えろボケ!!」

お通ちゃん…

この言葉を聴いた瞬間、新八の気迫が一瞬にして変わった。

普段のツツコミダメガネ、新ぱつつあんから、寺戸通親衛隊隊長、志村新八に変わった。

新八は本物の忍者も青ざめるスピードでカレー男の目の前に行き、指二つでカレー男の体ごと鼻を持ち上げる。（志村新八は、寺戸通親衛隊隊長に変身すると、戦闘力がΩ倍になり、ドラ○ンボ○ルに出られるんじゃないか？と思わせるぐらい強くなる。）

親衛隊隊長、志村新八

「テメー、会員番号96番、宮本カレー男！寺戸通親衛隊隊規85条を言ってみろ！！」

宮本

「オメエ、なぜそれを…は！お前はまさか…志村隊長！！」

ここで宮本ごとカレー男は、自分が立ち向かった相手が誰なのかを、ようやく理解した（親衛隊の上司だけど）

親衛隊隊長、志村新八

「隊規を忘れた上、下克上とは出来るようになったじゃねえか…新参者の分際で！！」

低く、しかし確かに凄みを入れてしゃべる新八。

カレー男

「す、すいません！隊長オオ！！今言います！！だから処刑だけは！！！！」

必死に命乞いをするカレー男だが、新八の言葉はその淡い希望を打

ち砕いた。

親衛隊隊長、志村新八

「問答無用！！お前は隊規を忘れ、下克上を仕掛けた上、お通ちゃんのを覚えられなかった、よって、鼻フックデストロイヤーVer. B Rの刑を処す！！消えろオオオオ！！！！」

そしてそのまま天井に向け、カレー男を投げる。

カレー男はそのままありえない速さで天井を突き破り、空に消えた。

カレー男が見えなくなるのを確認すると、新八を覆っていた凄まじい気迫は消え、フウッと息を吐いた。

そしてそれを見計らったかのように、カレーが新八の口の中に侵入し、新八が「ガガガガガガガガ」とありえない声を出しながら倒れる。

そしてその場にいる全員がアイーン顔の、志村け○見たいな顔をする中、カレーを投げた灰区鋤男だけが、ほくそえんでいた。

第十一訓「普段真面目なやつほど怒ると怖い（作者を含む）」（後書き）

らっきー☆ちゃんねる

晶「みんなー！！おはらっきー！！」

稔・銀「うーす」

晶「もう三ヶ月ぶりだけど、張り切っていきましよう！！」

銀「て言うかオメエ、テンションの駄目だしされたんじゃないの？
そんなハイテンションで良いのか？」

晶「あ、それなら大丈夫！作者とじっくり話し合ったから（顔のハ
イライト…OFF）」

稔「そ、そうですか…」

晶「それじゃ、質問、行きましょう！！」

銀「へーい。えと、東京都かどうか知らんが、「黒神」さんからの
質問…銀さんへ

この小説で貴方が白夜叉化する時は、いつぐらいだと思いますか？

メガネへ

僕の小説で、そろそろ出番出たいですか？

神楽へ

以前銀時が、『新八の成分は95%がメガネで3%が水分、そして

残り2%がゴミ』であると言いましたが、もしや貴方も思っているですか？

ヅラとエリザベスへ

僕の小説では貴方達は真撰組や柳生九兵衛よりメツチャ活躍してレギュラーとして活躍していますが、誇れますか？
だそうだ。おい、オメエら、答えろ。」

銀「おい、これどっちか先生のほうが分かるのか？ そうだな…ぶっちゃけ無くな？ こいつ（作者）の事だしさ、どうせ戦闘は下ネタとかで誤魔化すぐらいしか出来ねえだろう？
うぐっ！」

銀「まあ、そういうわけで、銀さんのカッコいい戦闘シーンを見なければ今すぐ映画館に行って銀魂の映画を見ろ、銀さん超カッコいいから、マジだから。」
はい、そこ、ついでに宣伝しない。

次！メガネ！

メ「ちよつとオオ！！ 名称表示ぐらいまともにしてくれません！？ ていうか欲しいわ！！ こちとら原作じゃ銀さんの次に多く出てるんだぞ！ はよ、出番よこせ！！」

ロ「銀さんの次に出てるのに八位…悲しくなるのは分かるよ、新八君。」

メ「それを言うな！！ 涙出てくるわ！！」

銀「それを乗り越えて強くなれ！ メ！」

メ「誰が…」（プツン）

はい、次。

神「私はそんなに酷くないヨ。メガネが百パーネ」
メ「そっちの方が…」（プツン）

はい、最後、長髪ウザ男とエリザベス。

長「おい、貴様！！そこに直れ、叩き…」（プツン（永久））
エ『桂サーーーーーん！！！！』

因みにかなりうれしいようです。なんかリハ―サルで、「ついに堅物くそ真面目キャラ王の座を手に入れた！！」とか叫んでました。

晶「それではまた来週、^{じゃない}バイビー！！」

名セリフを募集します（前書き）

今回、物語は進みません。

名セリフを募集します

タイトル道理、今回は唯のお知らせです。

まあ、なんというか、とりあえずもうすぐニューイヤーですので、とりあえず番外編でひとつ祝おうと、それみたいな事をしたいと思っています。

募集範囲は、銀魂、TOD2、らき☆すたの三つとさせていただきます。

TOD2のは、ナナリー、ハロルドその他のはなしと言うことで（書いても次回に載せますけど。）

自分がいいと思うセリフを、上から順に三つ書いてください。

期限は今週の日曜日までとさせていただきます。

先にお礼を申し上げます。

それでは、ノシッ！

名セリフを募集します（後書き）

次回、カウントダウンスタートオオオオ！！！！

※次回、物語は進みません。

第十二訓 「俳句は口ではなく魂で詠め！」（前書き）

はい、もう誤りません。誤っても許せないぐらい、間が開きましたから。

皆さん、どうぞ叱るなり、罵るなり、何なりと文句を言ってください。

自分、吊るされながら待ってます（Mじゃないよ？）

第十二訓 「俳句は口ではなく魂で詠め！」

前回のあらすじ…志村新八、泉こなたは食中毒、カレー男は星になり、リタイヤした。

場は静まり返っていた。

なぜなら、さっきまで場を支配していた^{隊長}獰猛な野生怪獣が倒れたからだ。

例え倒れていなくとも、少しながらも、気まずい空気が流れているかもしれない。例えるのならば、さっきまで混雑していた海辺浴場が、急な悲鳴、或いは「サメだ！！！！」と言うような大声を聞いて全員が静まり返ってそちらを見て、「あ、気のせいだった。」的なオチ並みに気まずい。この場合はただ、本当にサメが存在し、その叫んだ奴を食って帰ったことになっただけ。気まずい空気は残る。

そしてその空気を打ち破る為の存在の一人がすでにやられた今、残された存在が打ち破らなければならない。

「ちょ、ちよつと！！アンタ、何やってっ！！」

しゃべり終える前に危険を（ていうか前から飛んでくるカレー）^見感じ、倒れこむように伏せる。

直後、カレーから発したとは思えない、風を切る音が聞えると同時に、風がかがみに、カレーは通り過ぎたことを知らせる。

そしてかがみは、立ち上がってツツコモウとするが、完全に立ち上がる前に今度は、鋤男本人が目の前に迫る。この速さは、さすがに忍者と言うべきなのだろう。

それに吃驚して、「キャッ」と驚きの声を上げながら後ろに座るように倒れる。要は尻餅を搗いただ。

しかし、鋤男はどうやら攻撃する気は無いらしく、手にもカレーを持っていない。

「おい。」

頭上から声をかけられる。おそらなくても好き男からだろ。

かがみは顔を上げ、鋤男を睨み付ける様に見る。

「フッフ：戦闘経験が無いお前の事を考えて、ある提案が有るのだ
が：戦いなれていない君にとってはグッドニュースだろう：」

「アンタもね。」

と軽くツツコム。

ガタガタなのだ。昔から膝は正直に人の心境を語ると言われている（気がする）。かがみの近くに神速で近づいたのは良いものの、鋤男もどうやら戦いなれていないようで、膝がガタガタなのだ。

鋤男の提案とは、両者はこれからルールに従った会話をを行い、ルールを破ったほうが自分で猛毒カレーを食べると言うものだ。

ルールは、必ず五七五の句式で喋らないといけないと言うものだ。そう、俳句だ。

「それでは、始めましょうか。先攻は君に譲るよ。」

この言葉は、かがみにとっては好都合だ。最初に話す、と言うことはつまり、大体の話の流れをコントロールできると言うこと。

それでは、バトルを楽しんでください（地の文なしで）（かがみ↓

鋤男↓かがみの順

「鋤男さん すきなたべもの なんですか？」

「ウニだけど？」

……………

かがみが勝利しました（笑）

かがみがまたアイン顔になっている中、鋤男は「間違えた！！」と大声で叫ぶ。

そんな中、突然、二人の人間（？）が現れた。

何故人間（？）なのかというと、二人のうち一人はまだ幼い少年で、もう一人は頭に角を生やし、真っ黒なマントを背に羽織っている。

そして極め付けがその顔だ。まるで鬼を更に×十倍ぐらい怖くした、ヘドロ並な恐ろしさなのだ。

その二人が登場するや否や、やっと戦いを再開した周囲のものはまた戦いの手を止め、ひざをガクガク震わせながら祈るように胸の前で両手を合わせる。微かに「シニタクナイシニタクナイ…」とつぶやいている声が聞える。

当然、目の前（一メートルぐらい）間で迫られたかがみは、既に涙目、いや。既に涙を流しながら全身を震わせていた。

その二人のうち、幼い方はかがみの所へ、魔王みたいなほうは、微笑みながら、例の猛毒カレーを手にとって鋤男の所へゆつくりと歩く。

魔王がかがみから離れるにつれ、かがみの精神は安定する。そしてここでやっと、自分へと歩いてくる少年を観察することができた。少年はかがみより小さく、まるで十二、三歳ぐらい。腰には先っちょが尖っている棒を挿しており、服もRPGに良くある村人の服みたいなのを着ている。

「あの、大丈夫ですか？」

村の少年Aに声をかけられてようやくハッとする。そして直ぐに疑問に思うことを聞く

「ちょっと！誰なの！？アンタ達！どこから来たのよ！？それに、何アイツ！何なのよ！あれ！！」

アイツ、あれとは無論、魔王のことだ。それはそうだ。目の前で行き成り、魔王が現れたら誰だって、例え勇者であっても驚く。それに、だ。この少年はさっきからあの魔王のことを特に気にした様子は無い。つまり知人の可能性が高い。

よって、この少年に聞くのが一番いいというかがみの推理だ。

「えと、僕はピッケルで、あの人は僕の父さん。何で魔王なのかは、話すと長くなるのでとりあえず置いといて。」

少年、ピッケルはバツが悪そうに頭を掻きながらそう言う。

置いとくって：そんなこと、できるか！！

とかがみがツツコムよりも前に、鋤男の方から悲鳴が聞える。無論、魔王のものじゃない。

かがみとピッケルは、悲鳴がするほうに向くと、其処には床で仰向けになって倒れている鋤男と、それに乗りかかって口の中にカレー

を詰め込む魔王の姿があった。
それを見たかがみとピツケルは背中…というか、全身から冷や汗を流しながらそれを見る。

鋤男は、最初は抵抗したものの、魔王の力には勝てないのか、それともカレーに入っている毒が効いてきたのか、次第にその抵抗は弱くなり、遂には白目で「ガガガガガガ」と連呼するしかできなくなった。

灰句鋤男

魔王による強制食中毒により、リタイヤ。

第十二訓「俳句は口ではなく魂で詠め！」（後書き）

らっきー☆ちゃんねる

銀「へーい。みんなの銀八先生でーす！」

あれ？何時もなら最初に挨拶するアイツは？

銀「それがさ、新年会で飲みすぎたらしく、家で待機中だよ。」

新年会って…もう二月だぞ！ドンだけ飲んだんだよ！

銀「ま、と言う訳で、ほい！」

教えて！銀八先生！！

銀「へーい。んじゃ早速、「黒神」さんからの質問

『かがみへ

「僕の小説では、マヨラーがはやてに恋路を抱いています。もしはやてが桂に恋路を抱いていると知ったら、マヨラーはどれほどまでの桂に対する怒りを表すのか想像してみてください」

カイルへ

同じ『テイルズ』キャラで、是非とも手合せしたい主人公キャラはだれか1人だけ指名してください。

リアラへ

以前よりジェイソ●化したキャロなら、バルバロスに勝てると思いますか?』だそうだ。はい、どうぞ。」

か「そうね…」

かがみは目を閉じて腕を組み、いかにも考えているような仕草を少しやった後、プッと噴出した

か「これは桂さん、大変なことになりそう（ププ）」

手で口をふさぎながら笑う。

銀「んで、次！カイル！」

カ「そうだな…やっぱり一番英雄らしいクレスさん！ん、でも父さんとも戦ってみたい…いや、それを言うのならユーリさんも強いし…うゝゝゝん…」

銀「んじゃ、長いのでパス！」

リ「それは…如何でしょうか…私には、どちらも強いと思います。」

銀「へい、終了！んじゃ黒神さん、廊下に逆立ってなさい！」

すいません、質問を一つ省いていただきました。（マニアックな事はあんま分らないので。）

第十三訓「取り分けは半々で」(前書き)

更新しました。

因みに、これからは質問コーナーをちょっとリフォームしたいと思います。

今のは非常にやりづらい(小神的な意味で)

後、作者は既に逆検2をクリア済みです。

第十三訓「取り分けは半々で」

あらずじ…灰匂鋤男は（魔王の強制による）食中毒により、リタイヤ。

ゲストでピッケルとその父、魔王が登場した。

かがみは目の前の景色に驚きを隠せなかった。

もちろん、魔王の事もだが、何より、その魔王に全然ビビらずにツッコめる隣に居る少年、ピッケルだ。

事は鋤男が「ガガガガガガガ」と倒れた直ぐのこと。それを見て全員が呆然としている中、ピッケルだけが「ちよつと！！父さん！！何やってんの！！」と形振り構わずにツツコンだ。

そんな彼の方（かがみも居る）に体ごとをゆっくりと右から回して振り向く。

んで、偶然にも魔王さんの右側にはバトつてた全員が居るわけで、この振り向きだけで腹痛を感じるもの数名、頭痛、二名、気絶一名と大惨事になった。

リアラ 気絶により、リタイヤ。

気絶して倒れるリアラを見て、カイルは自分の頭痛を我慢し、リアラのそばへ二秒で駆けつけ、支える、が、結果として更に近距離で魔王の顔を見ることになり、そのまま気絶する。

カイル 気絶により、リタイヤ。

そしてその二名の被害者を出した張本人、魔王さんと言うと、振り返った後、ジリジリとピツケル（&腹痛中のかがみ）に近づき、宣言した

「ご飯はちゃんと食べなきゃ！朝食抜きなんて、お父さん、許しませんよ？」

「いや、今夜だから！！朝食じゃなく夜食！！それに父さんも聞いたでしょう！そのカレーには毒が入ってて…あゝもう！どこから突っ込めば！」

頭を抑えてうろたえるピツケル。その後ろでパタン！という声がして、後ろを振り向くと、かがみが白目で泡を吹きながら気絶していた。

かがみ 気絶により、リタイヤ。

「ちょっと！父さん！本当にもう動かないで！このままじゃ十分以内に全員、気絶しちゃうよ！」

ご尤もである。一回振り返っただけで二名、近づいただけで一名気絶という（ありがたいくない）偉業成しとけたのだ。

それと言うのも、魔王さんの外見の所為なのかも知れん、というか外見の所為だ。

まず、頭に二本の角が、これ見よがしに生えている。

コレだけならまだ、天人じゃね？で済むが、顔も怖い。

ジェysonーの仮面より不気味で、目の辺りの影がひどい。もう自然の影じゃない。

それに、言ってることは陽気な言葉ばかりなのだが、声が低すぎて、自然とトーンが張ってるような声。

まさに魔王そのものだ。対処できるのはスルースキルが高い人か、こういうのに慣れている人のみ。

じゃ無ければこの場に居るよう方々のように頭痛薬と胃薬、布団&枕を用意してそれぞれ頭痛、胃痛、気絶に備えましょう。

ま、要するに、魔王さんがこの場から居なくならない限り、戦闘を再開することは難しいと、全員が、奇しくも、同じ様に判断した。なので、戦闘を再開する為にも、この恐怖を振り切る為にも、皆、魔王が居なくなってくれる事を祈っている。

しかし、そんな祈りも届かず、魔王は今もピッケルと戯れている。

「ちよっ！父さん！もう、帰りましょう！このままじゃ何も無くても全員が気絶して終わっちゃうよ！」

ご尤もである（二回目）。

「何を言っている。私たちはゲストなのだ。勝手に帰っては作者殿が困るかもしれないのだぞ！」

「だから、既に迷惑に成ってる、ていうか…」

「あのオースイマセン…」

ピッケルが一人うろたえている中、恐る恐るした云う風に、銀時が割り込む。

流石主人公、頑張れ、俺も応援している！

「あなたは、あなた様はヘドロさん、ヘドロ様のご親族か何かですか？」

所々様付けに言い直しながら訊く。

因みに、ヘドロとは、万事屋の近くにある花屋、ヘドロの森の店主である。

詳しいことは割合して全体的に言うと、兎に角怖いのだ。歴戦の勇者、坂田銀時も最初の考えが「逃げる」のみにできる程。

だが、ヘドロの名誉の為に言おう。彼は断じて悪い奴ではない。草木を愛し、例え虫でも殺生を良しとしない。止められて何度も死に掛けた人は少なくないが。

銀時の打算はこうだ。

もし、目の前の魔王がヘドロの親戚か何かだったら、多分、いや、きっと（願望）いい人に違いない。

だったら話は早い。頼めば多分、いやきっと（願望再び）帰ってくれる、筈。

で、肝心の魔王さんの答えは

「あ、ヘドロさんですか。親戚じゃないが、友人だ。」

この答えに、銀時は内心よっしゃ！とガッツポーズをとる。親戚じゃないが、あのヘドロの友人だ。

類は友を呼ぶとは正にこの事。

なら、やることは一つ！という風に銀時は畳み掛ける（言葉で）

「それなら、頼みが一つあるんですけど、いいでしょうか？」
かなり丁寧な言葉使いで聞く

「あなたが居るとちよつと戦い辛いんで、あの、帰ってくれませ
ん？」

これまた丁寧な言葉遣いで聞く。内容は失礼極まりないものだが。
イメージは、友達の家遊びに行き、三分弱で返される哀れな中二
の夏。

だが銀時のこの失礼極まりないセリフは、逆にピッセルには都合が
よかった。

ロジックは繋がった！見たいな。

「ほら父さん！銀時さんもこう言ってるし！だから早く帰りましょ
う！」

とピッセルからも帰ろうと要求。

それを聞いて、魔王は、「うーん」と言いながら腕を組み、考える。

んで、長くいように感じる数秒間後、魔王は「はあああ」とため息
を吐き、言う。

「そんなに修行したければ仕方ない。帰るぞ！ピッセル。帰ったら
鬼特訓だ！」

と言いながら出口に向き、右手を上げながらピッケルに言う。
そのピッケルはというと、膝を着き、両手を点に挙げながら叫ぶ

「や、誰も修行するなんて言ってなあああああい！！！」

そのままOrzモードへ移行する。が、三秒後に戻った魔王に足を
引き摺られて強制的に修行をする羽目になった。

魔王とその息子がいなくなってから三秒後、広間に「はあ」という
声が木霊る。誰かのものではない。この場にいる全員が、したのだ。
そして直ぐ、下の階にいる全員が膝を着く。腰が抜けているのだ。
そのうち一名が、「ギャアアアアアア！痔が！！」と叫ぶ。全蔵で
ある。しりから着地した為、痔を痛めた。

その声に反応して、魔王登場時から一声も発していなかった、高み
の見物中の遠山ち○こ太郎と、その他護衛の二名、更にその護衛二
名によって連れてこられたエリザベスが、ドサツと倒れた。

遠山、護衛二名は白めで泡を吹きながら倒れ、エリザベスは頭から
落ち、下の階に落ちた。

それを見て、桂は、「エリザベスウウウウウ！！！！」と叫びながら動けない足に鞭を打ち、ダツとエリザベスに駆け付ける。

そして、よろけながらも何とかエリザベスのそばに駆け付け、それを抱き上げる。が、抱き上げた瞬間、桂は違和感を覚えた。

具体的に言うと、目はずっと開けているし、落下した衝撃で口からは血ではなく、綿が出てくる。しかも軽い。まるでぬいぐるみの様な軽さだ。

さすがの桂も、これはエリザベスではないという事が分かった。

「あ、れ？」

「だから言っただろ？エリザベスちゃんはどこにはいねえって。」
絶句している桂に、全蔵はクククと笑いながら言う。

それに対し、桂は「それは、どういう…」と更に戸惑う。

「はなっからここにはエリザベスという人物はいねえよ。こいつはお前を釣る為に、あのオッサンが置いてぬいぐるみなんだ。お前らは騙されたんだ。」

それを聞いて、桂はキョトンとする。しかし、何かを反応する前にも、後ろから殺気にも似た忌々しい気配がする。

「ちょっと、ツラ君？」

「コレはどう言う事かな？」

銀時と奈月が、これでもかというぐらいに丁寧に問いかけるが、目

の辺りが真っ黒で怖い。

その後ろにも、その他諸共が居る。何故か気絶してた奴らも。

コレに対する桂の返答は。

「そういえば、前日蕎麦の取り分けで喧嘩してたのを忘れてた。」

コレだ。

コレを聞いて全員が

「お前、それただ喧嘩して出でただけじゃねえか！！！」

「冗談じゃねえ！この数日の努力をかえせえええ！！！」

後日、体のあちこちに包帯を巻き、杖片手で体を支えながらエリザベスを探す桂の姿が歌舞伎町の裏通りで目撃したとだけここに記そう。

第十三訓「取り分けは半々で」（後書き）

真っ黒な空間

銀「あれ？何かちがくね？ていうか、俺以外、誰も居なくねえ？」

と言う訳で、リフォーム中の質問コーナーです。

洞「ちよっ！あんたら勝手に入らないでくれない？まだ片づけが…」

何？お前引越すの？

洞「違うけど、ほら、お前もあるだろ？見られたらやばいものとか。」

無い。

洞「え？いや、でも「んじゃ、質問いきまゝす」ちよっ！」

銀「へーい、最初の質問。ペンネーム「sibugaki」さんからの質問」

質問です

僕のところの魔王さんとそちらの主力メンバーが全員で掛かって来て果たして勝てると思いますか？

因みに父の強さは最新話をごらんになって下さい
では

『だそうだ。どうだ、お前ら』

全『ムリだね!』

洞「って、お前らもいつの間に出てきたんだ!! 顔もムリを書くな!!」

銀「だそうだ。んじあ、sibugakiさん。パソコン部室で足ってなさい!」

んじあ次は俺が読むわ。ペンネーム「銃王海」さんからの質問
質問

こなたさんへ
いま、こっちにゆたか&みなみを召喚出来る
機械があるのですが、
使いますか?

作者へ
贈り物はOKですか?

かがみさんと新八さんへ
ツツコミ用のタライを落とせる機械があるんですが、
要りますか?

皆さんへ
100万あったら何に使いますか』

こ「うーん…それ、やっぱ良いや。」

え?使わんの?

こ「だってさ、どっか行く機械ならまだ分かるけど、出会いとかが

有ってさあ、こう言う呼び寄せる機会ってなんか存在する意味が分からない。迷惑だし。」

お！意外とまともなことを！

こ「それにさ、どっちかつーと、好きなキャラ呼べた方がいいじゃない。長〇とか。」

あ、そう。次…って俺か。贈り物は無しでお願いします。有っても本編では使わんかも知れません。今度こそ、次！

か「その機械も遠慮しておく。使ったらややこしい事になりそう…」

メ「僕も同じ意見で。ていうか、何でまた僕だけまともな略称じゃねえんだ！！」

はい、次。全員で一斉に言って！

全「とりあえずまともな食事を！！」（↑ご飯十のり生活が既に一ヶ月近く続いている）

銀「はい、では、銃王 海さん、グランドでの当て千回をやったなさい！」

洞「あくまで帰るつもりは無いのか、お前たちは！！」

銀「ない。次はペンネーム「黒神」さんからの質問。『マヨラーへ

僕の小説、『リリカル銀魂Strikers〜魔剣士鎮魂歌〜』で

はまともに出番がない貴方ですが、出番が多い桂を見てどう思いますか♪

ジューダスへ

ジェイ○ン化したキャロに勝てる自身はありますか？

ぱっつあんへ

今だに彼女がいない貴方へ、寺門通に正式な彼氏または婚約者がいたらどうします？（黒笑）

リアラへ

こなたの『貧乳はステータスだ』と言う言葉を信じますか？

以上です。

』はい、ずばり、お答えしましょう。マヨラーが。」

マ「俺かよ！オホン。桂アアアアア！！！今すぐ警官侮辱罪を追加してしよっ引くウウウウ！！！」

ジ「勝てないな。」

ロ「あれ？ジューダス。随分とあっさり認めたな。」

ジ「なに。僕は自分の実力ぐらい分かっている。勝てないものは勝てない。今はな…」

隊長「そいつは、俺が寺戸通親衛隊隊長の名に賭けて、ぶっ潰す！！」
（ゴゴゴゴゴゴゴゴ）

リ「信じてます（キッパリ）」

銀「はい、特別に長くなった質問コーナーはコレで終わりです。最後に、黒神さん、廊下に足ってなさい！」

洞「だから何故誰も謝らないんだ！！」

第十三訓「移動機でのトラブルはお約束」(前書き)

今回でD2世界に入ります。

しかし、今から心配です。

戦闘描写、できるかな…

もういいそのこと全部ギャグですっ飛ばすか、でも…

第十三訓「移動機でのトラブルはお約束」

ここは歌舞伎町の裏通り。

今、ここに新・万事屋のメンバー全員がここで集まっている。

原因は単純だ。

源外に呼ばれたのだ。理由は分からない。

ただ、大事な話があるから来い、と。

ので、元祖三人以外のメンバーは源外に呼ばれた理由について話し合っている。

「ねエ、みんなは何で呼ばれたと思う？」

一番最初に話し始めたのはやはり、一番じつとして居られないカイルだった。

「もしかしたら、もう既に帰る準備が整ってるとか？」

「んな訳ねえだろ？ どうせ醤油見せびらかすだけだ。」

未だにはしゃいでるカイルの問いに、銀時は冷えた水をかける。

その他にも色々と話し合いながら歩いていると、何時の間にか目的地である、からくり堂に着く。

からくり堂の中を覗くと、既に瞬間移動装置（仮）は電源が入って

いるのか、ウウウウーーンと、機械特有の低い音を出している。

銀時を先頭に、次々とからくり堂内にゾロゾロと入る。

「おーい！ジジイ！！来てやったぞ！！」

大声で源外を呼ぶ。暫くしても辺りからはウウウウーーンという機械特有の低い音しかない。

そろそろもう一回呼ぼうかと言う時に、突然、カシャーーン、ウィーーンという音がする。

音のする方へ見ると、其処には気圧で閉めるドアが開いており、中から源外が出てくる。

「おお、銀の字。よく来てくれた。」

源外は外に出るなり、銀時たちへ片手を上げて挨拶をする。

「前置きは良いから、さっさと用件を言えや。」
それに対して全く表情を変えずに、銀時が言う。

それに対して源外も特に反応は無い。どうやら何時もこんな風にしているようだ。

「喜べ、お前ら。既に買える準備が出来ているぞ。」
この台詞に、カイルらトリップ組が喜ぶ、一人を除いて。

こなたである。

源外の言葉を聴いたとたん、はぁーと長くいけど深くは無いため息を吐く。

それを見たつかさは「こなちゃん、何でため息をするの？ やつと帰れるんだよ？」と聞く。

そのこなたの答えは、恐らくオタクであれば大半は同じ意見と言う、

「だってほら、こんなファンタジックな世界ともうおさらばしなきゃいけないのはちょっとね。色々あって楽しかったし。」
これである。

因みに、作者も恐らくは同意見になる可能性大です。（笑）

「ならアンタだけ此処にずーと居れば良いでしょうが！ 私は嫌けど。」
殆どこなた専用のツツコミ役であるかがみがつツツコミを入れる。

「それなら心配無用だ。ちゃんと考えておる。」
と横から突然源外の声が挟む。

銀時らも含めて「何だ？」というような視線を源外へ送る。

その視線を受け止め、源外は、後ろの部屋に入り、少し待つと、手に一昔の携帯電話みたいなものを持って出てきた。

それを見て、全員がまた、「説明しろ」というような視線を送る。

それをも軽く受け止め、説明し始める。

「これは通信機だ。映画等でよく、FBIだとか、エージェントが持っている様な物だ。コレはわしが改造して更に電波通信範囲を広めたもの、更に特殊機能をつけた奴だ。」

それを聞いて、また全員で「おおお！」と言う感嘆が聞える。

その後、銀時が更に、聞く

「んじゃよオ、爺さん。その特殊機能ってのは何なんだ。」

それを聞いて、良くぞ聞いてくれた！と言うような顔になる。半分以上特異なメガネで隠されて見えないが。

「それじゃ銀の字、お主が試しに使ってみるといい。」

と言ってその通信機を銀時に手渡す。

それを手にとって色々と見回す銀時だが、一通り見終わった後、特にコレと言って変わったところは無。唯の通信機ようだ。

「おい、爺さん。特に変なところは見当たらないが？」

「試しに、通話ボタンを素早く二回押してみろ。」

それを聞いて、「嫌な予感がする」と訴える内心を無視して、銀時は通信機のボタンが良く見えるようにそれを自分の顔に向け、それを素早く二回押した。

二回目を押したとたん、ピューッ！と言う水音と共に、通信機のアンテナ部分の先端から、黒い液体を噴出し、銀時の顔にかかる。

「酢を混ぜた醤油が出る。」

「て、やっぱり醤油かよ！！つか臭！！」

お約束とばかりに言う源外と、これまたお約束級のツツコミを入れる銀時。

「でも、通信距離は本当に広いのですか？もしもあちらに戻ってから使えなかったら困りますが・・・」

敢えて醤油に触れずに、聞くみゆき。

「それは問題ない。通常なら200メートル位から電波が弱まる所をなんと、4000メートルでも弱まらないとの結果が出ている。」

驚きな結果を言い出す源外。

コレにみゆきは納得したのか、顎に手を添えて、うんうんと頷く。

その後、カイル勢、こなた勢、月姉妹に各一つ、通信機を渡し、かなり規模の小さい送別会を開き、そのままカイル達から先に送り返すことにした。

理由はやはり、カイル達の方が事態が深刻だからだ。

初日に全員で情報交換を行っているので、カイル達の方は人命が関わっていると言う事がわかった。さすがにそれを知ると我侭もいないので、全員賛成でカイル達が瞬間移動装置に入る。

源外は装置の制御の為と言って中の部屋の中へ入っていった。

「それじゃ、みんな。今までありがとう！」

装置の中、ガラス越しに礼をいうカイル。リアラ、ロニも笑顔で礼を言う。ジューダスはプラスチック皮肉で言ったが、こなたに「ツンデレ萌え〜」と言われ、怒鳴り返す。何時ものパターンである（人違い）

「辛気クセエ事言ってんじゃねえよ。あれ（通信機）が有ればまたいつでも喋れるし、こっちへくることも出来るだろ？」

「そうですよ。まだ会えますよ！」

「リアラも、時間があつたらこっちに来るアル！いつでも大歓迎ネ！」

と、この様に皆さん、笑い会っている。

その時、頭上のスピーカから源外の声が聞えた。

「あ〜、あ〜。聞えるか？銀の字！」

スピーカからなのにかんりの大声で叫ぶので、瞬間移動装置の中の人を含めて全員が耳に手を当てて塞ぐ。

「うるせえよ！このくそ爺！！もう少し音量下げで言えや！」

耳を塞ぎながら怒鳴りつける銀時、それを聞いて、スピーカの置くから、キィーーンと、マイクを接続したばかりに出る音に似た音が響き、その音の音量は徐々に下がる。

「装置の中に居るカイル達、お前らの上に赤いスイッチがあるが、それを…」

此処まで聞いて、カイルはそのスイッチを押そうと手を伸ばすが、

その手は銀時の声によって制止される。

「ちょっと待て、こういう時はな、コレを押すと機械が暴走するっていうのがオチだ。だから押すな。少なくとも爺のはなしが終わったときに、だ。」

よく分らないような、しかし読者の皆さんには良く知っているような展開を説明する銀時。

カイルもそれを聞いて、納得したのか、手を伸ばすのをやめ、元の位置に戻る。

「それを押さねばエネルギーの供給が出来んのだからな、今から三秒以内に押すんじゃぞ！」

源外の話聴き終えた瞬間、銀時を含めた全員が、銀時の話を信じて後悔した。

中に居るカイルは、慌ててスイッチを押そうと手を伸ばすが、生憎この装置の転送倉は無駄に大きい。よって、天井も尋常じゃないぐらいに高い。爪先立ちして、手に剣の鞘の先を掴んでもう一つの先っちょで押そうとしてもムリ。

なので、必然的にこうなった…

ウィーーーーーンウィーーーーーンと鳴り響く警報音。

真っ赤に光りながら回転する赤いランプ。

この真っ赤の中で一際目立つ白く光っている装置。

暴走を知らせるように装置の表側に走る電流と、ゴゴゴゴゴゴゴと唸りながら酷く揺れる地面。

止めはスピーカから出る源外の声。

「いかん！転送用エネルギーが足りず暴走しておる！こうなってし

まっては止めることはできん！」

「てんめ、このくそ爺！！おぼえてろ」

銀時は最後まで喋れなかった。

装置の光は、一気に広がり、この部屋にあるすべてのものを含み、一際煌くと光が消え、其処にいた全員が消えていた。

プシューーと音を立てて開けられる気圧門。中から出てきた源外は、誰も居ない瞬間移動装置室と、黒い煙を噴出す装置を交互に見て、ため息を一つつく。

後ろにある、つけられていないテレビが、勝手につける。中にあるニュースの内容を知らせるように。

『ついさっき入った速報です。何と、江戸各地に、突然白い光があふれ出し、それに包まれている部分すべてが消えたとの情報が入りました。幕府は、コレを新種の天人によるテロだと見て捜査を始めています。現在行方不明が確定されているのは、北大路大五郎くん、東屋水戸さん…』

銀「へ〜い、では早速質問、いきま〜す。てか場所何処よ、ここ。」

返事が無い。ただの謎の空間のようだ。

銀「∴、じゃ、最初の質問、ペンネーム「sibugaki」さんからの質問。』

主役にならない奴等に質問！

父（魔王）に触れたら主役になれるって聞いたなら挑戦します？
勿論父（魔王）は少しだけ本気で襲ってきますよ

（最新話の強さで）』らしい。んじゃ、俺が代表で答えよ。

勿論だろうがアアアアアアア！！！！」（↑主役にならないおまけ専用キャラ（笑））

30分後

銀「ゴホゴホ。」（↑ボコボコにされた）

次「んで、次の質問は、「銃王海」さんからの質問『質問

一 こちらにはFFのテラフレアを連発できるキャラが居ますが、闘って勝つ見込みはありますか？

二 メンバー内で一番身体能力のある人は誰ですか？

三 かがみさんと新八さんに質問です。

こなたたちの状態に一言でツツコミを入れるとすれば何という言葉になりますか？

四 みなさんに質問です。

出番は、いつものくらい欲しいですか？

『だそうだ。一つ目は、まあ、俺はFFやったことは無いので分らんが、名前からして最強技らしいので、推測だが、勝てるんじゃない？人数あるし。人海戦術で（笑）』

銀「二つ目だが、単純に身体能力だけなら、ロニと銀さんが一位で並ぶでしょう。」

次「三つ目は恐らく、魔王さんが怖くて震えるだけかと、ツツコミができる状態じゃないし。」

銀「四つ目は、まあ、皆さん、ご一緒に…」

全「当然全話登場（じゃ、ボケエエエエ）！！！」（カッコ内は銀魂勢）

銀「んじゃ、そういうことで、sibugakiさん、銃王 海さん、グラウンドで古今和歌集を復唱しながらマラソンをしてなさい！」

第十四訓「緊急事態時は冷静に」(前書き)

ギリギリです。

また、後半は携帯で書いたため、文面がおかしいかも知れませんが、明日で修正します。

第十四訓「緊急事態時は冷静に」

「……ル……き……」

気がついたら、誰かに、何かをいわれていた。(byカイル)

ぼんやりとした思考は、寝起きのものに極めて近く、ついつい、「後五分…」と返してしまう。

返した内容はともかく、言葉を交わした為、意識がはっきりとしてくる。

「カイル…起きて！カイル！」

また、聞えてくる。今度はしっかりと、耳に入った。

カイルを呼んでいるのは、皆さんもご存知の、リアラ君。そのリアラのとなりで、「コバヤシ！！！」と連呼しながら顔を叩かれているのは銀時、その顔を、「早く起きるネ！銀ちゃん！！！」と言いながらはたいてるのが神楽。

顔を横にしてそれを見たカイルは、そのまま顔を上に向け、見なかったことにした。

とりあえずその後、再び気絶してしまった銀時が起きるまでの間、カイルと神楽で小範囲の探索を行った。

目的はここが、カイルたちの世界なのかどうかの検証と、町の探索。一つ目は解説しなくわかる。もしここがカイルたちの世界ではなか

ったら、如何にかして源外と連絡を取り、元にもってもらわねばならない。

町の搜索についてだが、町さえ見つければここがカイル達のいる世界かどうかもある、地名を聞けばすぐにわかる。

んで、およそ30分後、顔が酷く腫上がっている銀時とその隣で銀時の面倒を見る、と言って残ったリアラ二人と合流し、お互いの集めた情報を交換する。

「いててて…、っで、何か見つかったか？」

腫れた顔を擦りながら、銀時が聞く。本当は思いつきり神楽を怒鳴りたいが、また殴られることは目に見えているので、やめることにした。

「見てみて！こんなおっきなカブトムシを見つけたアル！」

と言って懷から取り出したのは、大きなカブトムシ…ではなく、大きな、眩い輝きを放つ、フンコロガシである。

「っってお前！何驚掴みにしてんだ！！つかクサッ！」

バシッつと神楽の手に持っているフンコロガシを叩き落とし、ついでに神楽の頭にも拳骨を一発。

叩き落とされたフンコロガシ（死）を、名残惜しそうに両手で持ち上げながら、「定春320、じゃ無くて、定春319号オオオオオオオオオ！！！」と泣き声で叫ぶ。

「オレは川を見つけたけど、それ以外は…」

最後のほうで両手を肩の位置で竦め何も無かったジェスチャーをする。

「これから如何すれば…」

「ま、此処でじっとしてても何も始まんねえよ。とりあえず川の下流へ向かうか。」

というわけで、川の下流へ向かう銀時一行。

時間を三日戻して、此処はカルパレイスの砂漠地帯。此処に、新八、ジューダス、ロニが、砂漠で彷徨っている。

三人とも、意識がハッキリしない中、あまりの暑さに蒸し起こされ、新八が錯乱して一時間ほどツツコミまくり、現在に至る。

「あぢい……」

汗垂れ流しにしながら、砂漠に居る三人組は、当てもなく砂漠を彷徨っていた。

新八は錯乱ツツコミから今に至るまで、ずっと「あぢい…」としか言っていない。当然である。

そもそも暑い砂漠の中で、ツツコミと言う砂漠で一番貴重な水と体力を大量に消耗する行為を、一時間にも繰り返したからだ。当然の報いである。

両隣で歩くロニも、新八ほどではないが、暑いとしか言っていない。

ジューダスは何も言っていないが、仮面の隙間から覗く顔について汗を見れば、やはり暑いのだろう。

このまま無言（に近い状況）で居るのも気まずいのか、ロニは、本気半分でジューダスに聞く事にした。

「なあ、ジューダス。」

「ん？なんだ。何か用か？」

素っ気無い返答は、砂漠でも同じようである。

「暑いだろう？仮面とれば？」

「うるさい！」

怒鳴られてしまった。

因みに言うと、この会話は初めてではなく、二回目である。

一回目はハイデルベルグ付近の雪原でだ。その時の会話はというと、ロニの「寒いだろう？仮面とれば？」という問いと、ジューダスの「関係ないだろ！」というツツコミで終わった。

これで判ると思うが、今はいない銀時たちも含めた全員が、ジューダスの仮面に隠された素顔が気になっていた。訳あり美少年か、それともただブスすぎて顔を見せるのがいやなのか・・・（あ、石はやめて、石は）

ともかく、ロニの策略（？）のお蔭で、空気は熱いものの、空気軽くなった。

その後、偶然ヒートリバーに到着し、後に一緒に旅をする事になる

ナナリーとの邂逅があつたが、それはまた後ほど。

――――

フィッツガルド地方、リーネの村付近の森

「あれ？ 私たちは？」 by こなた

質問コーナー

ハイデルベルグ城・謁見の間

銀「へーい、んじゃ、早速質問……」

ウ「少し待ってもらえないだろうか、その君。」

銀「え？ 俺の事か？」

ウ「そうだ。ここに君と私以外に誰が居ると言うのだ。」

銀「へい、すみません、すぐ終わるから。んじゃ、さっそく最初で最後（今回の）質問。

ペンネーム、「黒神」さんからの質問『
カイルへ

ここの小説ではあんまり出番無いですけど、気にしますか？

ロキへ

ジェイソンと化したキャラにもナンパする勇氣はありますか？

ジューダスへ

オタクに堕ちた新八でも、侍としての存在だと思えますか？

リアラへ

胸の大きいリリカルキャラ達が憎いですか？』だそうだ。今回は誰もいねえから、俺が答える。

一つ目は、これからは有るかも知れないから大丈夫！らしいです。ロニからは、俺は十四歳以下には手を出さない主義なんだ！とかなんとかな。

三つ目は、「人の趣味をとやかく言うつもりはない。それに、目標が歪んでいるとはいえ、ちゃんと強くなろうとしている。それでいいだろう」という、

リアラからの返答ですが、うらやましくは有るが、憎んでいるまではいかないそうです。

では、黒神さん、謁見の間で立ってなさい。」

ウ「まだ許可していないのだが…」

第十四訓「緊急事態時は冷静に」(後書き)

次回、新仲間登場！

4／27 気づいた間違いを修正

第十五訓 「未来世界に集うは宗教なやつばかり」 (前書き)

タイトルは四天王編のパクリ。数日遅れてすいません。

地の文を増やして見た。

第十五訓 「未来世界に集うは宗教なやつばかり」

アイグレッデ付近の草原にて、カイル、リアラ、銀時、神楽の四人が、川沿いに歩いていた。

「しっかしよオ、人っ子一人もねエな、ホントによ」

「銀ちゃん、私たちこのまま死んじゃうアルカ？」

「このまま何も無かったらなあ、あゝゝ、いやだな、糖にまみれて死にたかったなあ、もったいないなあ。」

「不安を煽るような事を言わないでください！！」

よっぽど暇なのか、銀時の特に意味のないセリフに神楽がノリ、またまた銀時がノリ反し、リアラがそれにツツコム。

「だってよお、あんまりにも退屈だったしな、なあ、カイル。」

とカイルの方へ振り返りながら話を振るが、後ろには誰もなかった。因みに、順番は、銀時が先頭、その後ろにリアラと神楽が並んで、その後ろにカイルが居るという、前後からの襲撃に素早く対応できるものだ。尤も、今はそれが裏目に出ているが。

「おい。カイル、どこ…」

片手をスピーカの様にして口の周りを囲んで、やる気ゼロな小声で、いかにも頑張ってます的な感じで叫びながら、左手のほうに目をやると（川は右手側）、木の麓でしゃがみ込んでいる見慣れたツンツン髪、背中に差している剣入りの鞆。カイルである。

銀時は、リアラと神楽に一声を掛け、反応も見ず聞かずにカイルの元へ歩いていく。？

これまた頑張ってます的な感じで、だ。

カイルの元へ着き、カイルを見やると、しゃがみ込んで木の麓に生えているキノコを見ている様だ。片手の指を口元に構え、もう片手はキノコを摘む手前で止まっている、プルプルと震えながら。その口元はダラダラと涎を垂れ流している。これまたいかにも食べたいです！的な感じだ。

「おい、如何した。何かあったか？」

分かってはいるが、銀時は敢えて聞いて見る。銀時に声をかけられ、ようやく後ろに誰か居る事が分かった。振り返らず、キノコをガン見のまま、銀時に問いかける。

「ね、このキノコ、美味しそうだけど、食べられるかな？」

と言われ、キノコをしてみる。そのキノコは、見るからに毒々しい色をしていた。真っ赤のかさに、所々黄色い水玉模様がついており、毒持ちです！と主張しているようだ。え？しつこい？もうしない。

「ンなもん、食ってみりゃ分かるだろう？」

カイルは、そう言われると、直に手を伸ばし、そのキノコを摘むと、それを口の中に放り込んだ。

クチャクチャと、音を立てながら咀嚼し、ゴクンと飲み込む。直後、体に異変が起きた。

「銀さん：体が、痺れて、きた、ん、だけ：ど」

「っっておまつ！何本当に食ってんだ！早く吐き出せ！」

「オボロオオオオオオオオオオ：」

んで、カアラ（神楽&リアラ）はと言うと、銀時に声をかけられた直後、少しの間ボーっとしてたが、直にその背中を追う。

広い平原でポツンと置いてあるような木の麓で、顔を地面に向けて何かをしているカイルと、その背中を擦っている銀時がいた。

――――――――――分割線――――――――――
――――――――――

そんないざこざもあってやっと川の河口付近へ到着し、銀時らの目当てである街らしき場所を発見した。

そこは川を両断するかのよう設計されているらしく、岸ギリギリの場所にも部屋が建てられている。

さらに近づいてみると、その街に、見慣れた物が有ったのか、カイルとリアラがうーん、と考え出し、街の外れから内部へはいる廊下で、カイルがやっと思い出したかのように大声で言う。

「ここ、アイグレッテじゃん！リアラ、オレたち、ツイてるぜ！知らない場所に飛ばされたんじゃないやなくてさ！」

カイルの言葉からなのか、それとも自分の知っている場所だからなのか、リアラもニコニコ笑っていたが、街の有る一点を見た瞬間、その顔が一気に暗くなる。

リアラの顔色の変化に気づいた銀時は、少し目間に皺を寄せ、リアラが見ている方向に目をやる。

そこには、象、もとい、像が建っていた。象、もとい、像は、背中に羽を生やしたオバはん、ではなく、女性をモチーフにしており、象、もとい……しつこい？うん、もうやんない。像であるにもかかわらず、威厳を感じる。

「あれ？どうしたんだよ、リアラ。オレ、また何か悪いことを言ったか？」

そう、カイルは、エルレイン（十作者の陰謀）によって万事屋の隣に飛ばされる前に一度、ウッドロウやその他大勢によってちやほやされ、リアラや他の仲間らの心情などお構いなしに浮かれていて。

その事をジュードスによって指摘され、己の馬鹿さと未熟さを悟り、仲間への心遣いを最大限にしている。

だからエリザベス救出時、彼を踏み台にして逃げた神楽らを責めておらず、寧ろ自分が彼らを助けられたことに誇り的な物を持っている。彼らはすでに仲間だ。オレは仲間を助けられたんだ！みたいな感じで。

ので今も、自分が場違いな言動をして、リアラを悲しませたのではないのだろうか。と思っている。

「ううん。そうじゃないの。それよりも、落ち着いて聞いて、カイル。」

そこで一旦止める。カイルもリアラから発せられた真剣な雰因気を感じ取ったのか、ゴクリと喉を鳴らし、無言で待つ。神楽もカイルと同じ行動をする。銀時も無言。己の持つ疑問がここで晴れるような気がするからである。

「ここは、カイル達のいた世界よりも十年後、つまり未来の世界よ。」

それを聞いて、カイルも神楽も最初はキョトンとしたが、少しすると、神楽が腹を抱えて笑う。

「そんな筈無いアル！あのジジイタイムマシンをつくれるとは思えないネ！」

「そうだよ、リアラ。未来なんてそんな訳……」

無い、に繋げようとして止まる。気づいてしまったのだ、雰因気の違いに。

前回来た時は、厳粛な雰因気なのだが、グランドバザール方面の方も相まって賑やかさも欠けていない。

しかし、今はどうだ。辺りには少しも話し声がしないし、グランド

バザールへ行く橋も封鎖されている。

これは、たとえ数カ月経ったとしても、あまりにも変わりすぎていた。

リアラは少し間を、カイルらが飲み込む時間を空けて、街の有る一点――さっきリアラと銀時しか見ていない物――指さしながら言う

「それに、アレを見て。」

言われて、カイルは初めてそれに気づいた。そこには、像が建ってあった。（以下省略）

カイルは直さまにそこへ掛け寄り、その像を間近で見る。近づいて初めて気づいたが、その像は、両手に何か丸い玉のような物を持っている。

「こんな像、前来た時には無かったのに……」

「無くて当たり前よ。この像が建てられたのは、丁度十年前、カイル達の居た時代よりも少し後に建てられた物よ」

リアラの解説に絶句するカイル。「大きいアル……」と像を見上げる神楽。そして像に近寄り、その台座に彫られた文字を読む銀時。

「……」

読んでいく内に、段々と目間に皺を寄せ、深刻な顔をする銀時。それを見て、何事かと聞くカイルと神楽に対し、銀時は首を横に振り、こう答える

「全然読めねえ…」

聞いて、銀時を除く三人が「あだー」とズッコケル。代わりにカイルが読むこととなる。

「何々、『フォルトウナ神の御降臨を祝して　フォルトウナ神団一同より』何だこれ!？」

カイルは思わず叫んでしまった。フォルトウナ神、つまりは神様なのだが、カイルはその神を知らない。しかし、カイルはそこまで世間に疎くは無いと自負している。ならば何故?とカイルは疑問に思い、リアラへ目を向ける。

「そのままの意味よ。この世界には神様がいるの。」

「え!?! だってそんな話、聞いたことも無いよ!」

「さっきも言っただろ? この像が建てられたのは今から十年前って。つまりだ、その神様とやらもそんな時に現れたって訳さ。だろ? リアラ。」

とかこんなやりとりを交わしている銀時らの横を、男女二人が通過する。

その二人をカイルがつかまり、神の有無を聞く。答えは

「そんなの当たり前じゃ無いか。あるに決まっているだろ。」

だ。その一片疑いも無い言い方が、更に銀時、カイルと神楽を驚かせる。

「ねえ、あなた。急がないと出産式に間に合わないよ。」

「ああ、そうだな。他に質問はあるか？」

と聞かれ、放心状態のカイルは咄嗟に「あ、もう無いです」と返してしまった。まだ有るのにもかかわらず。

「あなた！急がないと本当に間に合わないよ！」

「分かった、分かった。それじゃ、失礼するよ。」

と挨拶してから、そそくさ広場の北の方にある門―ストレイライズ大神殿へ向かう門―を通して奥へ入った。

「出産式か…」

男女二人を見送った―と言っても、リアラ以外は放心状態だったが―後、リアラが意味あり気に、カイルらが理解不能な単語を復唱。直ぐにカイルらを放心状態から覚醒させ（カイルにビンタ、残り二人はその音で）、提案。

「ねえ、三人とも、出産式に行つて見ないかしら。そうすれば、この世界がどう言う世界か、わかると思うから。」

と言われ、もう既に『どうにでもなれ』状態のカイルら三人は直ぐに首を縦に振り、リアラを先頭にストレイライズ大神殿に入ってしまった。

「これが彼らの常識を、根本から覆すとも知らずに」

歌舞伎町・町内会

「えーと、まずは、歌舞伎町商店街にある大量の通個を邪魔する工事用木材についてですが…」

「「「邪魔物は消えな」」」

「は、はいい！！」

と泣き叫びながら逃げる町内会メンバー。憐れ！（笑）

「で、あたしをこんなところに呼んで一体何の用だい。あたしやそんな所に木をおいた覚え無いんだけどねえ。」女帝・お登勢

「私もよ。大体今店忙しいのよ。用事があつたらサッサと済ませな。」

鬼神・マドマーゼルサイゴ

「まあ、そう言うこった。くだらねえ用事だったら、」

ここで一旦区切り、

チャキツ

と刀をすこし抜く

「タダじゃおかねえ。」

ドスの効いた声で言う。

それを言われたのは、我らが質問コーナーの主、銀八先生と、作者、次村陣八である。

まあ、ぶっちゃけ

「（助けてくれえ…）」

である。

「（おいおい、何でこんな物騒な奴らと呼んだんだよ！俺あまだ死にたくねえよ！！）」

「（仕方ないだろ！アニメ四天王編の記念にって考えたのに、まさかこんなに怖いとは…ムリ！これムリ！後頼む！）」

ガタン。座布団なのにそんな椅子を蹴り倒したような音を立て、立ち上がってそのまま百八十度回転し走り去ろうとした、がすぐに振り返った銀八に裾を掴み、それを引き止める。

「おい！俺をこのバケモンの巣に一人残して行く気が！！」

「やめろ！手を離せ！お前は俺が生き残るための足場になるんだ！

「離せえ!!」

コントを繰り広げるが、当然、隣にいる三人（鬼）には見え見え。すぐに止められる。

正座にされた二人。銀八は背後から手紙を一つ取り出し、ガタガタ震える声で言う。

「え、では。ささ、さ、最初のし、しし、質問。ペンネーム、『黒神』さん、からの質問、です。」

つつい敬語になりながら、読み上げる。

「『新八以外の皆さんへ

原作の新八もギャルゲーオタクとなっていました。

そんな新八を見て皆さんはどう思いますか？

1人ずつ感想を聞かせてもらいたいです♪』だそうです。あ、あのう、チョットでもいいですよ、何かか、感想をい、ただけ無いでしょうが、皆さん」

「仕方がないねえ。そうさねえ、あたしゃ別に若い者の趣味に口出すつもりは毛頭無いけどね、流石にそれはどうかと思うさね。」

「ええ？パチ恵がそんな物え好きになるなんて、信じられてないわ！ちょっと前まではうちのエースに成れるかもしれないのに、勿体無いわ!」

「ほう。あの時の坊主が。どうやら年を取ると小便のキレだけでなく、人を見る目も悪くなるみてえだな。」

三者三様、意味は同じだが。

「他も色々答えましたが、一言で言うところ『見損なった』らしいです。」

「で、では、また次回。」

くく舞台くく

「で、こんな事の為に。あたし達を呼んだって事だね」

コクコク

ボキボキ

ドガドガ

ギアアアアアア

次の日、銀魂高校で、パンツ一丁の上、全身腫れ上り、血だらけに成った『二人』が発見された。

第十五訓 「未来世界に集うは宗教なやつばかり」 (後書き)

次回、銀時らは新たな仲間に出会

わ無い (笑)

特別訓「第一印象ってやっぱ大事だよね」(前書き)

まさかの同日連続投稿。

活動報告での新八スペシャルです。

因みに、一番セリフが少ない回になりました。

特別訓「第一印象ってやっぱ大事だよね」

アイグレッテで銀時、神楽、カイルが四苦八苦しているゴロ、三回連続八位の志村新八らは、いきなり窮地に立たされて居た。

元々砂漠内で彷徨って居たんだ、しかも準備もなく。だから警戒が薄くなったのだろう。初めての水を発見した時はそれは大層なはしやぎ方だ。

バレ―舞者張りの回転で水源まで走り、水の中に飛び込んだ、新八とロニが。

そして水に接触してすぐ、陸に飛び戻った。熱くて。

これだけならまだ良かった。飛び戻りながら叫んだのがいけなかったかもしれない。いや、いけなかった。

ジューダスに手を煽って熱を下げてもらっている間に、『奴らを』が来た。

カニのような外見をしている生き物だ。何故カニでは無く、似ている生き物だと言うのは、それが、カニにしてはデカ過ぎるからだ。普通、カニと言うものは精々脛の半分まで。しかし是はどうだ。腰近くまで来ているのでは無いか。しかもハサミも成人男性の腕一つぐらいの長さはある。新八の腕一本ぐらいは簡単に切れそうだ。切られたくは無いが。

しかも甲羅も、日の光を反射してキラキラと光、随分と堅そうである。新八はつい、腰にさしてある竹刀の柄を強く握った。是で太

刀打ちできるのだろうか、と内心自問した。

現在、ジューダス、ロニ、新八で互いに背中を預けて、自分達を、凄惨な数―五十は有りそう―で囲んでいるこのカニみたいな生き物と対峙している。向こうは今にも、それこそ何かの切っ掛けがあればすぐに飛びかかって来そうだ。こっちはそれに対して警戒している。

それにしても。と新八は思う。

何でこんな事になるんだ!!と大声で叫びたい気持ちをグツと堪える。叫んだ直後、八つ裂きにされそうだからだ。

こんな事なら竹刀じゃ無くて、せめて木刀にすれば良かった!

しかし、世間は無情。後悔先に立たず。こんな事ならと言う事は沢山あるが、どれも仕方ない。

新八はそう割り切り、目の前の『敵』と改めて向き合う事にした。

両隣に居るジューダスとロニもそれぞれの武器―ジューダスは剣とダガー、ロニはデカイ両手用の斧―を構えており、襲撃に備えて居る。

ああ!このままどっか行ってくんねえかな畜生!!と新八は叶うはずの無い願いを持つ。

そして奇跡は起こった。

まるで新八の願いが叶ったのかの如く、カニのような生き物達は、全員、一気にズサーと引いて行き、やがて全ての地平線の向こうへ

消えた。

漠然としている新八ら。その上で紙切れが一つ、ヒラヒラと風に乗って新八の手に乗る。

それに書いて有る内容を見て、新八は額に怒りマークが現れ、紙切れをクシヤリと握りつぶす。

「おい、大丈夫かい、あんた達」

と言いながら、駆け寄る、遠く無い先に仲間になるであろう人物との、初対面に、新八は怒り顔であったのである。

手には『三連続八位のご褒美で願いを一つ、叶えてあげたよ！

B Y次村』と書かれた、ぐしゃぐしゃの紙切れ。

後に彼は語る。最悪の初対面だったのかもしれない、と。

第十六訓「親の務めは子を守ること この務めは大きくなって親を守る事」(前)

週間更新成功!!

量は少ないけど(・・・|・・・)

第十六訓 「親の務めは子を守ること この務めは大きくなって親を守る事」

銀魂十六訓

銀時は、自分の目を疑っていた。恐らく、カイルと神楽もそうだろう。リアラは、何故かそれをさも当然かのように見ていたが。

銀時らは、リアラについてストレイライズ大神殿に入ると、其処は既に人で溢れていた。

それでも、何とかして最前列を確保し、一番中に居る三人を見る。

まず、いちばんおくでたっており、こちらに顔を向けている、恐らくは神父らしき人。

その前には、こちらに背を向けて居る、一組の男女ーカイルらと話したのは違うーが、神父のすぐ前に立っている。女の方は、お腹がかなり膨らんでおり、言わずとも中に赤ん坊、それも生まれる直前が入っているのが分かる。（もっと良い表現が有ったら教えてください）

しかしそう考えると妙で有る。何故、もうすぐ生まれると言うのに、病院、は無くとも、寝てい無いのだろう。

隣でカイルと神楽もうーんと唸る。

「コレより出産式を始めます。皆さんも、静かにお願いします。」

それを聞いて、カイルが驚いてつい、静かにと言われた直後に大声

を上げて驚いてしまう。

「ええ！！うそ！！何で病院じゃ無くて、神殿で生むんだよ！！」

「ウホン！すいませんが、静かにしてもらえますか？是は大事な儀式ですので。」

「あはは。す、すいません。」

カイルは頭を掻きながら笑って誤魔化し、謝る。

それを見て、神父は続ける。

「では、前へ。」

そう言われ、女性は前へ一歩進む。

進んだのを確認し、神父は、両手を前にかざし、宣言する。

「偉大なる神、フォルトウナよ、あなたの力を借りてあたらしい命を此処に。」

その後からだ。銀時らが、バケモノを見るような目を向けた、向けざるを得なかったのは。

宣言を終えた新譜の手にいきなり光が放たれる。眩しくて目を逸らし、光が収まり、視線を戻すと、神父の手には、赤ん坊が横たわっている。産声も上げず、静かに天井を見て居るだけの、そんな理解不能な状態だった。

銀時と神楽が事態を理解しようと容量の少ない脳ミソをフル回転している、隣りのカイルは理解したらしく、また大声だった。銀時と神楽はちょっと凹んだ。

「リアラ！見た？今の！手が光ったと思ったら、赤ちゃんが寝いて、まるで手品じゃん！」

「ウホン！」

「あ、すいません。」

また怒られたカイルである。後ろで銀時と神楽がヒソヒソ笑っているのは内緒だぜ（笑）

「コレが貴方方の子供です。」

と儀礼をつづげる。女性の方も儀礼の言葉を返す。

「はい。痛みも無く、ありがとうございました。」

その後の言葉が、恐らく最も理解不能なのだろう。

「では、この子の名を『J-236』とし、六ねんの保護期間の後、貴方方の元へ帰ります。」

そして冒頭へ戻る。またカイルが先に反応し、大声で叫ぶ。

「J-236！！？何だよそれ！？それに保護期間って…」

此処で止まった。何故なら、周りがジト目でガン見しているからだ。

カイルも賢く、言われる前に謝る。良い子だ（笑）

「静かに、ですよ。あはは…」

この返答、基謝罪に満足したからか、それとも相手にするだけ損と言う事に気づいたのか、神父は残りの儀礼を終え、そこで式は終了した。

そそくさと帰る野次馬どもを背に、カイル等は教会の隅で話をしていた。

「何なんだよ、あの番号みたいな名前？それに生まれた赤ちゃんが直ぐに親と一緒に居られないって…一体この世界はどうなってるんだよ！？」

苛立って居るカイルが、荒々しく愚痴る様にして聞く。勿論、この世界の事が分かるのであろうリアラに。

「名前はそういう風にした方みんな、幸せになれるからそうしてるのじゃ無い？子供も、教団に預けて、心身ともに健康に育てる…」

「心身ともに健康な宗教バカってか？名前だってよお、幸せになんのは幕府みてえな連中だけだろ？―管理《・・》し易くて良いじゃねえか。物みたいによお。」

銀時も、相当イライラして居るのか、言葉に容赦が無い。

そんな銀時にリアラが何かを言おうとした時だ。

「管理か…良い言い方じゃ無いか。」

一人の少女の声がした。

次村陣八脳内会議

次A「では、コレより会議を始め…」

次B「ちょっと待て。」

次A「どうした、言ってみろ」

次B「此処は銀八先生の質問コーナーでは無かったのか！そのコーナーはどうした！！」

銀「そだろうがよ！てか何で俺が此処で縛られてんの！？俺ア何も悪い事はしてねえぞおい！！」

次A「では、早速本編のツツコミ処へツツコンでみよう！」

次B「F『オオ！！』」

銀「無視すんな！！」

次A「今回は一つ、即ち、何故、銀時と神楽はカイルが理解した途端、凹んだのか！？だ！答えてみろ！！」

次B「F『はい！はい！』（手を上げて居る。）」

次A「B! 答えてみろ!」

次B「バカだと思っていたカイルよりもバカ何じゃないかと思ったからです!!」

次A「座ってよし! じゃあ、銀八! コーナーを始めろ!!」

暗転 I N G

銀「ええ、ペンネーム『黒神』さんからの質問『質問します。』

カイルへ

シヤマパイを食べられる自信はありますか?

ロニへ

キヤロのジェイソ●化姿に勝てる自信はありますか?

リアラへ

二年後の神楽の姿を見てどう思いますか?

以上です。

』。オイテメェら。一人ずつ答えろ」

カ「…（腕を組んで下を向いている）」

ツンツン（銀）

ドサツ（カ）

銀「どうやら考えただけで気づつした様だな。」

ロ「ああ、勝てるさ。」

銀「え？マジでか？んなバケモノに！？」

ロ「お前はこんな言葉を知ってるか？」

銀「何だそれは？」

ロ「逃げが勝ちってな！」

銀「って逃げんのかい！！無駄に期待させやがって！次！！」

リ「うん。二年後の神楽…さん、凄く綺麗になってて、私、羨ましいと思うな…」

銀「中身は変わってねえけどな。んじゃ、また次回、さよなら。」

第十六訓 「親の務めは子を守ること この務めは大きくなって親を守る事」 (後

次回はオリジナル回。少なくともストーリー上では。

第十七訓「思いどおりになら無いのが人生」(前書き)

予定を踏み倒す事に定評のある次村です。すいません。もう絶対次回予告し無い。決めた。

では、どうぞ。

第十七訓「思いどおりになら無いのが人生」

銀魂十七訓

「管理か：良い言い方じゃ無いか。」

ビビった。銀時を含むカイル等全員が。

ま、簡単な話し、さっき銀時が言った事は、平たく言えば、この住民管理システムを考えた連中、つまり神団、延いては神ーフォルトウナーの悪口を言って居る様な物。バレれば不敬罪でそのままリアルに一物《死体》にされかねない。されなくとも罰金などの処罰は必至。いま持って居る所持金は、この世界のガルド300辺り。無理だ。

ので、緊張、恐怖、後悔など様々な感情の所為でギギギと模擬音が出るぐらい、ゆっくりと、汗ダラダラ流しながら後ろー入り口当たりーに顔を向ける。

そこには、かなりワイルドー詳しくはプレイすれば分かる！ーな服装を着込んで、背中に長弓を背負って居る少女ーと言っても、カイルよりは大きいらしいがーが門の枠に背中を預けて立っていた。

こちらが向けた表情を見て、何を考えて居るのかを悟ったのか、直ぐに

「いやね、久しぶりにマトモな考えができる奴らに出会えて、嬉しくてつい、ね。」

と付け加える。

見たところも神団の関係者でも、信者でも無いらしく、取り合えず通報はされ無さそう、と言う理由で、その少女の方へ行くカイル一行。

「オイ、お前何者アルカ？此処の住民アルカ？」

やはり信用しきれ無いのか、少し荒々しく聞く神楽。しかしそれでも余裕を持って答える

「あたしはナナリーっていうんだ。此処に住んでんじゃ無くて、カルパレイスにあるホープタウンって所に住んで居るんだよ。」

此処でカイルも自己紹介しようとしたが、ナナリーは止まらず、続ける。

「しっかし買い出しに来たんだけど、相変わらずみんなしてつまらない顔をして居るんだね。此処の連中は。」

いきなり話が変わる。しかし、皆が興味を持つ様な話題に変える辺り、流石はお妙に劣ら無い姉御肌の持ち主である。

「ホントホント！赤ん坊が生まれたのにあんなにしかけた顔してるのは始めて見たよ。もっとこう『やったぞ』と喜んでも良いのに。」

カイルもこの話題に入り込む。さすがはお妙以下略。

「神様が何でもやってあげるから、ああ成っちゃもうんだらうね。」

「許すかよ。」

突然話題に割り込んだ低くドスの効いた声。話をして居るカイル、ナナリーはおろか、自分で考え事をして居るリアラ、隣でつまらなさそうに地面のアリさんを見て居る神楽までもがビクリして銀時に視線を送る。

当の銀時は、名以外何も知ら無い、此処で神と呼ばれて居る存在に、怒り、其れもパフェ台無しにされたレベルでは無く、その遥百倍はあるであろうレベルだ。

「許されて堪るかよ。」

思い出すのは、仲間たち。

「何でかんでもやってくれる？何でも思い道理になる？冗談じゃねえ。」

攘夷戦争の時に、夷狄、天人からの解放を信じ、戦い、散って行った仲間たち

「だったら俺たちは何のために戦ったんだ！？あいつ等は何の為に戦ったんだ《死んだんだ》！！」

銀時は感じてしまう。自分の、仲間たちが戦って死んだ意味を否定されていると。だから許せなかった。こんな事を。こんな事を起こした神を。

「オイ！！聞こえているか！？神さんよオ！フォルトゥナだがウル

トラマンだが知らねえがよ、待ってろ！いつか分からせてやる！
テムエは間違ってるってな！！」

ビシッと木刀の切っ先を天井（室内）に向け、天井の向こう側の天
へ向かって言い放つ。

カイル、リアラ、ナナリーの三人はいきなり天に吼え始めた銀時に
吃驚しつつ、銀時の言った事を考える。リアラは、特に慎重な顔を
して居る。神楽は、少なからず銀時の過去を知って居る為、理解し
ている。しかし、似非太陽に吼えろをやって居るのか、それとも本
気なのかを考えている。額についている皺も、顔の真剣さから見
ても、やはり本気なのだが。

「マアマア、銀ちゃん。落ち着くアル。そんなに真剣にネタやらな
くても良いネ。」

と言われ、はっと自分の失態に気づき、「ネタじゃねえよ」と悪態
付きながら木刀を腰に戻す。

この時、カイルは何で怒ったのかを銀時に聞こうとした途端、ナナ
リーが聞いてくる。

「あんた達、もしかしてカイルとリアラと銀さんに神楽ちゃん？」

ちよっと涙が出ました。（カイル。）

次A「それでは早速、次村陣八脳内会議第二弾を始める！！打ち合わせ道理、みんなで一緒に：」

次B「カイル哀れ！！」次C「カイルガンバ！！」次D「カイル次
いってみよう！！」次E「カイルwww」（同時）

次A（；、エ）「銀八へ代わる。」

教えて！銀八先生！

銀「ザマア、ははは。え？もう始まった？もっかい始めからやらせて。」

おしえて！銀八先生！

銀「へーい。ペンネーム『sibugaki』さんからの質問。『今自分が書いてる『リリカル銀魂StrikerS 蒼炎の龍』に出てくる修羅スバルを見てどう思います？』だそうです。作者、
どうだ。」

次「良い味だしてると思うよ？ヤンデレ的な意味で。恋敵排除的な
感じで銀時を狙って居る様な。間違ってたらすいません。あ！殴ら
無いで！ブライトさんにも殴られた事無いから！」

銀「んで次はペンネーム『黒神』からの質問。『質問します。』

志村陣八さんへ

バルバロスは出てくる予定ありますか？

銀時へ

ソーディアンの剣に興味ありますか？

新八へ

コレはロニにも質問した内容ですが、美少女も美女が多くいても全然モテないどころが相手にされない世界か美少女も美女も全然存在しなくても醜女達にモテまくるところがストーリーカーに合う世界、どっちの世界が良いですか♪

神楽へ

自分も魔法が使える魔法少女になってみたいですか？

以上です。

次回もがんばってください。

』

次「バルバトスなら出ます。出て叩きのめされます。ちょっと違うかもしれませんが。期待し無いでください。あと志村では無く次村です。アイン顔は出来ません。」

銀「喋る剣にゃ興味」

もう一つの喋る剣、洞爺湖を思い出す。

『今夏休み大サービス中なのに勿体無いな。』

『必殺技を覚えれば涙目どころか目、口、鼻、体中の至るところの穴からズバリ体液を噴出させる事ができる。』

『それがお前たちの必殺技、腿パーンだ。』

銀「いや、ねえな。」

新「いや、どっちも行きたくねーよ！！そんな怖い世界！てかアンタ絶対Sだろ、このドSめ！！」

神「なってみたいアル！そうすれば酢昆布食べ放題」

銀・新「にはなれねーから！」

神「ちえっ、少女の細やかな夢を壊すとは何事アルカ！」

銀「それでは、まだ次回、ピース！」

お知らせ

お知らせ

銀「テレビ東〇さんからの大事なお知らせです、2011年7月から現在使用しているアナログ方式から地上デジタル方しきへ完全移行します。それ以降はアナログテレビでは見れなくなるので注意するように。地上デジタルアンテナを付けるなどの処置をしてから見て…」

新「銀さん」

銀「なんだ？」

新「此処はテレビ東〇ではありません（ません（ません））」

銀「そうだ。」

すみませんでした。ごめんなさいどうもすみませんでしたでも、一応コレもやりたかったネタの一つです。すみません。

お知らせ（後書き）

ホント对不起でした。

第十八訓 「過去の失態は過去の功績と同じ思い出補正が掛かる」 (前書き)

遅くなりました。
どうぞ。

第十八訓 「過去の失態は過去の功績と同じ思い出補正が掛かる」

「え？ 何でオレ達の名前知ってるの？」

またカイルが皆の考えを代弁する。実際皆気になっているし。

「いやね、この前あたしの村の近くで変な三人組がヴェバールの幼生達に襲われている所を見つけてね、「此処はどこだ」だの、「装置が暴走した」だの、「爺ブツ殺す」だのわけ分からない事ばかり言ってるね、その三人組にアンタ達の名前を教えられてね。」

「ロニとジューダスだ！」

「後ぱつつあんもいる様だな。」

「でもこなた達は居無いアル！」

「あの、その人達は今、どこに居るのですか？」

カイル、銀時、神楽、リアラの順に叫ぶのと同音量に言う。

それに気圧されながらも、しっかりと答えるナナリー。

「あ、ああ。あたしの村にいるよ。何だったら一緒に行って見ないかい？」

と誘われる。これはカイル達にとってもかなりの好都合だった。何故なら、銀時と神楽は知らないが、カルパレイスと言うのは、地図で北西に位置している、陸面積の殆どが砂漠に覆われている大陸である。

砂漠の中の街を探せということ自体、かなりの無茶である。ので、街の位置と道を知っている人と一緒にいくのはかなり、と言うより凄くありがたい事である。

しかし、それでも、自分達がついて行く事で、ナナリーにいらぬ迷惑をかけるかもしれない。この理由でカイルとリアラはついて行つて良いのか？と戸惑っている。銀時と神楽は大喜びしている。

だけどナナリーの「旅は人が多い方が楽しい」で納得した。

そしてナナリーと、何故かナナリーを姉御と呼ぶ神楽を先頭に、カイル、リアラ、銀時の順に、神殿を後にする。

他の奴らがわーいわーい言いながら出て行く中、銀時だけが、静かに、のんびりとした足取りで歩く。

外に出て、太陽の光を背中に受け、銀時は空を仰ぐ。

雲一つ、勿論だが飛行船一つ無い、まるでこの街の様に、作り物らしい、綺麗すぎる空だ。

そこでふと思い付く、先ほどの、自分の失態とも取れる「太陽に吠えろ」。少し、本当に少しだけ考える。さっきの叫びは、神とやらに届いているのだろうか、と。しかし直ぐに頭を振ってそれを否定する。

（天井が挟んでたしな。）と考えながら、銀時は先程と変わらない足取りで、目の前の元気な背中共の後を追った。

＊

今、一番やりたい事を述べろと言われたら、銀時は先ず、間違いない、パチンコやら賭け事やらをして居た過去の自分を殴りたいと答えるだろう。

何故か？金が足りないからだ。

何の？船のだよコンチキショウ！

銀時らはカルパレイスにある唯一の港町、チェリクから、陸路でホープタウンへ行くという路線を使って行こうと思っている。ので、アイグレットの東北にあるアイグレット港で船に乗り、チェリクへ行こうとした。

だがそれはできなかった。

何故か？それは船に乗るには当然、金が掛かるが、この金が今の銀時たちは持ち合わせて居無いという。

ナナリーは当初自分の行き帰りと買い出し用の金しか持って居なく、カイルとリアラも、辛うじて一人分しかない。

これでは乗れ無い。

「と言う訳で、取り合えずアイグレッテへ帰って来て見たんだけど」

「銀ちゃん、誰に向かって喋っているアルカ？ついに狂ったアルカ？」

「ちげーよ。ただ大人にはなァ、太陽に向かって吼えてエ時があんだよ。」

いや、アンタ松〇修造ですか？つか、さっき吼えたばかりじゃん。

と、新八が居ればこう突っ込んでいただろう。

改めて新八のごく僅かな重要性を認識し、みんなと一緒にどうするべきかを考える事にした。

二人がボケているが、それでも今は全員で、フォルトウナ像の下で頭を捻っている。

が、そこはこのメンバー。カイルは偶に冴える時があるが、基本バカ。銀時と神楽も、お世辞にも賢いとは言えない。ナナリーとリアは賢そうだが、やはりアイデアが無く、八方塞がり状況が出来上がってしまった。

「見事に詰んだアルな。」

「うん、そうだね…」

何処か他人事のように言う神楽と、憔悴し切った様なカイルの受け答

えの後、ナナリーが一方を指差して言う。

「ねえ、あれはなんだい？」

皆ナナリーの指がさしている方向へ頭を向ける。

そこは「バイト員募集中！！」と書かれた一枚の看板。

ストレイズ大神殿への門の影になる様に置かれた上、かなり小さい。それを見つけたナナリーを、銀時たちは聖女と間違えそうになったとか何とか。

とある脳内掲示板

1 ..名無しIn脳内..2011/09/10(土) 14:06..
00

このスレはこの作品について語るスレです。

不毛な争いは避けて、楽しんでいきましょう。

2 ..名無しIn脳内..2011/09/10(土) 14:09..
43

<<1

乙

3 ..名無しIn脳内..2011/09/10(土) 14:10..
3

2 1

< < 1

乙

しかし何を語れと

4 .. 名無し I n 脳内 .. 2 0 1 1 / 0 9 / 1 0 (土)

1 4 .. 1 3 ..

5 1

とりあえず今回の*の前後。

コレ如何考えても無理やり分けた様にしか見えんが。

5 .. 名無し I n 脳内 .. 2 0 1 1 / 0 9 / 1 0 (土)

1 4 .. 1 4 ..

0 8

< < 4

ええ！それ本当！？

6 .. 名無し I n 脳内 .. 2 0 1 1 / 0 9 / 1 0 (土)

1 4 .. 2 1 ..

2 9

< < 4 < < 5

自演乙

7 .. 名無し I n 脳内 .. 2 0 1 1 / 0 9 / 1 0 (土)

1 4 .. 2 8 ..

1 9

< < 6

そもそも脳内だから自演もくそも無いが W W W

8 .. 銀八 .. 2 0 1 1 / 0 9 / 1 0 (土) 1 4 .. 2 9 .. 5 0

.....

9 .. 名無し I n 脳内 .. 2 0 1 1 / 0 9 / 1 0 (土)

1 4 .. 4 1 ..

54

<<8

あ。

10 ..銀八..2011/09/10(土) 14..42..50

<<9

あってなんだよ!あって!

ぜってー忘れてるだろ!お前ら!!

11 ..名無しIn脳内..2011/09/10(土) 14..5

9..54

<<10

ワステテナイヨ?ホントダヨ?

12 ..名無しIn脳内..2011/09/10(土) 15..0

9..14

<<10

乙(人生的な意味で)

13 ..銀八..2011/09/10(土) 15..12..25

ちくしょう!!!

14 ..名無しIn脳内..2011/09/10(土) 15..1

4..10

<<13

まあまあ(笑)

とりあえず質問コーナーやっつけ

15 ..名無しIn脳内..2011/09/10(土) 15..1

5..01

<<13

やっとけやっとけ（笑）

16 .. 銀八・2011/09/11（日） 10 .. 32 .. 10
ツたく。

『黒神』さんからの質問だ。

『カイル、ロニ、ジューダス、リアラヘ

僕の小説のキーアイテムこと『七星神刀^{しちせうしんとう}』の中で最も興味深いものはありますか。

ティルヴィングエア・ドラグーン

ペンドラゴブレイド

ゼフィロス

カンシヨバクヤ

フラガラハ

ライキリ

エクスキャリバ

好きなを選んでみてください。

』だ。ちよっと答え書くように言ってくる。

16 ..名無しIn脳内…2011/09/11(日) 11…1
5..01
<<15

乙

17 ..名無しIn脳内…2011/09/10(土) 11…2
1..18
<<15

一日も拗ねてやがったww

18 ..銀八…2011/09/11(日) 12..04…12
言ってきた。答えを考えてから書くってよ。

<<17

うるせえ!

19 ..名無しIn脳内…2011/09/11(日) 13…3
4..58
<<18
分かった。

答えが来るまで誰も書くなよ!絶対だぞ!

20 ..名無しIn脳内…2011/09/12(月) 00…0
0..00

そして書いてみたり。

21 ..名無しIn脳内…2011/09/12(月) 00…0
5..00
<<20

狙いやがったww

22 ..名無しIn脳内..2011/09/12(月) 00..0
6..03
<<21

お前もな。そして俺もww

23 ..カイル・デュナミス..2011/09/12(月) 11..
35..19

やっと使えたぜ！

答えはティルヴィングエア・ドラグーン

風属性で俺に合うし、ドラグーンって何かかっこいい。

24 ..名無しIn脳内..2011/09/12(月) 11..
6..09
<<23

乙(いろんな意味で)

25 ..名無しIn脳内..2011/09/12(月) 14..
2..48
<<23

乙

しかしお前が一番だとは。

26 ..ジューダス..2011/09/12(月) 14..
49

僕は今のままでいい・・・と言いたい所だが、選べと言われたらカ
ンショバクヤだな。

双剣という点では慣れているからな。

だが僕はやはりシャルの方がいい。やはり長年扱ってきた方が慣れる。少々うるさいがな。

27 ..名無しIn脳内..2011/09/12(月) 14..3

2..50

<<25

だよな。てっきりジューダスカリアラが一番だと思ったのに。

28 ..名無しIn脳内..2011/09/12(月) 14..3

3..12

<<25<<26<<27

なん、だと？

29 ..名無しIn脳内..2011/09/12(月) 14..3

4..17

<<25<<27

が同一人物として、

<<26

ホンモノ？

30 ..名無しIn脳内..2011/09/12(月) 14..4

0..42

ホンモノじゃね？

31 ..名無しIn脳内..2011/09/12(月) 14..4

2..09

だよな。

32 ..名無しIn脳内..2011/09/12(月) 14..4

6..52

次は誰かな？

33 ..リアラ..2011/09/13(火) 18..12..37

私はエキスカリバが良いかな。

勝利を、幸せと一緒に勝ち取る。良いじゃない？

34 ..名無しIn脳内..2011/09/13(火) 20..2

1..02

<<33

乙

良いよね！

35 ..名無しIn脳内..2011/09/13(火) 21..0

2..49

<<33

乙

後はロニだけか。

36 ..名無しIn脳内..2011/09/13(火) 21..3

2..21

みんなで待とうぜ！

絶対書くなよ！

37 ..名無しIn脳内..2011/09/14(水) 08..1

9..51

<<36

だからそれはフラグ（ry

38 ..名無しIn脳内..2011/09/15(木) 12..3

あ 2..
56

39 ..名無しI n脳内..
2011／09／16 (金)
04..
5

い

40 ..名無しI n脳内..
2011／09／17 (土)
01..
5

う

41 ..名無しI n脳内..
2011／09／18 (日)
00..
0

え

42 ..名無しI n脳内..
2011／09／19 (月)
00..
0

お

43 ..名無しI n脳内..
2011／09／20 (火)
12..
3

3..
21

<38-42

カウント乙

しかし遅いな。

44 ..名無しI n脳内..
2011／09／20 (火)
13..
1

8..
42

もしかして忘れていたのか？

45 ..名無しI n脳内..
2011／09／20 (火)
14..
5

9..29

ありえるから怖い。

誰か！連絡を！

46 ..銀八..2011/09/20(火) 16..19..01

<<45

もう一回連絡しておいた。

コレで多分大丈夫だろう

47 ..名無しIn脳内..2011/09/20(火) 16..3

4..19

<<46

だろうと言うのが気になるが乙

48 ..ロニ..2011/09/22(木) 12..33..21

遅くなってすまん。

俺はペンドラゴブレイドだな。

豪快なほうが男らしいってもんよ！

49 ..名無しIn脳内..2011/09/22(木) 18..0

2..49

<<48

乙。遅かったな。

50 ..名無しIn脳内..2011/09/22(木) 19..1

9..28

50げと！

後は雑談でもすつか。

51 ..名無しIn脳内..2011/09/22(木) 19..4

（以下略）
何話そうか
＜＜50
2..01

第十八訓 「過去の失態は過去の功績と同じ思い出補正が掛かる」 (後書き)

おまけコーナー、コレで良いのか！

と思いついたときに30分弱悩みましたが、ネタ切れまではコレで行こうと思っます。

番外訓「迷子になったときは慌てず騒がず」(前書き)

TOD2編に入ってからずっと放置プレーを食らってたらき☆すた組とオリキャラ組の現状とかを。

番外訓「迷子になったときは慌てず騒がず」

銀魂番外編

銀時らがアイグレットで四苦八苦して居る時、此処リーネの村の近くにある森で、こなた達も四苦八苦していた。

彼女らが、源外の機関の事件によってこの森に飛ばされてから、そう経って無い時に、かがみ一番先に起きた。

起きた直後、まだはつきりして無い状態で周りを見ますと、固まってしまった。

何故なら、周りには、日本にも江戸にもない、深い森の景色が広がっていた。

暫く茫然としていたかがみだったが、直ぐにハツとなり、他の五人を揺すって起こす。

起こされた五人も、周りが深い森になって居る事に驚き、六人で目が覚めた場所のすぐ近くにあるかなり大きい木のしたで話し合っていた。

「本当にどこなのよ！此処は！」

「どこかの森の中のようにですが・・・」

「そんな事見れば分かるでしょうが！」

とかがみが小声で怒鳴る。怒鳴って居るのに、それを無理やり抑えて小声にしたような感じだ。何故抑えるのかと疑問に思う人もいるだろうが、それは時々遠方からこちらへ響く猛獣達の鳴き声で理解できる。

此処は森、それもかなり深い場所の。もし此処が日本か江戸であれば、或いは此処に居るのがこなたらではなく、銀時と達なら気にしなくても済むだろう。

しかしそう言う訳にはいか無い。此処はどう見ても日本や、日本よりも技術が発達して居る江戸で見れる様な森ではなく、加えてこなたらもそこまで強い訳では決してない。むしろ弱い方である。

確かに洞爺湖仙人から強い武器を貰っている。つかさとみゆきに渡された杖は確かに、テイルズシリーズにでてる物なら使える。しかし、つかさはこなた程ゲームをしてい無い。みゆきなんてそう言った物には手を出さなさそうである。つまりは、使えんと言っても、使う方が知らなければどうにもなら無い。

こなたから聞くと言う方法もあるし、試した。その時のこなたの説明を抜粋して見た。

「こう、ブンと火の玉が出て、敵に当たるとボウと燃える。」

もうわざとやって居る様にしか見え無い簡単すぎる説明では何もわから無い。

こなた自身に使わせても見た。本人曰くこれ以上ない位完璧なイメージでも何も起こらなかった。どうやらつかさとみゆきにしか使えない様になっているらしい。

とにかく、このなんでも使える杖は、使用者の未熟により、ただの棒切れになっていた。

これはこなたにも言える。

ガンダムの兵器を取り出せると言うが、それを、最低限操れるだけの腕前が無ければ、正直ない方がマシの時もある。

まあ、長々と言ったが、要するにだ。今のこなた達の戦力は零に等しい。そんな所で猛獣達が彷徨う森の中で大声を出してみろ。それはまさしく、ビチグソ丸と猿の大群の中に、マイク片手に翼をくださいを熱唱中の坂田銀時を放り込むのと一緒に。永遠に翼が生えなくなる。寧ろあの世への翼が生える。

「相当ヤバイ状況ですね。」

「しかりし！何とかなるかも知れないよ？」

と、こなたがかなり意味あり気に、まさにアイデアがある様なイントネーションで、これまた意味あり気に人差し指を立てて言う。

それを聞いて、この場にいる全員の視線がこなた一人に集まる。

当人はそれを確認すると、コホンと咳払いをし、アイデアを言い出す。

「だってほら、私達って、一応この話しの主役じゃん。何とかなるって！」

あ。やっぱりね。

恐らく話を聞いてた五人中、四人はこの感想を抱いていると思う。
残りの一人はこういうサブカルチャー的な物に疎いのであんまり理解できず、頭を傾げている。

しら気られていると言う事に気づいて無い本人は、今尚目を閉じ、
無い胸を張りながら、手をトンと胸に叩くと言うポーズをしている。
少しの間が経ってもなお誰も反応し無い事を不審に思いつつ、こなたが目を開けると、其処には、こちらに背を向け、歩いている一行の背中が。必死に追いました。

とある脳内掲示板

6 1 ..名無しIn脳内..2011/10/23 (日) 14..1
9 ..30
<<58

だからそれ志村○んじゃなくて加藤け○だよ！
何回言えば分かる！

6 2 ..名無しIn脳内..2011/10/24 (月) 23..0
2 ..19

お、更新してるぜ！
ちよっと読んでくる。

6 3 ..名無しIn脳内..2011/10/24 (月) 23..2
9 ..45

よし。

銀八先生を召喚ーーーーー!!

64 ..名無しIn脳内..2011/10/24(月) 23..5
1..55

銀八じゃ有りません(笑)

65 ..銀八..2011/10/25(火) 00..02..42
まだこの方式でやってるのかよ。
まあいいや。質問読むぞ。

ペンネーム『黒神』さんからの質問『カイリ・リアラ・ロニ・ジュ
ーダス・ナナリーへ

リリカル銀魂シリーズでの新八は、序盤で寺門親衛隊のメンバーで
ある軍曹から、リリカルなのはグッツを鉄の掟と言う理由で奪いま
した。

そんな新八の事をどう思いますか？

強奪の一種だと言ってもかまいませんので(黒笑)

『

相変わらずの黒さだな。

連絡しておいたぜ。ちゃんと待ってろよ。

64 ..名無しIn脳内..2011/10/25(火) 06..0
2..10

さすが黒神さん!俺たちが聞けないものを平然と聞いてやれる!
其処に痺れるッ!憧れるウウ!!

65 ..カイル..2011/10/25(火) 09..24..49
確かに酷いな。

俺がその軍曹なら奪い返すね。

66 ..ロニ..2011/10/25(火) 09..30..12

まあ、そう荒立てるな、カイル。

知らずに奪った、って可能性も残ってるぜ。

違ったら酷いけどな。

67 ..名無しIn脳内..2011/10/25(火) 12..4

4..09

お前ら早いな！

68 ..名無しIn脳内..2011/10/25(火) 15..2

7..17

まあ、既にやったことあるからな。

69 ..ジューダス..2011/10/25(火) 19..23..

10

その時の新八は組織の規則を守っただけだ。別になんとも思っていない。

その後は知らんがな。

70 ..名無しIn脳内..2011/10/25(火) 20..1

1..52

後はナナリーだけだな。待ってるぜ。

71 ..名無しIn脳内..2011/10/28(金) 09..2

0..43

あたしの村じゃみんな自分のものは自分で作ってるから、確かに酷いと感じるね。

7 2 ..名無し I n 脳内 .. 2 0 1 1 / 1 0 / 2 8 (金) 1 2 .. 2

2 .. 0 0

終わったか。

ならくく58の話題を続けるか。

番外訓「迷子になったときは慌てず騒がず」(後書き)

現実には割と残酷だったと言っただけの話(笑)
フラグを一つ立ててみた。

P S ..おまけコーナーコレで良いのか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1528m/>

銀☆魂Destiny

2011年10月24日22時07分発行